

# 卒業研究抄録集

2016年度

松山東雲女子大学

人文科学部

## 目 次

### 人文科学部 心理子ども学科

		セミ No
指導教員	小野 紳一郎	・・・・ 1
指導教員	河原 理	・・・・ 2
指導教員	小池 美知子	・・・・ 3
指導教員	小西 敏雄	・・・・ 4
指導教員	佐伯 三麻子	・・・・ 5
指導教員	塩崎 千枝子	・・・・ 6
指導教員	高橋 圭三	・・・・ 7
指導教員	坪井 良史	・・・・ 8
指導教員	直井 玲子	・・・・ 9
指導教員	西村 浩子	・・・・ 10
指導教員	野口 理英子	・・・・ 11
指導教員	増本 達彦	・・・・ 12
指導教員	森 日出樹	・・・・ 13
指導教員	安田 孝	・・・・ 14
指導教員	善本 裕子	・・・・ 15

氏名	加藤 綾華	学籍番号	J013012	ゼミNo.	1
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	世界三大童話に込められたメッセージ
-----	-------------------

### [第一章 序論]

この章では私が本研究テーマを設定した理由を述べている。アーティストの楽曲からグリム童話に興味を持つようになるとともに、大人になった今、様々な童話を見つめなおしてみようと思うようになる。本研究は子ども向けに書かれた表現を避けるため、原作を通して展開される。

### [第二章 イソップ寓話]

イソップ寓話の特徴である「物語の中に教訓や風刺を盛り込むこと」、「動物を物語の主人公にしていること」について、作者アイソーポスが生きた国や時代背景を踏まえながら考察している。

### [第三章 グリム童話]

ドイツ中から集めた物語を童話集として編集したヤーコプ・グリム、ヴィルヘルム・グリムの経歴を調べ、時代背景や童話集を出版した理由を述べている。そして調べた上で生まれた疑問である「7回もの書き換えがなされた理由」、「子どもに似つかわしくない過激な表現描写の理由」、「ドイツ国外からの童話が多い理由」を考察している。

### [第四章 アンデルセン童話]

自伝で語られる当時の心情とともに、作者ハンス・クリスチャン・アンデルセンの経歴について述べている。貧しい家庭で生まれたことによるアンデルセンの70年間の苦悩を述べ、身分社会の風刺を盛り込んだ作品や彼の実体験を元に執筆された作品を紹介している。

### [第五章 結論]

4人の童話作家が物語を世に送り出したことで、戦乱や身分社会で苦しんでいた当時の人々や社会に与えた影響について分析している。大人が童話を楽しむことで、その楽しさを子どもも知り、童話作家たちの込めた子どもへの思いを引き継いでいるであろうと推測している。更に、童話は人権、ジェンダー・フリー、弱者への<sup>いだ</sup>わり等々の子どもたちに対するメッセージが詰まった「次世代へのバトン」である。この「次世代へのバトン」を親子で共有していく環境づくりこそが、子どもの心を豊かに育てる情操教育であり、その一助となるのが古典童話なのである。

氏名	上西 李歩	学籍番号	J013015	ゼミNo.	1
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	ディズニーの魔法のかけかた
-----	---------------

【背景】ディズニー映画では始めに、ショートムービーという5~10分間程度の短い映像が映画の冒頭で流れる。ショートムービー作品の1つである『紙ひこうき』(2012年公開)という作品では、登場するその男女は一言も言葉を話すことはない。男(以下ジョージ)の心境が伝わりまるで、心の中を覗いているかのようにそれぞれの想いを観客は感じることが出来る。視覚からの伝達には異なる大きな効果があると考えられた。耳で聞く「音」だけではなかなか場面をイメージすることが難しい。そこで大きな役割を果たすのが視覚から入るアニメーションではないかと検討した。

【目的】ディズニーピクサーではどのように今の功績を築きあげ、ウォルト・ディズニーらの経験を現代のアーティストはどのように伝統として継承しているのかを探り、技術やキャラクターへの感情を吹き込み方、実際にテクニックを使用して筆者自身の芸術作品に反映すること。

【方法】そのためにアニメーション歴史を研究し、参考文献や先行研究を収集しまとめるところから始めた。ディズニーがヒットを量産する理由、ディズニーが観客の心を魅了するアニメーションを制作するうえで、どのような技術が使用されているかを調べた。ディズニーでは、「12のアニメーションの原則」という原則の内容を明らかにした。100年以上経った今、後継者(アーティスト)たちはどんな伝統を受け継ぎ、また日々変化しているのかを明らかにした。

【結論】アニメーションを観る多くの人々がそのキャラクターの感情や心境に同感視し、観客の顔に様々な表情が生み出され、親しみを感じられる理由は、アニメーションが観客の感情にアクションを起こしていた。ストーリーテリングとは被写体に独自の特徴を捉え、物語を伝えることを指す。人々の心を魅了するこの技法には、「12のアニメーションの原則」があり、クリエイターたちに徹底することでディズニーならではのアニメーションの個性が出ていたのだ。伝統については、ディズニーアニメがヒットを量産する理由としても述べることができ、新しい伝統を作り出すために現代の変化を混ぜ合わせることで観客が、自己投影できるような物語となっていた。以上のことから、ストーリーテリングを混合させ、「12のアニメーションの原則」を中心にアニメーションと組み合わせれば、よりダイナミックでストーリーが読み取りやすくなる。更にアーティストたちが意見を交わし、試行錯誤を繰り返すことで、より良いストーリーを築き上げ、個人の手柄として認識するのではなくチームワークとしてディズニーアニメーションが最高に面白い作品が生み出せればいいという考え方や工夫などが、観客を魅了し続けてきた理由であると結論づけた。

氏名	楠橋美春	学籍番号	J013019	ゼミNo.	1					
テーマ	児童虐待の社会問題化一年々増え続けている児童虐待—									
はじめに										
大学で社会的養護の講義を通して児童虐待について学んだり、新聞記事やニュースなどでの児童虐待に関する報道を日常でよく目にしたりすることから、児童虐待に関して大いに興味を持つようになったため、研究テーマとして選んだ。										
第一章										
日本の児童虐待問題はどのように移り変わっているのか、児童虐待防止法の歴史について調べる。実際に起こった児童虐待事件の報告書をもとに、虐待を行った者の生育歴、事件に至る経緯、警察や児童相談所の対応などを通して、どうしてそのような虐待問題が起こってしまったのか、原因を分析して考察していく。										
第二章										
児童虐待がどのようにして社会問題化していったのか、児童虐待事件に関する報道が世間の人々の社会的関心の高まりを強くしていることから、児童虐待と報道の関係性を述べていく。										
第三章										
児童福祉施設をはじめ、地域の人々に広がりつつあるオレンジリボン運動について、どのような活動をしているのか目的について述べていく。また、「児童相談所における児童虐待の取り組みの実態に関する調査」をもとに、児童相談所が現在抱えている問題点について述べて考察していく。										
第四章										
松山東雲女子大学で実際に行ったオレンジリボン運動の活動について、考察と一緒に述べていく。児童虐待予防のために、早期発見・虐待後の親子のケア、そして、児童虐待問題を減らしていくために、児童相談所や警察・地域の人々が積極的に動いていくことが重要であることを述べていく。										
結論										
保護者や子どもに対するアセスメントを強化することや、予防のための支援を行う上では、援助の対象となる保護者と子どもの人格や行動の特徴を理解し、虐待に至るメカニズムについて認識を深めることが重要である。										
虐待後の遅すぎる支援、そして、傷を癒せないまま社会に送り出さないといけないということが現状の課題としてある中、地域や家族を支援する機関のシステムを確立し、親だけの責任でなく、社会が責任を持って子育てをするといった社会的子育ての思想感をもって広めていく必要がある。施策としては、児童福祉司をはじめ、心療内科医、小児科医、保育士などを置いて、地域の中に子育て支援のための相談する場を設けるようにする。										

氏名	新野 由貴	学籍番号	J013026	ゼミNo.	1					
テーマ	<p>「バルーンアートについて」            人々の心にもたらすバルーンアートの効能</p>									
<p>現在、日本社会でもバルーンアートは広まりつつある。最近では、バルーンアート教室を行う専門会社やパフォーマーの数も増え、バルーンアートに親しみを持つ人も増えてきている。また、インターネットの普及により入手方法も手軽になり、バルーンアートに興味を持つ人も増えてきた。しかし、まだバルーンアートを知らない人やバルーンアートを利用したいけれどお金がかかるので利用できないという人、入手方法や利用方法が分からぬという人などもおり、身近な存在とは言えないだろう。</p>										
<p>著者は、本校で2年間バルーンアートサークルに所属し、保育所、児童館、地域のイベント等でバルーンアート活動を行い、パフォーマンスや体験活動などを通してたくさんの笑顔に出会ってきた。今後もバルーンアート活動がより一層人々に感動を与える活動として用いられ社会に広まっていくことを願っている。</p>										
<p>本研究では、第1章では、「バルーンアートとは」という名目でバルーンアートという言葉から読み取れる、バルーンアートの本来の意味について読み取っていく。バルーンアートのアートという言葉には「芸術・美術・技術」という意味があり、バルーンアートもこれらの意味を満たしている存在であるということが分かった。</p>										
<p>第2章では、「バルーンアートの歴史」という名目で、バルーンアートとバルーンの歴史について述べていく。バルーンアートは30年ほど前にアメリカで広まったのが始まりだとされており、歴史はまだ浅いものだと思われる。しかし、バルーンアートに用いるバルーン（風船）というものは、日本社会においても伝来してはや150年ほどが経過し、長い間人々に親しまれてきた存在なのである。</p>										
<p>第3章では「バルーンアートに用いるバルーンについて」という名目で、バルーンの材料、製造工程、生産状況、バルーンアートに良く用いられるバルーンの種類とその特徴、また、利用するにあたってバルーンが割れる理由と対策について述べている。</p>										
<p>第4章では「バルーンアートの活用と効能」という名目で、筆者が大学の活動で行ってきたバルーンアート活動の様子をもとに考察を深め、バルーンアートの役割について述べていく。また、第2節では、高齢者の「バルーンリハビリ」の考案者である大石亜由美氏の考案をもとに、バルーンアートまたはバルーンの活用方法と人々にもたらす効能を述べていく。</p>										
<p>本研究を通して、バルーンアートは他にはないような特殊な素材であり、見たり、触れたり、造形したり、撮影したり、贈り物にしたり楽しみ方も豊富であるという事が分かった。バルーンアートは、見る人にとっても作る人にとっても共通の楽しみを見出すための魅力的な素材だと検めて感じた。この論文を読んでバルーンアートに興味を持つ人が少しでも増えることを願う。</p>										

氏名	玉城 仁菜	学籍番号	J013029	ゼミNo.	1
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	沖縄、その被害と差別の歴史について
-----	-------------------

## 第1章 はじめに

本研究は、『沖縄、その被害と差別の歴史について』をテーマに、「沖縄」の琉球王国時代からの歴史から日本や他国との関わりを中心に調べ、沖縄がこれまで受けた「被害」と「差別」について考察をしていく。また、歴史を辿りながら基地問題や環境問題などの現在沖縄が抱えている問題、更には沖縄の望ましい在り方について考察していきたい。

## 第2章 琉球とヤマト～琉球王国時代～

沖縄は、かつて琉球王国と呼ばれ一つの国として存在していた。琉球王国と日本（ヤマト）の関係は17世紀にはじまり、琉球王国は中国と日本（ヤマト）の国交の懸け橋として位置していた。「琉球」という独立した国と日本であったが、江戸時代に入り薩摩藩が琉球を侵略したことで格差が生じ、琉球は日本国に翻弄され始める。

## 第3章 沖縄と日本とアメリカ～第2次世界大戦～

第2次世界大戦では、沖縄にアメリカ軍が上陸する。当時沖縄県では、アメリカ軍に殺害されるほか、集団自決など様々な形で多くの民間の人々が亡くなつた。戦後も、沖縄県は日本から切り離され、「日本であつて日本でない沖縄」の状態が続いた。米兵及び米軍属の基地関係者等による事件・事故も多発し、沖縄県住民の人権は無視され続けていた。

## 第4章 基地問題の後遺症

現代における沖縄の抱える問題について述べている。祖国復帰後、人権侵害から解放された沖縄であったが、米軍基地が減少されることとはなかった。現在では、米軍基地の約75%が沖縄県に集中している。さらに、普天間基地移設問題では、住民の意見を聞き入れることなく米軍と日本政府主導で、半ば強引に辺野古沖への移設の準備が進められている。

## 第5章 結論

第2章から第4章で述べたことから総合的に考察を行い、沖縄県は琉球王国の時代から日本の支配下・占領下として扱われ、差別的扱いを受けていたことが分かった。また、本研究を通して新たに知ることのできた「沖縄の真実」から、望ましい沖縄の在り方として、米軍基地の県外移設や本土の人々の「日本の一部としての沖縄」という意識の大切さを述べている。

氏名	二宮 未有	学籍番号	J013033	ゼミNo.	1
テーマ	近年の教育的課題と現状について				
<p>第一章では目的と方法について述べる。近年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しており、それによって子どもたちの教育に関する様々な課題が生じている。私はこのような子どもたちを一人でも救う方法は何か、今後の教育はどうすべきなのかを参考文献を基に考えてき述べる。私が実際に児童養護施設や児童自立支援施設、幼稚園や保育所に実習へ行き、感じたことや学んだことが多くある。これらの経験も踏まえ、考察し結論を導き出していく。現在や未来の子どもたちを守っていくためには、現在の子どもたちを知り、そしてその課題について熟考する必要があると考える。3つの章に分け現在の子どもたちの現状や課題を明確にしていき、結論でその対策について述べる。</p> <p>第二章では5節に分け、近年の教育的課題とその背景について文部科学省や厚生労働省のデータを用いること、実習先での出来事を踏まえ、結果から考察をしていく。第一節 いじめ問題について、第二節 不登校について、第三節 特別支援について、第四節 虐待について、第五節 体力の低下について述べ考えていく。</p> <p>第三章では、結論を述べる。第2章より、時代の変化により幼児童教育に様々な課題が生じたのだと考える。携帯電話やゲームなど様々なデジタル機器類に溢れた便利な時代に変化した分、直接的な人ととのつながりが減少した。共通して言えることは周囲とのコミュニケーション不足、また連携不足が挙げられる。子どもたち一人一人が健康に立派に、輝いて生きていくためには、子どもを取り巻く環境を整える必要がある。子どもたちを取り巻く環境を整えるためには、子どもに関わるあらゆる人々や関係機関との連携が欠かせない。身近にいる子どもたちをもっとよく知り、迅速に対応が可能である地域の方々との連携、子どもに関連する専門的な知識を持つ機関が連携することで子どもたちの現状を把握し、子どもを救うことや平穏な日常守ることに繋がるのではないかと考える。近年の教育的課題を明確にすることで自分たちのこれから課題を見出すことができた。未来の子どもたちを育てていくのは、これから社会に出ていく自分たちである。生きている人々全体が協力し合い互いを思い合い、「思いやりの心」を大切にし、またそのような思いやりの子どもを育てていくことが更なる今後の教育的課題であるとし結論とする。</p>					

氏名	萬代悠里 山本理恵	学籍番号	J013042 J013047	ゼミNo.	1
テーマ	「スタジオ地図」作品から見る家族の必要性				
<p>「スタジオ地図」（以下、「地図」）が制作するアニメーション映画には、必ずと言っていいほど親が出てくる。ここには、監督である細田が「スタジオ地図」を設立した時に決めた思いが、関係しているように感じる。「スタジオ地図」の作品には、多くの異なる形、捉え方の家族が描かれている。例えば一人親家庭や養子を迎えての家族、親戚全員が家族という考え方などだ。</p> <p>「地図」のどの作品にも、家族同士が衝突することはあった。しかし、最終的にはお互いのことを思い行動し、協力することで様々な困難を乗り越えようとしている姿を、細田は強調している。この点からは、家族という存在の大切さと必要性を感じることができるのでないだろうか。「サマーウォーズ」では、栄という親戚をまとめられるような大きな存在もあり、親戚だけでなく主人公の健二とも協力をして、困難に立ち向かうことで強い絆を得ることができた。「おおかみこどもの雨と雪」では、周囲の人々の温かさが伝わることで、子育てを1人で抱えなくてもいいこと、母親の強さが伝わることで、母親の大切さを感じることに繋がるのではないだろうか。「バケモノの子」では、産みの親と育ての親の選択について考えることができた。結果的にこの作品では、どちらも選んだことにはなるのだが、どちらを選んだとしても、本人が幸せなのが一番ということを細田は訴えているように感じる。また、どちらかがいるからこそ、心の支えとなる存在に出会うことができる。</p> <p>これら一連のスタジオ地図の作品を通し、二つの共通点を見出すことができた、先ず一つ目は、スタジオ地図作品における女性たちである。周囲を惹きつける元気で活発な魅力を持っている。誰かが大切な決断を迎えるときに、その人物を導き後押しする力を持っている。もう一つは、各作品には、一生懸命に頑張っているキャラクターがいるということである。一生懸命な人を見ると、自然と応援したくなるという心理を突いた作品だからこそ、人々を引き込む魅力の一つとして働いているのだと思う。</p> <p>現代社会の家族について、核家族が増えていった背景や、父親の育児休暇の取得率を見ながら考えることで、現代の母親が感じているであろう他人に頼りづらいということや、夫婦間での育児にかける時間の違いを感じることができたように思う。</p> <p>この研究を通して、私たちは、家族というものは本当に様々な捉え方があり、沢山の人に支えられて成り立っているということだ。そして、どんな人にも家族とは大切な存在で、なくてはならないものだと分かった。</p>					

氏名	山田 未来	学籍番号	J013045	ゼミNo.	1
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	化粧の歴史と未来
-----	----------

## はじめに

現在、筆者は大学へ通う時も友人と出かけるときもアルバイトをしに行くときも、ほとんど毎日と言ってよいほど化粧をしている。毎日の生活になくてはならない存在の化粧。では、その化粧の文化はいつからどこで始まったのか。ここまで化粧が浸透したきっかけは何なのかなどについて研究をしていく。

## 第1章 化粧の起源

化粧の出現の最初は、紀元前3500年頃の古代エジプトにおける目の化粧であるといわれている。化粧とは「顔を美しく見せる手段」といった今の時代の意味とは異なり、「身を守るもの」として行われたものが最初である。その意味合いとして、「体の穴から悪魔が体内に入ることを防ぐため」や、「不幸や病気を生じさせる邪眼をそらせるため」というものが挙げられる。また、社会的地位や宗教的なものを表すためや、太陽の強い日差しをよけるために行われていたのである。

## 第2章 海外での化粧

日本と同じアジアの国における化粧の実態をいくつかピックアップしてみていった。まず初めにインドにおける化粧の歴史と現代についてみていった。インドでは宗教的な面で化粧にも影響している部分も多い。次に美容大国といわれる韓国における化粧の現状であるが、韓国では独自の化粧法をどんどん生み出している印象を受けた。最後に現代における中国人の化粧についてである。中国ではあまり化粧をするという文化がないようで、社会的な風潮から、化粧をしっかりとすることで「だらしがない」や、「不真面目」という印象になってしまうのだ。

## 第3章 日本での化粧

日本の化粧の歴史について学びを深めていった。化粧という文化は、海外から持ちこまれ、7世紀後半から次第に日本に浸透していった。平安時代の中期からは日本独自の化粧方法として変化していった。このころは、まだ一般人は化粧をしておらず、主に貴族たちによって白粉や紅、お歯黒や眉化粧というものが行われていた。

## 第4章 今後の化粧の在り方

身を守るための手段として始まった化粧は、今では「相手」とコミュニケーションをとるための手段として変化しているように筆者は分析している。しかし、しっかりとした化粧法やマナーが浸透していかないと、「化粧は良いことではない」という考えを植え付けてしまう。「化粧をすると良い影響がたくさんある」というようなプラス思考が増えていく事を願いたいと思う。

氏名	渡部沙也夏	学籍番号	J013048	ゼミNo.	1
テーマ	映画『風立ちぬ』における「生きねば」を読み解く				

## 第一章 はじめに

なぜ宮崎駿監督（以下、宮崎）が『生きねば』にしたのかを私は映画を鑑賞した時にはわからなかった。そのため、私はこのテーマを選び、モデルとなった堀辰雄（以下、堀）の小説「風立ちぬ」と堀越二郎（以下、堀越）の設計した旧日本海軍戦闘機である「零式艦上攻撃機」（以下、零戦）からその真意を読み解いていった。

## 第二章 堀の小説「風立ちぬ」

この小説は自伝でもあり、堀自身の目線から話が展開する。結核に侵された恋人の節子の闘病生活を堀が支えるが徐々に弱る節子に対する哀れみを隠しきれず、節子は自分が幸福であることを何度も伝え堀を支える。そして節子が亡くなって初めて、共に過ごした時間が幸福であったことに気づく。また、愛する女性を二度も殺さないように、堀の記憶の中で生き続けられるように堀自身が生きていく事を誓う。

## 第三章 堀越の作った零戦

堀越は、いつでも搭乗員の目線になり、楽に運転できる「生かす」飛行機を作りたかった。日本は世界の飛行機技術から大きく遅れがあったにもかかわらず、それに並ぶことができた零戦は犠牲となった防弾性能や最終的に特攻として使われたために、数多くの人が亡くなった。技能で補えるとされる防弾性能が裏目に出で最終的には「搭乗員を殺す」飛行機に代わってしまったのである。

## 第四章 映画『風立ちぬ』の中での堀越から堀を見つける

映画のシーンの場面それぞれに迫り、堀と堀越どちらの場面を使っているのかを考察していった。戦争に関わる堀と関わらない堀越この二人をどうして戦争の映画で重ねて描くことができたのだろうか。それは愛する女性と愛する飛行機に人生を捧げることとどん底に落ちた気持ちを奮い立たせ、生きたという共通点である。

## 第五章 「生きねば」とは

これまでのスタジオジブリの作品には主人公目線のテーマが多かったけれど、この映画は主人公目線の「生きねば」だけではなく、この映画に出てくるすべての人の「生きねば」が詰め込まれているのである。

## 第六章 おわりに

今日は死に関するニュースが絶え間なく流れるほど、死に密接している。コンピュータゲームの発達から死ぬことがあまりにも簡単に思えてしまうのである。それに対して、宮崎監督は若者に警鐘を鳴らしているのではないかと私は考える。人と人との繋がり、死の在り方をもう一度考え直す機会をこの映画の中に設けられているのである。

氏名	山本美音	学籍番号	P013039	ゼミNo.	1					
テーマ	水引が結ぶ歴史と文化									
<b>第一章 はじめに</b>										
<p>卒業論文の研究の中で四国中央市を訪れた私は、そこで見た水引の展示に強い興味と関心を持った。本研究では水引の歴史と文化、地域特産品としての側面を紐解くことで、水引が日本に浸透した経緯と自己見解を述べることを目標にしている。</p>										
<b>第二章 水引のルーツと歴史</b>										
<p>水引の起源は飛鳥時代にまで遡り、当時隋に渡っていた遣隋使が帰国の際に、使者から渡された贈り物に紅白に染め上げられた麻紐が掛けられていたことが発端だと言われている。この麻紐には長く危険な船旅を経て自国を訪ねてくれた使者が、無事に帰還できるようにという帰路の海上の平穏を願う意味が込められていた。その後時代の中で水引の文化や作法が出来上がっていかが、贈り物に願いを込めるという根幹は飛鳥時代から存在していたと考えることができる。</p>										
<b>第三章 日本の文化と水引</b>										
<p>水引と日本の文化との間に生じる親和性の要因として、水引というそもそもの名称と「結び」の文化が深く関係していた。古来より水は不浄を清め、穢れを浄化するものだと考えられていた。また、日本において何かを結ぶという行為には強い意志と願いが込められているとされ、贈り物に水引を結ぶ行為は儀式めいたものとされ一般的な贈り物とは一線置いたものとされていた。</p>										
<b>第四章 愛媛県と水引文化</b>										
<p>伊予の水引は長い歴史の中で日本有数の水引になるとともに、時代によって変化していくニーズに答えることによって、伝統的な様式美と目新しさを兼ね備えた地域特産品へと成長を遂げた。そこには地域で培われた伝統を守りながらより良いものを作ることで、水引を未来に残していきたいという願いが込められていたのだろう。</p>										
<b>第五章 新たに結ばれる水引文化</b>										
<p>本章で記述する水引アレンジ、水引アクセサリーは水引の結び方を色の組み合わせを工夫し、花などのモチーフを作るハンドメイドのことを指す。水引の特性を活かしたこの新しい文化は水引の今後の発展に強く関わっていくことだろう。</p>										
<b>第六章 まとめ</b>										
<p>本研究によって私が導き出した見解は「水引は長い歴史と人々の生活の変化の中で、その使用途や役割を多様化してきたが、人と願いを結ぶという根幹は今も変わらずに残っている」ということだ。水引の優しくも美しい根幹は私たちの文化や生活の中でこれからも愛されることだろう。</p>										

氏名	加治 牧紗	学籍番号	P013009	ゼミNo.	2
テーマ	夢について				

人は人生を通じて様々な夢を見ている。子ども時代に見る夢、青年期に見る夢、中年になってみる夢、人々は幼い頃から夢の不思議さを体験している。

夢が自分自身の不安や欲求不満を表すことに着目したのが、ジークムント・フロイトであった。その中で特に彼はそれまでほとんど考察されていなかった無意識に注目し、あらゆる人間の振る舞いの背後に無意識という心理的メカニズムが働いていると考えた。無意識が現実化するものとして彼は、自由連想や失錯行為をはじめ、いくつかの例を挙げているが、本稿では紙幅の都合上、とくに代表例として夢分析をとりあげた。

フロイトは様々な無意識の現れを解釈できると考えた。『精神分析事典』にはこうある。「夢、言い間違い、失錯行為、一連の無意識の形成物、さらには種々の症状は解釈されうるのであり、それらは顯在的な意味と異なる潜在的な意味を隠している」という考えは、S.フロイトによる人間主体の認識に対する主要な貢献のひとつであり、また治療における分析家による決定的な行動の諸様態のひとつである」。

人間であるわれわれは歴史を積み重ねていくが、すべての経験を、物語の中に位置づけることはできない、と R・S・スティールは述べている。失われた物語を取り戻すためには、「語られざる物語の大倉庫」に下りてゆく必要がある。この「大倉庫」こそが無意識であり、ここから夢は発露する。

フロイトは『夢判断』(1900)において、夢の源泉を示す言葉として「夢は五臓六腑の疲れ」という言葉をあげている。夢は睡眠がなんらかのものに妨害された結果生じるものだということだ。つまり、意識でどうにもならないものによってわれわれは夢を見させられているのだ。こうして夢の源泉は神的であるもの、魔力的な力のようなものとしてわれわれの外部にあるものではなく、それはわれわれの精神の中心にあり、心の中心にあるものとされた。

現在でも謎が多く残っている夢について、フロイトは解き明かせると言ったが、その全貌は実際に完全には解き明かされることは叶わなかった。フロイトが切り拓いた無意識の領野はまだ、充分に研究しつくされたとは言えないだろう。人間存在が意識的なふるまいすべて決定されるのではないとしたら、やはりわれわれは、無意識、夢といったものを無視することはできないであろう。

氏名	竹内 香乃	学籍番号	P013023	ゼミNo.	2
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	コーヒーが彩った歴史
-----	------------

## はじめに

コーヒーは昔、どのように飲まれていたのか。我々はありがたみを忘れてはいな  
いだろうか。日本は現在コーヒー消費量世界第4位である。どのような歴史をたど  
り、日本が現在のようなコーヒー大国になったかを考察していく。

### 第1章 コーヒーの歩み

日本にコーヒーが初めて輸入され、長崎の出島で一部の人に飲まれていた。しか  
しコーヒーはなかなか普及せず、なじまなかつた。開国後に外国人との交流が深ま  
り、ようやく徐々にコーヒーは飲まれ始める。初めてのコーヒーの味に戸惑う日本  
人も多かつたが、飲み慣れるにつれ、おいしいものだと認識するようになった。こ  
うして広く社会に浸透していったのだ。

### 第2章 コーヒーが生まれる土壤

コーヒーが急に飲まれるようになった要因のひとつとして、喫茶店の設立があげ  
られる。日本で本格的なコーヒー店ができたのは、1888年「可否茶館」である。こ  
れを皮切りに、日本で多くのコーヒー店が生まれてゆく。1920年代には、「カフェ  
ーパウリスタ」が安価のドーナツ付きコーヒーを提供したため、コーヒーは急速に  
人々に親しまれるようになった。

### 第3章 コーヒーブーム

パウリスタにより、コーヒーは人気の飲み物となった。しかし戦争により輸入量  
が落ち、コーヒー受難期に入る。戦後にはカフェ文化が再来し、戦後復興に向け活  
気づくようになった。1960年にはコーヒーの輸入が完全に復活し、誰もが当たり前  
にコーヒーを飲めるようになり、第1次コーヒーブームが起きた。その後第2次の  
ブームが起こるのが、1996年のスターバックスのオープンである。

### 第4章 第3のコーヒーブーム

現在、第3次のブームが起ころうとしている。そのきっかけがブルーボトルコー  
ヒーである。フェアトレードの有機栽培豆を使用し、48時間以内に焙煎した豆のみ  
を使い、1杯ずつ丁寧にいれたコーヒーがブームの引き金となっている。こうして  
いくつかのブームを経て、現在の日本ではコーヒーが生活の一部となっている。

## おわりに

フェアトレードのコーヒー豆について第4章で論じたが、これは消費大国の日本  
が考えなければならない問題である。それは生産背景を知り、人と社会、地球環境  
のことを考慮した商品を購入し、消費するエシカルな運動に発展する。人は、日々  
の買い物を通じて実は世界に影響を与える力を持っている。フェアトレード運動や、  
エシカルな消費広まれば、世界は変わるかもしれない。

氏名	田安麗羅	学籍番号	P013028	ゼミNo.	2
テーマ	宮崎駿の女性像				

## はじめに

宮崎駿の作品の特徴として、出てくる女性達の活躍が活発であることがあげられる。しかし、ジブリ設立当初の日本は、男女の役割分担について旧来の考え方方が根強く残っていた。そういった中で、彼の作品がどのように受け入れられていったのか、彼の描く女性達に焦点を当ててこの問題に取り組んでいく。

## 第1章　日本人のジェンダー観

「男が働き、女は家庭を守るべきだ」という男女の性別役割分業観に反対する人は、1977年で31.7%、1992年で55.2%、2002年で68.5%と徐々に増えてきている。意識の変化は、メディアや娯楽などに反映されやすいものであるため、CMを追うことでの過程を確認した。これにより、1980年代後半以降、家事をする男性、働く女性の姿が増え始め、日本のジェンダー意識が変化していることが分かった。

## 第2章　『未来少年コナン』でのヒロイン像

宮崎の理想の女性像の原点とも言える『未来少年コナン』を考察すると、宮崎が助けられるだけのヒロインを好ましく思っていないことが分かった。しかし、この当時はまだ時代の制約が強く、自らが望む女性像を描き切ることができず、本作のヒロインは、最後は助けられることになる。

## 第3章　スタジオジブリ設立後の女性像

本章では、スタジオジブリ設立後に宮崎が製作した7作品から、その女性像の変化を考察した。その結果、『天空の城ラピュタ』では、ヒーローと共に戦い、『となりのトトロ』では、ヒーローを必要としないヒロインが描かれていた。『紅の豚』では、主人公でないが活発で聰明な女性達が登場している。この作品から、彼の作品のもう一つの特徴である「少女一年長女性」の図式にも触れた。『もののけ姫』では、女性達が男性達を肉体的にも、精神的にも引っ張て行く姿が顕著に現れている。大ヒットとなった『千と千尋の神隠し』では、その世界の絶対的存在である女性が、どの男性達よりも強く大胆に描かれている。『崖の上のポニョ』と『風立ちぬ』は、宮崎が人々を教導する必要がなくなったため、女性達は後景へと退くが、弱弱しく描写されることはない。

## おわりに

宮崎作品が日本で受け入れられてきた過程は、宮崎が描くヒロインと日本人が持つジェンダー意識が合致していくプロセスと重なっている。彼の持つ女性の理想像は、自らの力で困難を乗り越える女性である。現実では、独力でそのようにふるまえる女性はいないだろうが、日本人はこうした理想像を意識の上ではしっかりと受け入れられている。

氏名	中越詩歩	学籍番号	P013030	ゼミNo.	2
テーマ	時代と共に移りゆく優生思想				
<p>優生学とは、人間の資質を「優秀なもの」と「劣悪なもの」の二通りに分け、前者を増進させて後者を減退させようとする考えである。本稿では優生学の起源を探り、アメリカ、ドイツ、日本の歴史について調べまとめた。優生学とは本来遺伝形質にのみ焦点を当てるものだが、歴史を振り返ってみると、非遺伝形質にも当てはめられていることが分かった。ここでは、遺伝と無関係の領域にまで拡張されているものを「真」の優生学と呼んだ。</p> <p>優生思想の起源は古代ギリシャのプラトンだとされる。そして19世紀に入るトイギリスの科学者ゴルトンによって初めて優生学という学が生まれた。イギリスから始まったのだが、最初に優生思想が大々的に実践されたのはアメリカであった。そこで行われたのが断種法(1907)であり、移民制限法(1924)である。後者の成立には、恣意的に用いられたIQテストが大きな役割を担った。</p> <p>国家規模で行われる優生学は、ドイツで更に権力者の都合の良いように用いられることになる。それがナチスによるユダヤ人に対するホロコーストだ。ここに至って優劣の対象は人種の問題にまで広げられた。これは優生学の歴史の中でも非常に衝撃的な出来事であり、二度と繰り返してはいけない過ちだ。</p> <p>日本では現在母体保護法という法の下、経済的理由の名目で胎児に障害が見つかった場合に中絶が行われることもある。そうした中で新型の出生前診断が試験的に始まった。毎日新聞によると、この新型出生前診断で異常が出た人のうち96%が中絶を行っている。この結果を見れば、優生思想は今も多数の人間の心の中にあるといえよう。だが、事態はそれほど単純なものなのだろうか。胎児に障害があると診断された母親は、子育てに不安を感じるだろう。母親が障害児の社会的支援情報を十分に知らないために、ネガティブになり中絶を選択してしまうことも考えられる。もし障害児への社会的支援情報などが分かりやすく開示されていれば、中絶率をある程度下げるのも可能ではないだろうか。また、この数字が公表されたことがきっかけとなって議論が活発に行われれば、返って逆の効果を上げるかもしれない。なぜそれほどまでの数になったのか、その数を減らすことはできないのか、できるとすればどんな方法があるのか。こうした議論を経て障害者への理解が深まり情報が広く知られれば、差別意識が薄まる可能性があるからだ。そうすれば、出生前診断の意味も変わってくるだろう。と同時に、我々の内なる優生思想も。</p>					

氏名	秋山 紗帆	学籍番号	J013002	ゼミNo.	3
テーマ	モンテッソーリ教育における子どもの主体的な取り組みについて				
<p>モンテッソーリ教育における幼児の主体的な取り組みについて検討をおこなっていくなかで、筆者が実際に実習に行ったモンテッソーリ教育を行っているW幼稚園での事例をもとに、主体的な子供の姿はどう引き出されているのか、また、モンテッソーリ教育における影響はどのような場面にみられ、子どもの主体性にどう結びついていくのかについて検討した。</p> <p>研究の方法としては、筆者の実習先であるW幼稚園では、主にモンテッソーリ教育を取り入れている。そのため、子ども一人一人が達成感を味わい、充実した時間を作るためにはどのような配慮がなされているのか、W幼稚園での実習の際に環境と子どもの関係や、子ども同士のかかわり、子どもと教師の関わりから見受けられた事例をもとに考察をした。また、モンテッソーリ教育についての文献を読み解き、モンテッソーリ教育についての仕組みを理解した上で、子どもが主体的に活動できる環境とは何なのかについて自分なりにまとめ、今後の自分の教育観を検討した。教育実習期間中には、幼児や教師、それらを取り巻く環境について、子どもの主体的な取り組みについての研究の参考になりそうな事例を収集し、考察していく。特に事例検討の視点として、モンテッソーリ教育の特徴である「縦割り保育の関連事例」「幼児を一人の人格としてとらえる精神が尊重されている事例」そして「総合考察」に分けて幼児の発達について検討した。</p> <p>結果としては、モンテッソーリ教育が掲げる4つの教育環境のうち、抽出できた事例は、「社会性・協調性を促すための、3歳の幅を持つ異年齢混合クラス編成。」「子どもそれぞれの発達段階に適した環境を整備し、子どもの自己形成を援助する教師。」に関連するものであった。子どもと日常生活を共にすることを通して、今回の研究で感じたことは、多くの子どもが思い思いに自らの成長に集中し、のびのびと生活をしているということである。そして、いわゆる支援を要する要しないにかかわらず、あらゆる子どもが日々の園生活の中でそれほど目立っていないということである。加えて、何らかの困難を持っている子どももそうでない子もみんなに等しく、モンテッソーリ教育の基本の姿勢で関わっていくことで目の前の子どもの姿は歴然と変わっていくと感じた。</p> <p>目の前の子どもを1人の人格者として捉えていくことや、興味を持ったことに対する子どもの集中を途切らない配慮をしていくことを、どの子にも等しく日々積み重ねていくことで子ども自身の自己の肯定につなげができると思った。これがモンテッソーリ教育の良さであると思う。子どもを主体的に捉えていくということに集中することによって、幼児のあらゆる可能性が広がっていくように考えられた。</p>					

氏名	居村理沙	学籍番号	J013005	ゼミNo.	3
テーマ	3歳児から5歳児への遊びの発達の道筋				
<p>幼児期の生活の中で遊びというものはとても大切な時間である。何気ない遊びという行動が、精神面での成長や、心身の成長につながっていく。子どもたちは遊びの中で、周りの幼児たちとかかわりそこから友達同士のかかわりや、道具とのかかわり方を学んでいく。遊びを展開し、友達とかかわるためににはその環境の構成というのも大切になると考える。周りの物に興味をもったり、どのように使うのかと疑問を抱いたりしながら積極的にかかわっていくことで、性質や特徴をつかみ、それをこれからの生活で生かしていくことにつながる。そして、その環境を作るためには教師の配慮が必要になる。子どもたちが興味を持ってかかわれる物を用意したり、子どもたちが友達とかかわれる場所を用意したりすることが教師の役割として必要になってくる。このようなことから、実際に子どもたちの遊びの成長の道筋はどのようなものか、周りの環境がどのように子どもたちの遊びに関係してくるのかということに疑問を持った。</p> <p>本研究では実際に筆者が実習に行かせていただいたD幼稚園での事例に基づき、3, 4, 5歳児の遊びの特徴を見つけ、そこから年齢が上がるごとに遊びの道筋を検討していく。</p> <p>今回事例を検討していった結果、3歳児から5歳児の遊びの道筋が見えてきた。3歳児では、平行遊びの様子が見られる。同じ場所で同じようなことをして遊んではいるが、各自で好きな遊びをし、各自で遊びを展開している様子が見られる。さらに、遊びを展開していくには教師の仲立ちが必要になり、教師の声掛けによって遊びを進めている。4歳児では、初めは平行遊びに見えているが、誰かの発言や提案から一緒にやりたいという気持ちが出てきて、協同遊びへとつながっている。そして遊びながら新しいことに気づくなど、五感を使った遊びをしている。その中で教師の仲立ちをきっかけに遊びを展開し、その後自分たちで新たなルールを作ったりするなど、自分たちで遊びを広げていくことができている。最後に5歳児では、協同遊びをしている。ルールや人数を自分たちで考えたり、遊びのルールを理解したり、そのルールを守って遊びを楽しむ姿も見られる。5歳児では、友達を誘って大人数で遊びを進めていく様子が多くみられた。</p> <p>このように事例を検討していくことで、授業で学んだことや幼稚園教育要領解説に書かれてあることが明らかになった。しかし、ただ子どもたちが成長していくにつれて遊びの道筋が自然に出来上がっていくのではない。このように発達していくには、教師の仲立ちや、友達とのかかわり、遊びの環境、年長児とのかかわりなどたくさんのことことが影響して成長していく。</p>					

氏名	小野 千沙都	学籍番号	J013010	ゼミNo.	3					
テーマ	家事労働について									
1. 問題と目的										
<p>安倍首相は頻繁に「女性活躍」の言葉を述べており、女性活躍推進の政策が進められている。自由民主党内においても、自由民主党の四役のうち二人に女性を起用していることから、女性の活躍を期待していることが分かる。ところで、安倍政権では女性活躍つまり女性の社会進出を推し進めているが、「仕事と家庭の両立」という言葉があるように仕事と対になるものは家庭である。女性の社会進出の推進に伴って女性の家事労働の軽減は否めない現状社会にあるといえよう。しかしながら、就業しているにしろしていないにしろ、多くの女性は男性よりも家事を担っているのではないだろうか。実際の家庭における家事労働の実情は国が推進している内容とは大きく乖離しているのではないだろうかと考えられる。そこで、筆者の母親と同年代の母親を対象に、これまでの家事従事率についての調査を実施し、現状について検討したいと考えた。</p>										
2. 研究の方法										
<p>女性の社会進出が進めば家事労働の負担は軽減されるべきであり、また国の女性社会進出を推し進める政策と家庭の実情にはズレがあるのではないだろうかと考えた。そこで本研究では、これまで家庭の家事労働を支えてきたであろうS女子大学に通う母親を対象に、母親の家事従事率についてアンケート調査を実施し検討することとした。</p>										
3. 結果と考察										
<p>本研究を通して明らかになったことは、就業しているにしろしていないにしろ、S女子大学の母親は家事労働の8割を負担していたことは明確である。一方で、「アイロンをかける」「窓ふき」「床拭き」「お裁縫」など、毎日行う必要性のない家事もあることが分かった。また、夫や子どもなど他の家族構成員も協力して家事労働を担う、または家電を使うことで家事の負担が減ったと感じている母親がいるようだ。第一章で述べたように、日本では「男性は仕事・女性は家庭」という性別役割分担意識があり、これまでずっと根強く残ってきた意識はそうすぐには変わらないとすれば、『母親が家事や育児をするもの・してくれるもの』だという意識はこれからも心のどこかに残ると考えられる。そのように仮定すると、現在、内閣が推し進めている女性活躍政策のうえでの働く女性は、今後も仕事をしながら家事や育児も負担することになり続ける状況が続いていくのではないかと思われる。</p>										

氏名	中川結以	学籍番号	J013032	ゼミNo.	3
テーマ	それぞれの年齢に応じた絵本が伝えたいもの				
<p>幼稚園教育要領では、「幼児は、その幼児なりの感じ方や楽しみ方で絵本や物語などの世界に浸り、その面白さを味わう。絵本の絵に見入っている幼児、物語の展開に心躍らせている幼児、読んでくれる教師の声や表情を楽しんでいる幼児など様々である。教師は、その幼児なりの感じ方や楽しみ方を大切にしなければならない。」と述べている。絵本は幼児の発達にとって、いろんなことを自分で考え想像していくことにより考えが豊かになるため、必要不可欠な文化財と言える。幼児は、絵本や物語などの読み聞かせを通して、幼児と教師との心の交流が図られ、読んでもらった絵本や物語に特別な親しみを感じるようになっていく。そして皆で一緒に見たり、聞いたりする機会では、一緒に見ている幼児同士も共感し合い、皆で見る楽しさを味わっていることが多いので、皆で一緒に見たり、聞いたりする機会にも、落ち着いた雰囲気をつくり、一人一人が絵本や物語の世界に浸り込めるようにすることが大切である。また、子どもの言語の発達はまずは、ヒアリングから始まり、年齢が高まるごとにつれ言葉の獲得が徐々に増え、それにつれて他者とのコミュニケーションの獲得がなされるということがわかる。絵本は、幼児の年齢に応じた想像性、語彙力、他者との会話力、識字力を高める効果が得られる児童文化財であることが明らかである。では、年齢に応じた絵本とは一体どのような特長をもっているかと考えた。本研究では、絵本の内容（構成・構造上の特徴）に焦点をあて、年齢別の特長について検討することを目的とした。</p> <p>そこで、0歳～2歳児、3歳児、4・5歳児の年齢別に応じた絵本をそれぞれ30冊抽出した。さらに、抽出した絵本それぞれの内容（構成・構造上の特徴）の特長について分析を行う。これらに基づき各年齢に応じた絵本の特長について検討を加えた。</p> <p>各年齢に応じて、絵本を作る意図が異なっていることが明らかになった。0～2歳児は単語に対する理解がほぼ主流であるため、保育士や保護者の読み聞かせによってコミュニケーションをとることができるように意図されていると考える。3歳児は、少しずつ言葉がわかるようになりコミュニケーションがとれるようになるため、絵本の中での問い合わせに対して保育士や保護者と一緒に楽しめるように意図されていると考える。4～5歳児は、視野が広くなり、知っている言葉の単語が増え、短い文章だけではなくある程度の複雑な文章への理解度も高まっていく過程であるため、絵から様々な情報を認知したり一層想像を膨らませたりできるように意図されていると考える。</p> <p>以上のことから、絵本の多くは、年齢に応じた内容で作られたものが多い。0歳児1・2歳児など、年齢が低くなるほどに文字が少なく、4・5歳児など、年齢が高くなるほどに言葉や文章の数が増え内容が複雑になっていく傾向があるということではないかと考える。</p>					

氏名	藤原 珠希	学籍番号	J013037	ゼミNo.	3
テーマ	保育現場で支持されている歌の特徴について				
<p>保育と音楽の関係性に着目すると、保育に音楽はかなりの度合いで必要とされている。実際に実習先でも毎日のように歌をうたい、音楽に触れる時間を大切にしているように見えた。音楽は子ども一人ひとりの内面的に楽しさや面白さを感じができるなど、クラスの友達と一緒に音楽の楽しさや面白さを共有することができる可能性を担っていると考えられる。ではどのような音楽が現場で歌われ、どのような理由で使用されているのだろうか。本研究では、現場で実際に使用されている歌がどのようなものであり、教師がそれらの歌を通して幼児に伝えたいことはどのようなものかを調査し検討していきたいと考えた。</p> <p>全国大学音楽教育学会(2013)が全国の保育現場対象とした調査により保育現場での支持率60%以上の曲42曲を抽出した。これら42曲について歌詞、曲、志向性の3点に注目し、これらに対しての回答を求めるアンケートを作成した。加えて、教師の勤務園で歌われる頻度の高い歌についても自由回答を求め同様の回答を求めた。</p> <p>その結果、全国の保育現場対象とした調査での支持率60%以上の曲42曲を(1)全体から見る分析、(2)季節の歌と季節外の歌に見られる分析、(3)得点順位の分析の3点から見ると、教師は季節感・楽しい雰囲気・子どもの志向性、これら3つの観点を重視していることが分かった。さらに、自由記述によって挙げられた歌、計144曲も同様に(1)全体から見る分析、(2)季節の歌と季節外の歌に見られる分析、(3)得点順位の分析の3点から見てみると、教師は季節感・楽しい雰囲気・子どもの志向性、これら3つの観点を重視していることが分かった。</p> <p>上述の42曲・その他の曲の(1)全体から見る分析、(2)季節の歌と季節外の歌に見られる分析、(3)得点順位の分析、これら全てより伺えることは、教師は、季節感・楽しい雰囲気・子どもの志向性、これら3つの観点を重視していることが分かる。すなわち、教師は子どもの志向性を重視すると共に、歌を通して季節感を感じることや曲の雰囲気から楽しいこと大切にしていることが明らかとなったと言えよう。</p> <p>加えて、これら3つに絞られた観点より、幼稚園では行事を年間計画の中心に据えて保育を行っている園が主流と考えられる。それゆえ、教師は行事と季節感を結び付け、幼児に歌を伝えていると考えられる。つまり、行事に園での活動を結びつけることにより、行事=季節という曲選択に指示が集まったと考えられる。</p> <p>また、教師は、子どもが好きな曲は楽しい雰囲気の曲と考えているとも言えよう。それは、弾むような軽快なリズムやメロディー等、楽しい雰囲気が感じられる歌は子どもからの指示が得られていると教師自身が捉えているからである。それゆえに、楽しい雰囲気の曲により多くの指示が集まつたのではないかと考える。</p>					

氏名	松本 朝子	学籍番号	J013039	ゼミNo.	3
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	クラス集団に対する保育教諭の援助及び配慮のあり方について
-----	------------------------------

保育者は、子どもの発達を理解していなければ、子ども一人一人の育ちに寄り添い子どもの目線で向き合うどころか、保育はできない。発達を理解していることを前提とし、子どもたちとの日々の園生活において、園児一人一人の発達を理解したうえで様々な状況に応じて、常日頃から援助および配慮をし、クラス全体と関わることができるというスキルが求められる。

また、全体を見通す広い視野を持つことで、子どもたちが何をしているかを把握し、危険を防いだり、万が一がをしてもすぐに対処することができたりすると考えられる。

本研究では、教育実習で得られた筆者とクラス全体の関わりの事例に基づいて、クラス集団に対する望ましい保育教諭の援助配慮のあり方について検討することを目的とする。

調査方法として、筆者の実習先である、幼保連携型認定子ども園E幼稚園4歳児クラスあお組では、自由保育でありながらも、製作活動等の場合には教師主導で指導しながら、クラス集団に伝えていくというような一斉保育のスタイルがとられている。そのことに着目し、普段の自由遊びの片づけの際の教師の指導や、製作活動等の教師主導での指導方法等、一斉保育でなされた保育の様子を観察させていただき、E幼稚園で行われている一斉保育の手法やその活動時の子どもの様子から、クラス集団に対する保育教諭の援助及び配慮について検討することとする。

子どもがなぜその行動や言動をとったのか一つ一つを理解することで、子どもへの援助及び配慮の方法は変わってくると考えられる。子どもの立場に立つということは、子ども一人一人と向き合うことであり、個々の育つ力を支えることになることにつながり、より良い保育ができるはずである。

集団に対する一斉的な指導の観点として必要とされることは、まずは第一に、年齢ごとの発達を理解し把握すること踏まえて、どんな風に育ってほしいかということを明確にすること、次に、全体を見通した保育ができるということ、さらにその中で起こる様々な出来事に対して子どもたちとどのように向き合うのかを考え、子どもたち一人一人の個性や興味・関心に応じた関わりができるかどうか、加えて、ありのままの姿を受け止め、温かい目で見守ることが必要であるということが考えられる。

以上の観点から、幼児が関心を持って主体的に取り組めるようにするには、活動を進めることだけに視点を置くのではなく、活動を通しての子どもたちの心身の変化への配慮も同時に考えなければならず、子どもたちにとって無理のない環境づくりが必要となる。無理のない環境づくりをするためには、個々に合わせた援助及び配慮を前提に保育をするということを忘れてはならないことが分かった。

氏名	山本 教恵	学籍番号	J 013046	ゼミNo.	3
テーマ	児童虐待を取り巻く環境 ~2014年1月～2016年3月の新聞記事に基づいて～				
近年、児童虐待に関する事件は増加し続けており、子どもの命が奪われる痛ましい事件が後を絶たない。残虐で痛々しい児童虐待事件をどうやって減らしていくべきか。筆者は、実際に起きている児童虐待の現状について明確にしていくことが先決だと考えた。そのため、近年の全国の新聞記事の掲載から児童虐待に関する記事を抜粋し、具体的な事例とともに分類わけをしようと考えた。					
まず、2014年から1月から2016年3月までの新聞記事を収集し、記事ごとに厚生労働省が定める1. 身体的虐待 2. 性的虐待 3. ネグレクト 4. 心理的虐待 の4つの定義のいずれに該当するか弁別し、虐待の詳細について検討する。約2年間で取り上げられた新聞記事の合計数70件であった。それを生死の別でグラフ化すると、生存できた子どもが58%、死亡した子どもが42%で、生死の確率はほぼ半分であることが分かった。また、厚生労働省の虐待の4つの定義に分類すると、一番多かったのは身体的虐待(43.5%)、続いてネグレクト(30.6%)、心理的虐待(21.2%)、性的虐待(4.7%)の順であることが明らかとなった。今回の調査により、虐待はほぼ定期的に新聞記事に取り上げられていることから、現代社会の中で虐待は頻繁に行われていることが伺える。どの問題も死に直結するといは一概に言えないが、半数近くが死亡していることは事実である。					
そこで、虐待の現状をより改善するための方策として以下のように考える。					
まず、虐待を発生させないこと、虐待を未然に防ぐための活動が必要だと考える。そこで、出産前に行うパパママ教室の強制的な参加を考えた。本研究での調査を通して、虐待の被害にあっているのは乳幼児に多い。その原因は乳幼児の発達過程を保護者が理解しきれていないために、保護者が思い通りにならない子育てにストレスを抱え、怒りや葛藤を子どもにぶつけてしまうからではないかと推測した。ゆえに、出産を控えた保護者の方々がパパママ教室に参加をすることで、乳児の発達、接し方、成長過程を知ることが出来、子どもに対する理解を深めることが虐待防止の対策に繋がると考えられる。					
次に、虐待が発生してしまった場合の対策を考える。虐待は回数を重ねるほど被害が大きくなると考えられるため、虐待の初期の段階で食い止めたい。虐待をしてしまった、もしくは、虐待の場面に気づいた周りの人が、相談できる場所は必要だと考える。虐待の現状を知ることはケースワーカーと保護者や、保護者が子どもと向き合えば事態を大きくする前に改善できるかもしれないだろう。					
さらに、虐待と疑われる事案について家庭内などの介入を強めればよいと考える。なぜなら、新聞記事の中に、近隣住民は通報したにも関わらず、児童相談所の介入が遅れて命を落としたケースがいくつもあったからである。だから、この時間がかかるケースを極力減らし、すぐに子どもの命を救える環境を整えておくべきだと考えた。こうした整備を見直す必要があると考える。					

氏名	井上 有李	学籍番号	J013004	ゼミNo.	4					
テーマ	幼少期の生活環境と人格形成について									
<b>1. 研究の動機</b>										
大学で保育学を専攻し、保育現場について勉学や実習を通して学んできた中で、同じ年代の子どもであってもその保育所や幼稚園の方針によって、また保護者の教育姿勢によって、個々の成長が変わることを知った。幼児期に受けた生活習慣や環境は、大学生活における人格の作り方にどのように影響しているのか知りたくなり、研究テーマとした。										
<b>2. 研究方法</b>										
幼少期の生活環境の変化や重要性に関する記述を調べ、地元の3大学の学生を対象としてアンケート調査を実施した。そして調査結果を集計し、考察を加えた。										
<b>3. 結論</b>										
アンケート調査結果より、3つことがわかった。										
まず、幼少期に祖父母と生活し、安心して遊んだり、過ごしたりすることができる環境は、その人の性格を明るくするというプラスの要素が得られる。										
次に、幼稚園に通う人は明るい性格に、保育園に通う人は物静かな性格になっている。最近はさまざまな教育方針により、幼稚園・保育園といつても園によって色々あるが、決められた保育時間や、入園できる年齢がこの性格に関わってきているのだと思った。										
そして、幼少期に習い事をしていない人に対し、している人の方が自己表現ができ、協調性が養われ、物事に率先して取り組む姿勢をもつようになる。しかし、習い事を増やしすぎるあまりに、子どもの遊ぶ時間が減っていることも事実である。習い事をすることによって得られる良い点を大切にしつつ、子どもが自由に遊んだり、のんびりしたりする時間を作ることも大切なことであるとわかった。										
このことから、望ましい幼少期の生活環境は、祖父母と過ごす時間をもつことで、常に大人の目がある安心安全な環境が作られ、子ども自身がのびのびと生活できることや、習い事をしながらも子ども自身のストレス発散となる時間や友人と遊ぶ時間もつことが大切であると私は考えた。また、幼稚園・保育園に通わせる際には、どのような子に育ってほしいかをきちんとと考え、園の方針や様子などを親自身の目で見極め、入園させることで園と親との信頼関係もでき、子どもが安心して通える環境が整うようになると思った。										
<b>4. 参考文献</b>										
・中央教育審議会『(1)子供たちの生活と家庭や地域社会の現状』, 2016/12/2, <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_chukyo_index/toushin/attach/1309588.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_chukyo_index/toushin/attach/1309588.htm</a> ,										
・文部科学省『第1章 子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の方向性』, 2016/12/4, <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013102/002.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013102/002.htm</a> ,										
・環境白書『遊びの変化と環境』, 2016/12/2, <a href="https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/honbun.php3?kid=208&amp;bflg=1&amp;serial=10001">https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/honbun.php3?kid=208&amp;bflg=1&amp;serial=10001</a> ,										

氏名	大江奈津子	学籍番号	J013006	ゼミNo.	4
テーマ	愛媛みかんについて				

### 1. 研究の動機

幼少のころから毎年、祖母が段ボール2箱分の「みかん」を送ってくれている。小さいころから慣れ親しんできた「みかん」だが、その栽培方法や加工方法、含まれている成分や効果など知らないことが多くあることに気が付いた。このことから、「愛媛のみかん」を調べることにした。

### 2. 研究の方法

愛媛のみかんの歴史、栽培方法や加工方法など Web サイトで調べ、大学生を対象としてアンケート調査を実施し、集計を行い考察した。

### 3. 結論

今から 500 年ほど前からみかん栽培が盛んになった。400 年ほど前には鹿児島県で温州みかんが生まれ、今では温州みかんがよく知られている。

愛媛県のみかん栽培は、宇和島市吉田町で伊勢参りや四国巡礼で手に入れたみかん苗木を植えたのが始まりで、吉田町は「愛媛みかん発祥の地」と言われる。

愛媛のみかんの美味しい秘密は、①空から降り注ぐ光、②海からの反射光、③石垣からの照り返し、この「三つの太陽」が愛媛のみかんの美味しい秘密と言われる。

美味しいみかんの選び方は、外側はみかんの形は平たく橙色の濃いく、果梗が細いみかんが良く、中側は皮が薄く柔らかいものやみかんの房が 10 袋以上あると美味しいと言われる。またみかんには、 $\beta$  - クリプトキサンチン（病気の予防に効果がある成分）が含まれており、色々な生活習慣病になりにくいことがわかった。よって、みかんを 1 日に 1 個か 2 個食べるようにしたい。

アンケート調査の結果、愛媛県人にとってみかんは身近な果物であるが、好きな人が少なく、またみかんについて知られていないことが多くあることがわかった。

### 4. 参考文献

- ・「愛あるブランド産品」『いよ観ネット』、2016 年 12 月 25 日、  
[http://www.iyokannet.jp/front/gourmet/list/gourmet\\_theme\\_id/2/](http://www.iyokannet.jp/front/gourmet/list/gourmet_theme_id/2/)
- ・『愛媛スイーツ』、2016 年 12 月 21 日、<http://www.ehime-sweets.com/db/01.pdf>
- ・『愛媛みかんのはなし』、2016 年 10 月 5 日、<http://www.pref.ehime.jp/h35500/7757/>
- ・『オレンジライフ』、2016 年 12 月 21 日、<http://www.mikanpowder.jp/mg/04.html>
- ・『みかん大辞典』、2016 年 10 月 5 日、  
<http://www.kajuen.co.jp/introduction/item01.htm>
- ・「吉田町のみかん」『宇和島観光協会』、2016 年 12 月 10 日、  
<http://www.uwajima.org/special/vol9/rekishi.html>

氏名	海稻 美里	学籍番号	J013011	ゼミNo.	4					
テーマ	絵本と占いに登場する動物のイメージについて									
<b>1. 研究の動機</b>										
動物は昔から私たちの生活に身近に存在していて、見たり、飼育したり、触れる機会が多い。私が実習で幼稚園、保育所に行ったとき、子どもたちは動物を見て「かわいい」や「怖い」と言い、動物に対して興味を持っていると思った。幼いころに読んだり見たりした絵本から得た動物のイメージが、大人になった今どのように影響しているのか知りたいと思い、研究テーマとした。										
<b>2. 研究方法</b>										
誰もがよく知る絵本を選び登場する動物を調べた。また、動物占いと、アニマル占いを参考にして動物のイメージを調べた。また、大学生がもつ動物に対するイメージを知るため調査票を作成し、アンケート調査を実施した。そして調査結果を集計し、考察を加えた。										
<b>3. 結論</b>										
アンケート調査の集計結果と絵本や占いで動物のイメージを比較すると、絵本に登場する動物のイメージと占いにおける動物のイメージや性格はほぼ一致していた。大学生の動物に対するイメージは絵本、動物占いとあまり関係していないということが分かった。自分たちの目で実際に動物を見て感じたイメージが強く影響を与えていたことが分かった。										
また、小さい頃読んだ絵本で印象に残っている作品を調査すると、昔話の割合が思ったよりも少なかった。しかし、上位には『ぐりとぐら』や『はらぺこあおむし』などがあげられ、絵本の種類は変化してきているが、今も昔もキャラクターや動物などが出てくる絵本を多く読むというのは変わっていないと思った。										
<b>4. 参考文献</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋伸宏『怖いほど当たる動物占い』廣済堂出版、1998年。</li> <li>・編集発行人 佐藤喜一『こどものとも 三びきのこぶた』福音館書店、2005年。</li> <li>・西本鶏介『おでかけ絵本ポシェットメルヘンあかずきんちゃん』チャイルド本社、1998年。</li> <li>・仲田安津子監修『3さいの本①おはなし』講談社、1989年。</li> <li>・公益社団法人シャンティア国際ボランティア『絵本と動物たち』2016/12/10、  <a href="https://sva.or.jp/wp/?p=1756">https://sva.or.jp/wp/?p=1756</a>。</li> <li>・アニマル占い完全無料サイト『占うアニマルタイプのご紹介』2016/12/16、  <a href="http://動物占い.jp/">http://動物占い.jp/</a></li> <li>・福娘館書店『ぐりとぐら広場』2017/1/10、  <a href="https://www.fukuinkan.co.jp/ninkimono/gurigura/book.html">https://www.fukuinkan.co.jp/ninkimono/gurigura/book.html</a></li> </ul>										

氏名	久保 茜	学籍番号	J013020	ゼミNo.	4					
テーマ	電子マネーとマイナンバー制度の認知度について									
<u>1. 研究の動機</u>										
昨年からアルバイト先の支払い方法に電子マネー機能が導入され、清算処理を行っているので電子マネーを利用する人が増えてきたことを感じている。2016年1月から導入されたマイナンバー制度は国民全員を管理する仕組みである。電子マネーは便利であり私たちの生活に多く取り入れられてきた。そこにマイナンバー制度も融合しようとしている。これらにどのように対応すれば良いのかを知るため、今回の研究テーマとした。										
<u>2. 研究方法</u>										
電子マネー、マイナンバー制度について書籍やホームページから調べた。また、電子マネーとマイナンバー制度の認知度に関するアンケート調査を実施し、集計を行い、考察を加えた。										
<u>3. 結論</u>										
マイナンバーカードと預金口座は2018年に紐付けされる予定である。電子マネーには接触型と非接触型があり、キャッシュカードは接触型に分類される。マイナンバーカードが今後預金口座と紐付けされることは、電子マネーと関連付けられることが分かる。この他にも、身分証明書や健康保険証として利用することができる。これらを実施するにあたって、5つのセキュリティ対策が組み込まれているため、安全性は低くない。										
アンケート調査の結果、大学生は電子マネーを利用する人が少なく、認知していない人もいた。また、マイナンバー制度について今後預金口座と紐付けされることやどのような制度なのか認知している人も少なかった。										
今後、電子マネーとマイナンバー制度は社会で必要なツールとなるので、その進展を注意深く見守りたいと思う。これから社会に出る私たちにとって身近なものとなるため、詳しく内容を理解しておいた方が良いと思う。										
<u>4. 参考文献</u>										
・ ICカードと電子マネー、2016.10.21、 <a href="http://www.hummingheads.co.jp/reports/feature/1306/130603_01.html">http://www.hummingheads.co.jp/reports/feature/1306/130603_01.html</a>										
・ 電子マネーの歴史、2016.10.28、 <a href="http://www.hummingheads.co.jp/reports/feature/1306/130603_01.html">http://www.hummingheads.co.jp/reports/feature/1306/130603_01.html</a>										
・ マイナンバー制度の仕組み、2016.10.21、 <a href="http://2020cashless.tokyo/cat01/736.html">http://2020cashless.tokyo/cat01/736.html</a>										
・ 萩原京二『誤解だらけのマイナンバー対策』幻冬舎、2015.10.11。										

氏名	小角 友音	学籍番号	J 013023	ゼミNo.	4
----	-------	------	----------	-------	---

テーマ	新しい体操の考案について
-----	--------------

### 1.研究の動機

「保育実習Ⅲ」で実習した障害児施設でラジオ体操とウォーキングを見た。このとき、ラジオ体操とウォーキングだけで利用者の健康維持や健康増進に貢献できるのかを疑問に感じた。利用者が楽しみつつ必要な筋肉をほぐす運動ができた、健康維持や健康増進に繋がる障害に応じた必要な動きを組み合わせた新しい体操を考えたいと思った。

### 2.研究方法

ラジオ体操第一の運動について調べ、運動の内容を分析し、自分で必要だと考える運動を組み合わせて体操を考案した。その考案した体操を実施してもらい、実施後に簡単なアンケート調査を行った。その集計結果を述べ考察を加えた。

### 3.結論

10個の運動をピアノで演奏された「ミッキーマウスマーチ」(1分14秒)の曲と組み合わせて、新しい体操を作った。固まりやすい関節部分をほぐせるように「手のひらをグーパー」や「手首、足首回し」の運動を組み合わせたり、車いすの人でも行えるように座ったままでもできる「足踏み」を組み合わせた。また楽しみながら運動ができるように、ひとつひとつの運動にゆとりを持って取り組めるように作った。

考案した体操の速さはちょうどよく、ほとんどの人が楽しむことができる。しかし、体操の時間が短いことから物足りなさを感じている人もいた。このため、施設等で利用する時には①ラジオ体操と私が考案した体操を組み合わせる場合と、②私が考案した体操を2回繰り返す場合のどちらかを利用者の状況に応じて選択して実施すると良いと考える。

障害者のための体操を考えてみて、ラジオ体操のようにきちんと全身が運動できる体操を考えることはとても難しいことを実感した。障害者のためにできることはどんなに小さいことでも障害者の笑顔に繋がり、その笑顔が障害者の健康維持、健康増進に繋がると考えられる。今後もほかの曲でも体操を考案するなどの障害者を笑顔にできる取り組みを行い、障害者の健康維持、健康増進に少しでも貢献していきたい。

### 4.参考文献

- ・中村格子著、秋山エリカ監修「実はスゴイ!大人のラジオ体操」講談社、2012年

氏名	白方 奈帆子	学籍番号	J013024	ゼミNo.	4
----	--------	------	---------	-------	---

テーマ	ソフトテニスにおけるメンタルトレーニングについて
-----	--------------------------

### 1.研究の動機

私は中学時代から現在までソフトテニスを10年間続けている。中学3年の夏には目標としていた県大会優勝を果たしたが、四国大会では1回戦負けという屈辱的な結果であった。その後もテニスを続けたが、大学2年生の頃にスランプから抜け出せない時期があった。勝てない日々が続いたときにメンタルトレーニングに出会った。今までの自分の経験から、同じ境遇に悩んでいる人を少しでも助けたいと思う。このため、メンタルトレーニングを卒業研究のテーマとして設定した。

### 2.研究方法

メンタルトレーニングに関する文献、Web資料を参考にして基本的なところを調べた。ソフトテニスにおけるイメージトレーニングに関する調査票を作成し、四国内の4大学でアンケート調査を実施し、集計を行った。

### 3.結論

アンケートの調査結果、全体的に大学間での差はあまりなく、イメージトレーニングをソフトテニスに取り入れている人が多いことが分かった。「効果について」では、根拠がないけれど、「効果があると思う」と回答した人が多く、「なぜそう思うか」ということに対する回答では「実際にイメージ通りになったから」という回答者が多かった。アンケート結果から、イメージトレーニングの必要性を感じている人が多いことがわかった。

以上のことから、メンタルトレーニング（イメージトレーニング）は、プロのスポーツ選手だけではなく、すべての競技者に必要であることが分かった。また、イメージトレーニングやルーティーンにより、自分への自信が生まれた人が多いのではないかと考える。

### 4.参考文献

- ・ 浮世満理子『メンタル強化メソット』実業之日本社、2013年。
- ・ 笠原彰『誰にでもできる最新スポーツメンタルトレーニング』GAKKEN、2014年。
- ・ 高畑 好秀『勝ちに行くスポーツ心理学』山海堂、2001年。
- ・ 西田文郎『NO,1メンタルトレーニング』現代書林、2015年。
- ・ NO LOVE,NO TEAM『成功と自信に効果を発揮する、イメージトレーニングの方法とコツ』2016年11月24日

<http://nolovenoteam.com/image-training-2878.html>

氏名	松本 綾奈	学籍番号	J013040	ゼミNo.	4
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	大学生のアルバイトの現状について
-----	------------------

### 1. 研究の動機

現在の大学生はどのくらいアルバイトに興味関心を抱いているのか、また、雇用問題やブラック企業の存在、正規雇用ではなくパートやフリーターが増える現状などについて問題を探求したいと思い、卒業研究のテーマにした。

### 2. 研究方法

大学生アルバイトの実態に関する調査票を作成し、アンケート調査を実施し集計を行った。また、独立行政法人日本学生支援機構による「平成 26 年度学生生活調査」の資料を参考にし、教育費の負担についてや学生アルバイトで生じる雇用問題について調べまとめた。

### 3. 結論

今回調査したほとんどの学生は学業と両立しながらアルバイトをしていることが分かった。また、アルバイトをしている学生のほとんどは生活に余裕を求めるためにアルバイトをしていた。より大学生活を充実させるために学生たちは各自工夫して収入で得たお金を使い、貯蓄している。そして、愛媛大学の全学生は、学業を優先的にしており、学費も国立は公立や私立より安く済むためアルバイトをしていない学生が多いことも分かった。

また、私が一番着目していた「アルバイトをして学べたこと、得たこと」では「礼儀・マナーなど勉強になった」という意見が多く、次に「お金を稼ぐことの大切さを知った」といった意見が多かった。これよりアルバイトをしていることによって自分自身も成長し、社会に出てから今後の人生に大きく影響を与えるということも予測できた。

そして、ニートや非正規雇用の人たちを支えるためにさまざまな取り組みを行っている事業団体も世の中にはたくさんあることを知った。

大学生活を有意義にするためにアルバイトをしてお金を貯めて楽しむことも必要なことであるが自分の立場や状況を考えながら好きな時間を作り、無理しないように大学生活を送っていくことが大事である。

### 4. 参考文献

- ・「大学生のアルバイト事情をグラフ化してみる（2016）（最新）」、2017/1/8、  
<http://www.garbageneews.net/archives/1989637.html>
- ・「日本の学生を取り巻く経済事情」、2017/1/8、  
<https://www.uvpl.org/gakusei.html>
- ・「短大生の生活実態に関する研究（第 2 報）－学生アルバイトが睡眠時間に及ぼすえいきょうについて－」、大阪体育大学短期大学部研究紀要、2007/3。

氏名	畔地 みさき	学籍番号	P013002	ゼミNo.	5
テーマ	販売空間におけるVMDの果たす役割				

## はじめに

筆者はアパレルショップでのアルバイト経験を通して、お客様から「このマネキンさんが着ている商品はどこにあるの？」と聞かれることがあり、筆者たち販売員が何気なく見ているマネキン等を、客は想像以上に重要視していることが分かった。このことより、マネキンや商品の陳列方法を含むVMDが、入店誘導や商品の購買にどのような役割を果たしているかに疑問を持ち、卒業研究のテーマとした。

## 第1章 本研究の目的

第1章では、文化人類学者のエドワード・ホールの空間研究をもとに、店舗という「販売空間」に着目し、その空間では視覚に訴える様々な演出が行われていることを述べた。そして、どのような視覚的演出でどのような販売空間が創られ、購買意欲を高めているかを知り、実践に生かすことを研究の目的とした。

## 第2章 VMDとは何か

この章では、販売空間の中で行われる商品演出について、既存研究をもとにVMDの定義とIP、PP、VPという3つの手法について説明した。VMDとは視覚に訴える商品政策・商品演出である。Merchandising（商品計画）をVisual化（視覚化）する演出技術としてディスプレーがあること、またVMDの実践では、MDを視覚化するために、IP、PP、VPという3つの手法の役割を明確にして採り入れ、売り場全体の「販売空間」を効果的に使っていることが分かった。VMDは販売促進の効果を高めて「売れる売り場」を創ると同時に、売り上げも産み出していることも明らかになった。

## 第3章 実例から見るVMD

ここでは、VMDの3つの手法がアパレルショップでどのように実践されているのかを確認するために、実際のアパレルショップの店舗づくりの例を用いて検討した。ジャンルの違う3種類のアパレルショップの写真を分析した結果、3つの手法の意図や効果が目的に沿って発揮され、その役割が果たされていることが分かった。

## 第4章 提案「VMDの実践プラン」

最後に、第3章までの調べを応用して、筆者が務めているアルバイト先のU店舗を想定した「VMDの実践プラン」を提案した。VMD等は基本的に本部によって決められているが、その中の活用法を重視して考案したものである。

## おわりに

本研究をとおして、VMDは視覚に訴え、売り場づくりで入店誘導に効果があり、購買意欲が促進されることが明らかになった。アパレルショップでアルバイトをしていたからこそ、このテーマについて疑問を持つことができた。今後またこのような仕事を行う時が来たら、ぜひ活かしていきたいと考えている。

氏名	川上菜月	学籍番号	P013010	ゼミNo.	5
テーマ	笑いと笑顔がもたらす効果				

### 【はじめに・研究目的】

元気がないとき、何気ない友達との会話に笑顔が生まれるだけで、悩み事がちっぽけに思えて、少し前向きになれたりする。笑顔には薬とは違う力があると考えた。本研究では、筆者が、笑うことで元気になったことをきっかけに抱いてきたいいくつかの疑問について検証を試みた。笑顔の種類、コミュニケーションの中の笑顔の役割り、また、笑顔のもつ力、笑うことによる健康面や精神面への効果や影響を調べ、さらに研究をもとに、より多くの人に笑顔でいることや笑うことの大切さを知ってほしいと考えた。

### 【結果・考察】

笑いを心のメカニズムから分類すると「快の笑い」「社交上の笑い」「緊張緩和の笑い」の3つの笑いに分かれているが、その中にも細かく笑いの種類があり、笑いはコミュニケーションの中で様々な場面で使い分けられていることが分かった。このことから、笑いはコミュニケーションにおいて重要な機能や役割を担うものであることを再認識した。また、人間の6つの基本的情動の中で「幸福」の表れである笑顔が最も認識されやすいことが分かった。これは実験した5つのすべての国の結果であることから、笑顔は万国共通であることが明らかになっている。しかし万国共通とはいえ、日本独特の笑顔があり、これは日本文化であるおもてなしの心や気を遣うことのできる日本人だからこそその笑顔だと考える。

笑いの効果については、笑うことでストレス解消や、病気が良くなることを明かしており、実際に笑いを医学的効用し、笑いが医学的に重要な治療手段となりうることも証明した人がいる。また笑いでボランティア活動をしている人も少なくない。人を笑わすことで人を元気づけることもできる。つまり、笑いと健康は繋がっており、笑って過ごすことも健康でい続けるための一つの秘訣なのだ。

以上、本研究では、既存研究の結果や関連事例から、笑いや笑顔はコミュニケーションを円滑にするために極めて重要であり、笑うことは心身に良い影響を与え、生体機能を維持、あるいは活性化するということを検証することができた。しかし、本研究を進める一方で、新たな疑問も浮上した。なぜ、人の笑顔や笑い声を聞くと、つられて笑ってしまうのだろうか。この笑顔のもつ互恵性という点については今後の課題としたい。

氏名	北浦 若奈	学籍番号	P013012	ゼミNo.	5
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	スポーツにおけるコミュニケーション能力について
-----	-------------------------

筆者は、自身の部活動の経験や現在のバスケットボールの指導経験をとおして、子供たちのコミュニケーション能力が低下してきていることに気づき、部活動の経験は、子供たちが将来、社会進出したときに有効活用できるのではないかと考えた。

そこで本研究では、実際に、現在の大学生の部活動（とくにスポーツ）経験とアルバイトでの人間性スキルにはどのような関係があるのか、また、今後企業が求める人材の持つべき能力と共通点があるのかどうかについて探求した。

第1章では、コミュニケーション能力とリーダーシップの定義について述べた。コミュニケーション能力については、前提とする状況や機能によって定義に多様性があること、リーダーシップについては、メンバー特性や環境要因によって異なる定義があることが分かった。

第2章では、文献と既存研究をもとに、(1) 部活動の経験にはコミュニケーションが大切である、(2) 部長・リーダー経験により積極性が身につく、(3) 部活動から得たコミュニケーション能力はアルバイトでも活かされ、部活動及びアルバイト経験学生が身に付ける能力と今後企業が求める人材像が持つ能力には共通部分がある、という3つの仮説を立て、それぞれについて調査・検証を行った。

第3章では、松山東雲女子大学・短期大学の在学生を対象に行った「スポーツにおけるコミュニケーション能力」のアンケート調査の結果を報告し、それを基に第4章で仮説が支持されたかどうか考察した。

まず、部活動全般にわたり、コミュニケーションの重要性が支持された。また、部活動を経験して高い割合を占めていたコミュニケーション能力は、アルバイトでも同様に高い割合で見られた。ここまででは仮説が支持された。しかし、部長・リーダー経験と積極性の関係については、積極性ではなく責任感が強くなったとする回答率が高く、予想に反する結果となった。

今回の調査の課題として、アンケートの回答項目の「他スポーツ」や「他文化」の部分をもう少し具体的にしておくと、チーム競技と個人競技の区別が明確になり、回答の幅を広げることができたのではないかと思う。

全体を通して、部活動とアルバイトの双方においてコミュニケーション能力が重要であることが分かった。また、リーダーシップについては、部長やリーダーを経験して得た能力が、部員からの期待に応えるために大切であり、役立つていることも分かった。これらの能力を伸ばす努力を継続していくことで、インナーシップや、将来、社会進出したときに役立てることができると考えている。

氏名	佐伯 愛実	学籍番号	P013017	ゼミNo.	5
テーマ	サービス業における好印象を与えるコミュニケーション				

**はじめに**

社会で求められる能力は様々であるが、コミュニケーション能力を求める企業は多い。その理由として明らかなのは、経済産業政策局の私的研究会が職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行う上で必要な基礎能力を調査し発表した「社会人基礎力」である。この多面的能力を細分化すると、コミュニケーションスキルは必要不可欠であることが分かる。

**第一章**

コミュニケーションを構築する概念について重要な定義を紹介した。コミュニケーションは一般的に会話や意思疎通などのイメージが強く、言葉は使う手段として捉えられることが多い。一方、コミュニケーション能力は場面や相手に応じてメッセージの伝達方法を適切に変えたりする能力のことを言う。これらを構築するものとして、本論文では、対人認知、印象形成、自己呈示、言語・非言語能力を探り上げた。これらは、社会的環境への適応のための、社会的スキルを駆使してコミュニケーションを行う上で、重要な役割を果たすものであると言える。

**第二章**

第一章を踏まえて、論理的に、好印象を与えるコミュニケーション方法について考察した。ノンバーバルコミュニケーションにおいては、笑顔は好印象を与えるためには大原則であることがわかる。また、バーバルコミュニケーションにおいては、相手をほめること、感謝の気持ちを伝えることで好印象を与えることができる。相手に好印象を与えるためのコミュニケーションスキルには、傾聴スキルも重要である。相手の求めていることを聴きだし、知ることや相手に対して興味を持っていることを示すことができれば、好印象につながることへの理解が深まった。

**第三章**

これらのスキルを用いて、第三章はサービス業における実践的に好印象を与える方法を(1)初対面の顧客、(2)顧客に商品を売る、(3)気難しい顧客、という三つの場面ごとに分けて考察を行った。

**おわりに**

サービス業において好印象を与えるコミュニケーションを行うには、笑顔は忘れてはならないものであり、バーバルコミュニケーションにおいては、まずは相手の話を聴き、相手が何を求めているか、推測できるかどうかであろう。本論で知った相手に好印象を与えるコミュニケーションスキルを身に着けることは、円滑なコミュニケーションを行うことに役立つと考える。

氏名	坂井 友香	学籍番号	P013018	ゼミNo.	5
テーマ	大学生の SNS 利用に対する意識について —SNS に潜むトラブルとプライバシー意識—				
<p>本研究では、SNS が身近な存在である現在、そこに潜む危険性への認識が低いのではないかという疑問から、先行研究とアンケートの実施によってその実情、対策について考察してきた。まず先行研究では、SNS 上での不用意な発言が他人によつて拡散され、誹謗中傷やいやがらせ等を受けるという、所謂「炎上」と呼ばれる SNS 特有のトラブルが今日問題視されていることがわかった。炎上は SNS 上の嫌がらせのみに留まらず、個人を特定され、実生活にまで被害が及ぶ場合もある。次に炎上が起こる原因として、SNS 利用者のプライバシー意識が関わっていることがわかった。SNS とプライバシー意識の関わりについては、先行研究から (1) SNS の特性や利用の気軽さから、個人情報の取り扱いがぞんざいになる危険性がある、(2) SNS を利用する際に、全世界へ情報を発信している感覚が低いため、個人情報の漏えいに繋がりやすい、(3) 特に若い世代、更に女性は、個人情報に対するプライバシー意識が低い、(4) 個人情報の中でも、名前や住所、友人など、項目によってプライバシー意識に差がある、という 4 点が指摘されている。</p> <p>そこで、(1) 学生の SNS の利用状況 (2) 学生にとっての SNS の在り方 (3) 個人情報の取り扱いに対する学生の意識を知るために、本学の学生を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、学生が SNS を利用する意義として、情報収集やバーチャルな人間関係の構築よりも現実の親しい友人間での繋がりを重要視していることが判明した。また、SNS 利用では、SNS の広がりへの意識の範囲が「学生自身が意識している範囲」と「見えない実際の範囲」に二分され、見えない範囲に対しての認識が薄いことが明らかになった。更に SNS 利用者の特徴として、「SNS に潜む危険性について理解はしているが、身を守るための行動に移せていない学生」が多いことが挙げられる。</p> <p>炎上は、SNS を利用する我々にとって身近な問題である。先行研究から、比較的親の監視の薄い大学生は、社会的責任がなく不用意な発言をしがちであり、特に炎上の被害にあいやすいことがわかっている。個人が特定されることを避け、トラブルから身を守るために、現実の親しい友人間での繋がりの多い学生にとっては、特に技術的側面からのアプローチを日常的に心掛けることが重要であろう。プロフィールを具体的に記載しない、公開範囲を制限する、繋がりは信頼できる友人のみとする等、コミュニティを閉鎖的な空間にする必要がある。</p>					

氏名	上甲遙加	学籍番号	P013020	ゼミNo.	5
テーマ	欧米の「ホスピタリティ」と日本の「おもてなし」についての一考察				

### はじめに

2020年のオリンピック招致のプレゼンテーションで「お・も・て・な・し」という言葉が注目された。本論文では、おもてなしとホスピタリティの語源と歴史を紹介し、日本のおもてなしと欧米のホスピタリティには昔から現代に至るまで、どのような繋がりで発展してきたのか、そして両者には、どのような類似点・相違点があるかについて研究を行った。

### 第1章 「おもてなし」・「ホスピタリティ」の語源と歴史

第1節では、おもてなしとホスピタリティという言葉がどのように誕生し、どのような意味があるのかを明らかにした。おもてなしの語源は、もてなし【持て成し】1. とりなし、とりつくろい、たしなみ、2. ふるまい、挙動、態度、3. 取扱い、あしらい、待遇、4. 駆走である。ホスピタリティの語源はラテン語の *hospices* (客人等の保護)で、*hospices*が変化した *hospitality*は「歓待」を意味し、それが現代英語の *hospital* (病院) *hotel* (ホテル) *hostel* (ホステル) *Hospice* (ホスピス) などの言葉に変化したことが明らかになった。第2節では、おもてなしとホスピタリティの歴史について考察した。日本のおもてなしは、平安時代・室町時代に発祥した“茶の湯”から始まり、ホスピタリティは西洋における聖地への巡礼から生まれたことが分かった。

### 第2章 欧米のホスピタリティ

欧米のホスピタリティについては、文献によると、「人と接する潤滑油」「自分の家族に対するのと同じ対応」「ホテルなどの接遇態度」と視点によって捉え方が分かれるが、サービス志向のホスピタリティは、人間自身の技量を含めて、長い時間をかけて熟練・熟達するものであり、ホスピタリティ・マインドとは、必ずしも技術の熟達によって高まるわけではなく、技術を超えた総合力であることが考察された。

### 第3章 類似点と相違点

第2章までの調べを基に、おもてなしとホスピタリティの類似点と相違点について述べた。おもてなしとホスピタリティの違いは、もてなす際の心のあり方・表現の仕方にある。「選択の自由」を尊重／重視するホスピタリティに対し、日本のおもてなしは、茶道でも表現される“侘び寂び”的心を持ち、その場にいない相手に対して、目に見えない心を目に見えるものに表す。さらにこのような努力などは主張をせず、もてなす相手に余計な気遣いをさせないことが、「おもてなし」の本質だと分かった。

### おわりに— グローバル化の中での日本の「おもてなし」—

4年後の東京オリンピックにむけて、日本の「おもてなし」は、どんどん進化していくであろう。そうすることで、日本人だけではなく、外国人、障害者の人たちに優しく、全員が心から楽しむことのできるオリンピックになることを願っている。

氏名	中田 成美	学籍番号	P013031	ゼミ№	5
----	-------	------	---------	-----	---

テーマ	障害者との共生社会に向けて
-----	---------------

本論文は、人々の障害者に対する意識の側面から、共生社会の実現における課題と解決について考察した。研究の動機は、健常者は障害者との共生社会に肯定的な意見を持っていても、実際の関わりやコミュニケーションにおいては、無意識に否定的或いは消極的な行動を示すことがあるのではないかと考え、差別や偏見について理解を深めたいと思ったことである。また、知的障害者施設での実習を通じて障害者との共生について考える中で、その実現のためには人々の意識が大きく影響していると実感したことによる。

第1章では、共生社会とは何か、またその実現に向けた障害者施策がどのようなことを目指しているのかを把握した。本稿では、2014(平成26)年に日本が批准した障害者権利条約、及びその為の法整備の下に制定された障害者差別解消法を取り上げた。また、愛媛県障害者計画についても述べ、愛媛県が目指す方向性について示しながら、特に差別解消への取り組みについて述べた。

第2章では、政府による既存調査や先行研究を基に、人々の障害者に対する意識をみていった。調査では、日本のおよそ9割の人が差別や偏見を感じているという結果が明らかとなった。また、健常者の障害者に対する否定的なイメージや態度が存在することが示されており、共生社会の実現に向けて人々の意識改革の必要性が伺えた。

第3章では、現在に続く差別や偏見、共生社会の理念が、過去からどのようにつながってきたのか、歴史的な変遷を概観した。古代から現代において、障害者差別を生み出す結果となった様々な思想や、人々を取り巻く社会や生活環境の変化、国際的な動向の影響から障害者観が形成されてきた背景について述べた。

第4章では、差別と偏見、障害者とのコミュニケーションにおける特性について考察した。共生社会に向かう為には、健常者と障害者が共存する社会への推進の下に、障害者との接触経験の必要性、共生社会やノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンといった社会理念の理解、具体的な差別概念の共有化等を指摘した。

障害者に関する福祉や施策とともに、差別や偏見の問題解決を進める為には、健常者の障害や障害者に対する関心や意識の向上が必要不可欠となる。また、一人ひとりが障害者と共に生きていくことの認識を持ち続けることが重要であるとした。

氏名	堀江 理保	学籍番号	P013033	ゼミNo.	5
テーマ	イギリス食文化				
<p>本研究では、イギリス食文化の理解を目的として、文献調査と筆者のイギリス経験を元に考察した。第1章では、まずイギリスとはどのような国であるか、理解を深めるために同国の概要を説明し、最後に筆者にとって一番の疑問であった「なぜイギリス料理はまずいと言われているか」の理由を探った。その理由には、2つの大きな理由があることが分かった。一つ目は、18世紀からスノップという中流層の者が上流階級を気取るため本物の食材ではなく「まがいもの」食材を使用し、また、味覚や楽しさよりもマナーを重要視していたことである。さらに、子どもには美食を覚えさせるのではなく粗食を美化させたことも原因となっていた。二つ目は、サーヴァントが長らく上流階級の子ども時代の食事や中流階級家庭の料理を支配してきたことにより、サーヴァント好みの食事に中流層の者が慣れたことである。美食家がいなかったわけではないが、上流・中流階級の料理を支配し続けていたサーヴァントの存在は、イギリスの食や料理のありかたに大きな影響を与えた。</p> <p>第2章では、主にイギリスの歴史を交えながら、先史時代から20世紀までのイギリス人の食生活について重点を置いた。また、ポテトやサンデーローストのようなイギリスに欠かせない食べ物と食文化について具体的に触れ、現代のイギリス人の主食を支え、イギリス料理を作る際重宝してきたオーブンの発展の歴史について述べた。</p> <p>第3章では、イギリスの階級制度について説明し、主に上流階級と労働者階級の食文化について述べた。身分によってテーブルマナーや食事の違いだけでなく、話し方までも違うことが理解できた。若い人々の間では階級意識は薄れているにしろ、今でも階級制度は存在し続けている。イギリス人の自分の生活習慣を大切にする保守的な部分は良いと思うが、話し方や生活習慣の違いで区別することについてはこれからのお子もたちの時代を考えると疑問が残る。</p> <p>第4章では、イギリスの伝統料理について紹介した。</p> <p>4章に渡ってイギリスの食文化を中心にイギリスの歴史や階級制度について見てきたが、これまでいくつかイギリス料理を作ってきたものの、古代の食生活や食文化、身分によって異なる食事などについて無知だったため、文献調査をして食文化以外にもイギリスについて理解を深めることができた。しかし、イギリスの食文化について理解しても、実際に食べてみなければ、イギリス料理がまずいというイメージは払拭できないだろう。たまたま入った店がまずかったらどの店もまずいというイメージを持ってほしくない。美味しいかどうかは、様々なお店を比べてから判断すべきだろう。筆者はこの研究をきっかけに、これからもイギリス料理の美味しさについて食文化を正確に理解した上で人々に伝えたい。</p>					

氏名	大森郁佳	学籍番号	J013008	ゼミNo.	6
テーマ	過疎地域と学校～内子町小田地区の現状から～				
<p>私の地元は、愛媛県内子町である。内子町の中でも、旧小田町にあたる小田地区で、高校卒業までの18年間を過ごした。大学入学を機に、松山で生活を送るようになったことをきっかけに、ふるさと小田の過ごしやすさ、大切さに気付いた。そんな地元小田地区は、少子高齢化が進んでいる。若い世代の人たちは、次々と町外へと出ている。このままでは、小田地区は存続が困難となってしまう。また、私の通ってきた幼稚園、小学校は少子化の影響で、廃校となってしまった。しかし、そこで学んだこと、得た経験が私の基礎となっており、誇りに思っている。このことから、過疎地域とはなんなのか、地域にある学校の存在意義について述べていきたい。</p> <p>第一章では、日本の過疎地域として、過疎地域の現状について述べていく。どのような場所のことを過疎地機と呼ぶのか、過疎地域と呼ばれるところの魅力はなんなのか明らかにしていく。また、そのような場所を守っていくための活動についても触れていく。</p> <p>第二章では、学校と地域の関係性について述べていく。どの地域にも学校があるが、なぜ学校が必要なのか、また、地域と学校にはどのような関係性があるのか明らかにしたい。</p> <p>第三章では、第一章、第二章を踏まえた上で、内子町の現状を述べていく。また、その中で内子の魅力について再認識したい。</p> <p>これらの研究により、過疎化の進む日本において、学校と地域の関係はより密接にないといけないと感じた。しかし、過疎地域において学校の存続自体が危うい。学校存続のためには、人口とお金という問題がある。まず、現状の学校数を維持するため、最低限の人口と地方税の確保が必要である。また、そこで育つ子供たちに「ふるさと」という意識を持たせることが必要である。このふるさとに対する思いは、学校のみでなく、地域とのかかわりの中で生まれるものであると考える。まちづくりにおいても、ないものねだりではなく、田舎ならでは、その地域ならではの環境を作っていくことが必要であると考える。若者である私たちにも役割がある。高齢者の多い地方では、伝統の継承が危ういとされているところが多い。行事などの伝統を守り、後世に伝え、守っていくのは、私たち若者の仕事である。それに加え、今地元がどのような状態なのか、その中で自分たちにできることは何か考えていくことが、今後の社会を担っていく私たちに求められていると考える。地元を守っていくのも、より良い環境にしていくのも私たち次第であるからこそ、少しでも地元へ関心を持ち、地元の良さに気づくことが必要であると考える。</p>					

氏名	清藤 美由紀	学籍番号	J013018	ゼミNo.	6
テーマ	女性の生き方				
<p>私は、女性として生きていく中で、女性には背負わなくてはならないものが多いように感じていた。その中で特に、「仕事と育児」は大きな割合を占めている。現代において「女性が活躍できる社会」を実現するために、社会の意識や現状が徐々に変化してきているが、まだまだ女性が納得できる社会は実現できていないように感じる。</p> <p>人々の意識では、女性の社会進出は当たり前になりつつあり、女性の活躍できる場は広がっている。働くことを通して、女性が活躍できる社会づくりがなされているが、家事・育児・介護など家庭のことの大部分を女性が背負っていることや、仕事と家事・育児の両立に関する支援・理解不足が女性の活躍を阻んでいる。また、男女平等意識は徐々に広がっているものの、まだまだ平等とは言いがたく、男女間に平等感の大きな隔たりがあることが実情である。女性の雇用の問題もあり、性別により賃金に差があることや、非正規労働者が女性に多いことなど様々な問題が見えてきた。さらに、女性特有の問題もあり、両立支援・理解不足による子育て世代の労働力率が低下している。そういう実情から、結婚を希望する若者が減少しているという問題もある。女性が活躍できる社会をつくるために、女性の活躍を阻んでいる問題を見つけ出し、解決策を考えていくことが必要だと感じた。</p> <p>女性の活躍を阻む問題を見つけ出すために、実際に現代に生きる女性達の声を聞いてみた。これまで様々なことを経験してきた女性達の思いを調査することで見えてくるものがあると思ったからだ。調査する中で、データで見るような問題だけではなく、女性一人ひとりの人生の中で、喜びや苦労があると気づいた。一人ひとり歩んできた人生は違い、人生から学んだこともそれぞれ違う。その中で、子育てに対する思いや仕事に対する思いなどはそれぞれ違うが、一人ひとりの思いの強さや、それが自分の納得できる生き方をつかみ取ろうと奮闘してきたことが伝わってきた。女性の活躍できる社会を実現するためには、女性一人ひとりが自分らしく生きていくことができる社会づくりが必要不可欠であると感じた。一人ひとりが女性であることと向き合った上で、自分らしく生きていくような社会が実現されれば良いと思う。</p> <p>研究を通して、女性の生き方は人それぞれで、女性の活躍とは決して一通りではないと気づいた。自分らしく生きていくことや、一人ひとりが活躍できる場を選択できるよう社会はこれからも変わっていかなければならない。また、私達一人ひとりが、自分らしい生き方をつかみ取っていく意識や能力を持たなければならぬと私は思う。</p>					

氏名	久保 夏美	学籍番号	J013021	ゼミNo.	6					
テーマ	愛着形成と家庭支援の重要性									
<p>私は大学生活4年間で幼児教育を学んだ。その中で特定の大人との愛着が、子どもの健やかな成長に繋がるということを知った。しかし、ニュースでは児童虐待や子どもの卑劣な犯罪行為を目にする機会が増えた。また現在核家族化や少子化が社会問題となっており、それに伴い子どもたちを取り巻く環境も変化していると思われる。今回は、文献をもとに現代家族の変化の視点から愛着形成を見つめ、家庭支援の重要性を論じていきたい。</p>										
<p>第一章では、児童虐待の定義や現状を調べ、子どもにはどのような影響を及ぼすのか述べた。児童虐待は、身体的、ネグレクト、性的、心理的の4種類に分類されている。また、児童虐待相談対応内訳は実母が約6割と最も多くなっている。そして、虐待を受けた子どもの約4割は乳幼児が占めており、親との依存度合が高い年齢の子どもが虐待の対象とされている。</p>										
<p>第二章では、児童虐待の要因と支援・援助について述べている。保護者側、子ども側、養育環境の3つのリスク要因がある。支援・援助では子どもが傷つく前に、親が壊れてしまう前に、支援していく体制を充実させようとしていることが分かった。</p>										
<p>第三章では、愛着とは何かについて述べている。愛着が築かれている乳幼児は、ストレスの緩和や安定の維持が図られる。一方で、愛着が不安定な場合は不安や反抗、攻撃性が見られることが分かった。</p>										
<p>第四章では、変化する家族の形について述べている。家族には、子どもを生み・育てる、子どもをしつける役割がある。子育て技術の継承は家の中で行われてきたが、少子化や核家族の進行、地域のつながりの希薄化などの社会環境が変化する中で、子育てが孤立し、負担感が増大していることが分かった。</p>										
<p>児童虐待は子育てが困難な社会環境の中で子育て責任を負わされた母親たちの子育ての限界であると言える。崩れてしまうのは母親だけの責任ではなく、働き方や地域、社会全体の問題なのである。社会環境をよくするためには社会の努力が必要である。また母親だけの育児から脱却するために社会がもっと子育てを支援する大切さに気付かなければならない。そして母親自身も、家族や社会と接点が持てるよう活動していくことも必要だと考える。良い循環が生まれれば親や子どもにとっても、良い環境が生まれ、それが子どもの健やかな育ちに繋がっていくのだと考える。</p>										

氏名	白戸 美春	学籍番号	J013025	ゼミNo.	6
テーマ	ディズニー・プリンセスと時代の変化				
<p>私は、ディズニー・プリンセスと呼ばれている主人公が登場する作品を全て観賞した。いつしか私は、ディズニー・プリンセスに憧れを抱いていた。これは、世界中の女性が感じているだろう。それぞれのプリンセスの性格や特徴は異なっている。それは、時代によって変化しているのではないか、また、プリンセスの女性像には、その時代の女性や人々に対して何らかのメッセージを伝えようとしているのではないかと考えた。それらを読み解いていくために、ディズニー・プリンセスの代表格である『シンデレラ』を参考に、考えていく。</p> <p>ディズニー社が制作した『シンデレラ（1950年）』の原作といわれている、グリム童話の『灰かぶり姫』は、控えめで気弱な少女であるが、復讐心を抱きいじわるさももったプリンセスであった。グリム童話集が編集された1800年代、ドイツはフランス軍に支配に苦しむ中で、連帯感を強め、自らの再生と統一を目指していた。そういった中で、どのような状況であっても、悪い人間には罰が下されるというメッセージが込められている。</p> <p>そこから、ディズニー社は、残酷な場面を取り除き、誰もがイメージしやすい新しい物語『シンデレラ』を制作した。シンデレラは、夢はいつか叶うことを信じ、自ら掴み取ろうとする強い意志を持った外向的なプリンセスであった。1950年代は、第二次世界大戦後の時代であり、苦しい生活を送る女性たちが多かった。その時代の女性たちに、自らの夢を忘れず、希望と勇気をもって幸せを掴みとろうとすることが大事であるということを伝えているのではないか。</p> <p>そして、ディズニー社自らがプリンセス像を見直し、制作した実写版『シンデレラ（2015年）』では、夢を持ち続けるだけでなく、自ら行動し自らの手で幸せを掴む、プリンセスであった。現代社会では、女性がどんどん社会進出し、高い地位に付けるようになっている。女性だからといって、自分の気持ちを抑えるのではなく、自己主張をし、勇気と親切心をもって、自らの意思で行動し、幸せを手に入れようというメッセージを受け取れる。</p> <p>『シンデレラ』3作品を読み解くと、時代ごとにプリンセス像は変化しており、その時代だからこそ生まれ、その時代の女性たちにメッセージを込めて作り上げられたものだと私は受け取った。その時代だからこそ生まれたプリンセスが、その時代の女性たちに共感され、さらに、その女性たちが憧れる時代の女性像、プリンセスとして、今でも世界中の人々に愛され続けているのだろう。</p>					

氏名	友岡陶子	学籍番号	J013031	ゼミNo.	6					
テーマ	いわさきちひろが伝えたかった事									
私が子どものころに読んだ絵本で、今でも印象に残っていたのが、いわさきちひろの描く水彩画だった。いわさきちひろの絵に込められたメッセージを読み取っていきたい。										
<p>第一章ではちひろの作品について述べている。ちひろは、一般に柔らかな絵を描く画家として知られているが、その作品は晩年の作品である。滲みを用いた理由として、絵具がどう滲むかわからない面白さに惹かれたからである。また、仕事内容は挿絵が多かったが、一人で一冊全部を描く絵本の作品を引き受けたことで、子どもを自由に絵本の中に描けることが、自分のやりたい仕事だと思い、子どもを描くうちに、世間から童画家と呼ばれるようになった。</p>										
<p>第二章ではちひろの生涯について述べている。1933年、岡田三郎助のもとで、デッサン・絵の勉強を始めたころ、世間ではぎりぎりの生存権要求が、大恐慌下に強まっていた。経済的に豊かで生活に余裕があったからこそ、絵を習うことができ、ちひろの才能が開花したのだと思う。ちひろの思想は終戦後、日本共産党演説会の菊地邦作の話を聞き、戦争がどうしておこるかを知らず、それに力をかしていた自分がこれから歩きなおすためには、戦争に反対しつづけて弾圧してきた日本共産党に学ぶことだと決め、生涯画家として、共産党員として生きた。</p>										
<p>第三章ではちひろは私たちに何を伝えているかについて述べている。ちひろは、絵の中に平和への願いを込めて描いていた。ちひろは、戦争が物を壊すことだけでなく、人の心を蝕むことを、身をもって体験したからこそ平和への思いを貫いたのだと思う。青春時代を暗い中で過ごしたことを、自分の子どもや未来を生きる子どもたちには同じ思いをさせないようにと、ちひろなりに絵を描くことを通してその思いを必死に守っていたと思う。</p>										
<p>総括として、働く女性像の先駆け的な存在だったと思う。ちひろの死後、ちひろを支えていた人々の努力により、ちひろの作品が世の中に広まっていたのではないかと思う。ちひろは生涯を通じて強い政治的な思想を持ち続けたがちひろの作品には、そうしたイデオロギーを超えたメッセージが込められていると思う。ちひろの子どもを思う強い気持ち、平和を願う強い気持ちは本物だったのではないかだろうか。そして、それが時代を超えて多くの人びとにやわらかく、自由や平和の思いを抱かせるのだと思った。</p>										

氏名	濱田 奈穂子	学籍番号	J013036	ゼミNo.	6
テーマ	食物アレルギー児のための給食環境について ～安全で楽しい食事環境づくり～				
<p>昔から食物アレルギーはあったようだが、最近はアレルギー保持者が増加しているように感じる。その背景には食文化や住環境の変化が関わっているのではないかと考える。論文ではアレルギー症状や症状が出た際の対処法、食物アレルギーを持つ子どもへの保育現場での対応などを踏まえ、現代の食物アレルギーについて考えた。また、どうすれば食物アレルギーがある子どもも楽しく食事ができるかについて自分の考えをまとめた。</p> <p>第一章では、食物アレルギーが増加している現状と原因、アレルギー反応が起こる仕組み、『即時型症状』『特殊型アレルギー』などアレルギーのタイプについてまとめた。</p> <p>また、アレルギー反応による症状と、症状別における対応の仕方について、表を用いてまとめた。</p> <p>第二章では、食物アレルギーを持つ子どもへの対応についてまとめていく。</p> <p>まず、食物アレルギー児に対する園ごとの対応の違いでは、私が2つの園で実習し、対応の違いについて感じたことをまとめた。</p> <p>また、実際に起きた給食時の食物アレルギー事故の事例と検証結果の報告書をもとに、事故から見えてきた課題と対応のあり方について考えた。</p> <p>さらに、厚生労働省と文部科学省のガイドラインを比較し、共通点と相違点をまとめることで、国のガイドラインによる給食現場での対応について整理した。</p> <p>第三章では、給食現場での対応のあり方について4つの項目に分けて考えをまとめた。席の配置、アレルギーと判断しやすい食器・盆の用意、代替食の見栄えなどに注目して、配慮点を整理した。</p> <p>まとめでは、みんなが楽しく給食を食べられるような環境や雰囲気づくりについて述べた。食物アレルギー児に対する安全の確保と安心して食べられる環境構成に関しては、必須である。しかし、制限するばかりでは楽しい給食にはならないと考える。そのため、食物アレルギー児も他児も、全員が楽しく給食を食べられるような雰囲気をクラスで作っていくことが大切である。</p> <p>また、季節感を感じられる行事に合わせた給食の魅力についても触れ、楽しく食べられる理想の給食について考えをまとめた。</p>					

氏名	家高 志歩	学籍番号	J012501	ゼミNo.	6					
テーマ	子ども食堂とは									
豊かな国日本で、現在「子どもの貧困」や「孤食」などという問題がある。その問題の一つの改善策として「子ども食堂」が誕生した。本研究は、子ども食堂を身近に感じる機会とする。										
<p>第一章では、食生活の機能と孤食問題について述べている。食生活は、生理的欲求を満たすほかに、人とのコミュニケーションや、食事のマナー・文化の伝承の場である。共食することは人間が生み出した文化であるが、失われつつある。</p>										
<p>第二章は、子ども食堂の目的、背景を述べている。子ども食堂は、経済的な事情などにより、家庭で十分な食事がとれなくなった子どもに、無料もしくは安価な食事や居場所を提供することをいう。子ども食堂が全国で取り組みが始まっている背景には、子どもの貧困がある。2012年には、6人に1人の子どもが貧困であるということが分かり、深刻な問題になっている。</p>										
<p>第三章は、実際に久米地区の「ふれあい食堂」に参加した内容をまとめ、課題や今後などを述べている。「ふれあい食堂」は、子ども食堂のタイプ分けでいうと、「共食食堂」に近い子ども食堂である。毎週木曜日午後6時から開催しており、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の人々が集まる。今後は久米地区にある11の町に子ども食堂を作ることを考えている。活動を継続することで、人が人を呼び、貧困家庭やネグレクトで苦しんでいる子どもたちが来店することが願いだ。</p>										
<p>今、全国で取り組みが始まっている「子ども食堂」は、地域で食習慣や文化を支えている存在の一つだということが分かった。</p>										
<p>これまで、子ども食堂を中心に地域子育て支援のあり方を見て、「子ども食堂」の可能性を見出し、社会教育の必要性を感じることができた。</p>										
<p>子ども食堂は、現代のさまざまな問題を改善できる内容であり、比較的取り組みやすい事業ということから、ここまで多様化しているのではないかと考える。しかし、多様化する中で、子ども食堂の目的や費用負担の問題、ボランティアなどの担い手の問題、地域のまちづくりに本当に繋がるのかなどという問題点も出てきている。</p>										
<p>これからも増え続ける子ども食堂。地域に根づく、理想的な子ども食堂が増えることを期待したい。</p>										

氏名	門屋 日菜子	学籍番号	J013013	ゼミNo.	7
テーマ	保育学生の絵本の嗜好性とその傾向				
<p>実習などを通して子ども達が絵本を見て様々な反応をしていることを感じた。子ども達が絵本を選ぶことは少なく、ほとんどが読み手である保育者、保護者が選び、それを子ども達に読み語ることが多い。その絵本を選ぶ側である読み手と受ける側の聞き手はどのような絵本を好むのかを疑問に感じた。</p> <p>保育学生に自由回答式のアンケート調査を行った。子ども時代に好んだ絵本と現在の好みの絵本の違いを分析し、幼少期の子ども時代と保育を学ぶ学生という2つの視点からどのような絵本が選ばれているか分析する。</p> <p>絵本とは識字能力の大人に向けられた絵だけを描いた本であった。それが年月を通して言葉やリズムが組み合わさったことにより、より子どもや親に親しまれるようになった。絵本は様々な機能、内容によって分類される。それぞれの年齢や発達に沿った子どもが楽しめる絵本を選ぶことがまずは大切であると言える。</p> <p>また、アンケート調査により明らかになったことは幼少期から現代にかけて絵本『ぐりとぐら』が多くの学生からの支持が得られていることであった。この『ぐりとぐら』を中心としてどのような絵本が好まれるのかを述べる。好まれる絵本として、まず、ストーリーの展開については現実的ではないものの、ストーリーの中に日々の子どもの姿と重なりあう点が多くあるものが挙げられた。また、直接的に道徳心などについて述べた絵本ではなく、ストーリーの中から子ども自身が協調性や安心を感じられるような絵本が好まれているということが分かった。また、経験面では安心できる大人に何度も読んでもらったり、その絵本の中から出てくるものを実際に遊びに繋げていったりしがことが多いものであった。これらのことから、長い間好まれる絵本となっていったことが分かった。それらのストーリー性や経験が重なっていくことが、多くの人にとって印象に残る絵本と言えるだろう。</p> <p>子どもが出会う絵本は保育者、保護者によって左右される。子どもに『こうあってほしい』という思いを持つことは大切なことである。しかし、それにただ沿った教育的効果を重視した絵本ばかりを読み語りするのではならない。子どもがその絵本を楽しめるだろうかという子どもの視点から絵本を選ぶことやその絵本を読むことで子ども達がどう感じ、育つていけるだろうかといった心の育ちに配慮することが大切だ。また、日々の子どもの生活を通してどのようなことに興味を持っているかを知ることで子どもの好む絵本を選べるのではないかと考える。</p>					

氏名	濱田 紗香	学籍番号	J013035	ゼミNo.	7
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	個人の性格がパーソナル・スペースに及ぼす影響
-----	------------------------

パーソナル・スペースとは個人の身体を取り囲む目には見えない持ち運び可能なテリトリーのことである。この個人のテリトリーである空間に他者が侵入すると不快、不穏、落ち着かなくなる。それと同時にその不快な状態を回避するために人は何らかの回避行動をとるとされている。

私がパーソナル・スペースに興味を持ったきっかけは友人との会話をしているときに感じた異質感、不自然さである。私が違和感なく、心地よいと感じる距離で友人との会話を楽しんでいても、徐々に友人の方から私との間の距離を詰めて来ることがある。そのようなことを意識し経験する中で、私が違和感なく心地よいと感じる距離感と相手が心地よいと感じる距離感は必ず誰もが同じ距離で一致するとは限らないのではないかと考えるようになってきた。そこで、この研究は個人のもつ性格が内向的だとパーソナル・スペースが広いのではないか。反対に外向的だとパーソナル・スペースが近いのではないかと仮説を立て、個人のパーソナル・スペースを測定し、内向性と外向性の個人の特性との関連を検証してみようと考えた。

東雲女子大生 34 人を対象にストップ・ディスタンス法と YG 性格検査を行った。個人の性格特性とのパーソナル・スペースの結果は以下のようになつた。

#### 外向性と内向性のパーソナル・スペース

外向性 B 類と D 類(50% n=17)	Av=60.6 cm
内向性 C 類と E 類(50% n=17)	Av=62.4 cm

#### 安定と不安定のパーソナル・スペース

安定 C 類と D 類(44.1% n=15)	Av=70.0 cm
不安定 B 類と E 類(55.9% n=19)	Av=54.7 cm

個人の性格が内向的だとパーソナル・スペースは広く、外向的だと狭いという仮説を立てて研究を進めてきたが結果は仮説を立証する結果とはならなかった。パーソナル・スペースの距離の差は個人の性格が内向的か外向的かのみに影響を受けるものではなかった。性格の内向性、外向性よりも相手との親しさ、親密さが大きな要因だと考えられる。さらにそれ以外の要因があるかもしれない、パーソナル・スペースの距離に関しては内向性・外向性以外の複数の要因が関連している可能性が示唆された。

今回の研究は研究対象者の人数が少なかった。そして、パーソナル・スペースは性格だけではなく、年齢、身長、専攻などによっても変化するとされている。今後は人数を増やし、さらなる研究が求められる。

氏名	万願寺梨奈	学籍番号	J013041	ゼミNo.	7
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	発達に影響を及ぼす虐待、ネグレクトの研究
-----	----------------------

第1章では、このテーマにしたきっかけについて述べている。日頃のニュースや報道で、「虐待」や「ネグレクト」の話題が事欠かない状況である。これらの話題を聞いていくうちに、段々と虐待やネグレクトをしてしまう親の心情や生活歴、虐待やネグレクトが子どもたちに与える影響にはどのようなものがあるのだろうかと考えるようになった。その後、児童養護施設へ実習に行き、それから徐々に虐待やネグレクトについて強く興味が湧くようになり、今回このテーマで論文を書くことにした。

第2章では、被虐待児の特徴について述べている。「児童虐待」は、身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクト(育児放棄)の4種類に分けられる。そして、「ネグレクト」は、一般的ネグレクト、医療的ネグレクト、教育的ネグレクト、情緒的ネグレクト、保健的ネグレクトの5種類に分けられる。これらのこと踏まえ、実際の保育園で見られた、被虐待児の特徴について述べている。また、マズローの欲求5段階説と被虐待児との関係についても述べている。

第3章では、反応性愛着障害について述べている。反応性愛着障害とは、生後5歳未満までに親やその代理となる人と愛着関係がもてず、人格形成の基盤において適切な人間関係をつくる能力の障害が生じることをいう。

第4章では、自閉症スペクトラム障害(ASD)について述べている。自閉症スペクトラム障害(ASD)は、DSM-III(Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders-III: DSM-III)からDSM-IVまでは、「広汎性発達障害(Pervasive Developmental Disorder: PDD)」という名称だった。だが、DSM-5からは、「自閉症スペクトラム(ASD)」という名称に変更された。

第5章では、虐待やネグレクトの脳への影響について述べている。21世紀になると、脳研究の進展により、子ども虐待が原因の慢性的なトラウマによって脳の形や構造、働きに変化が見られることが徐々に明らかになってきた。

第6章では、被虐待児の治療的ケアについて述べている。虐待をしてしまう母親たちの不安やストレスを減らすためには、相談や頼れる相手の存在が必要なのではないかと考える。

第7章では、これまでのまとめを書いている。私は、大学卒業後は保育士として働く。もしかしたら、これから現場に出て、虐待やネグレクトに苦しむ子に会うかもしれない。その時には、今回の学びを生かしてできる限り早期発見できるように努めたい。育児ストレスを抱える母親に会った時には、その人の気持ちに共感し、寄り添うということを第一にしていきたい。

氏名	宮岡 あやめ	学籍番号	J013043	ゼミNo.	7
テーマ	発達障害とコミュニケーション ～私の中の発達障害～				
<p>2013年5月にアメリカ精神医学学会(American Psychiatric Association: APA)から DSM-5 が発刊された。従来の発達障害のサブグループが見直されて自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder: ASD) と単数形の診断表現となった。現在、日本の社会問題のひとつとしてニート (Not in Education, Employment or Training: NEET) や引きこもりがある。これらの若者の中には少なからず発達障害があるために社会的適応に困難をきたすものがいるようである。そのような若者が社会の一般労働力として Tax Payer となる必要を強く感じる。一般就労を通して、労働を中心とした就労生活を実現することは、彼らの社会的承認要求を含め自己実現を具現化するものであると考える。結果的に Tax Payer となることは、日本人としての納税義務を果たすことにもつながり、生活の中から自己肯定感の醸成につながると考えられる。昨今、発達障害への注目が高まる中、私自身も診断を受け、自らが発達障害であることがわかった今、性格だと思われ続けた過去と理解してくれている人、また、理解がなくとも多くの人に支えられている、相談に乗ってくれる人がいるという現在を大事にしたいと考えている。私の診断をした先生は「コミュニケーション障害は治る障害ではないが、本人が変わろうと努力をすることで変化がある」と話していた。変わろうと行動することの大切さや障害を理由にして逃げるのではなく、変われないと考えている。障害があろうと、出来ることをとことんやればいいし、周りが理解してくれなくても、自分自身が一番理解していればいいと思うし、発達障害の特徴を個性に変え、武器にしていくべきだと考える。コミュニケーション障害として生きづらいと感じている人たちの支えになれたらと思い、知識のない人たちに理解してもらえる思いを胸に、この世の中を背景に、本研究では、「コミュニケーション」に焦点をおき、個人内の問題と個人を取り巻く社会環境の問題に2分し、それぞれの原因となっている個人的な問題と社会的問題をいくつか取り上げている。主にネット依存については今後も注目していくことだろうと考えられる。さらには、解決可能性のある個人あるいは社会の問題に対して対応可能な発達障害への理解と適切な対応の重要性があるということを明らかにした。対処療法と予防的対応について説明したい。</p>					

氏名	渡部 晴香	学籍番号	J013049	ゼミNo.	7
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	アニメキャラクターに見られる発達障害 ～自己認知と投影～
-----	---------------------------------

### 【研究背景と目的】

私は幼い頃からアニメや漫画にとても関心があった。昔は考えたこともなかったが本学に入り障害についての勉強としてダウン症や発達障害に関連した内容の本を読んでいく中で、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症アスペルガー症候群などの言葉を多く耳にするようになった。そういううちにふと、アニメや、漫画の主人公達の行動や言動が発達障害の特性にとても似ているということに気がついた。例えば、ドラえもんに登場するのび太はいつも宿題を忘れたり、遅刻をしたりしている。片付けが苦手で後先考えず行動したり、上手くいかないことはすぐドラえもんに頼ろうと泣きついたり他人にばかり頼ろうとする様子が見られる。こうした特性は ADHD の特性に当てはまると考えられる。アニメや漫画といった二次元の世界に没頭する人は発達障害を持っている可能性が高いのではないかと考えた。個人の性格をキャラクターに投影させ AQ 検査の結果から何がわかるかもしれないと思い、今回の研究に至った。

### 【研究方法】

研究方法としては発達障害に関する文献によるデータの収集、某専門学校に在学する男女 146 人に対して個別調査を行った。アンケートは独自に作成したフェイスシートと BIG5 と AQ テストをそれぞれ記入式で実施した。アンケートの結果を踏まえ結果と考察を纏めていくとともに、今後の支援の在り方や現状について検討していく。

### 【結果と考察】

今回のアンケートは 146 名に対して行ったが得られた有効回答数者は 106 名と低かった。全体的に無効回答となってしまった 40 名に注目してみると AQ ポイント 33 点を超えてはいなかったが、平均を見てみると 29 点とやや高めであった。BIG5 五項目の平均をみると、AQ ポイント 33 点以上の人たちと同様、情緒不安定性が大きく突出していた。しかし、開放性を見てみるとエラー群は 58 ポイントと高めであり、106 名の全体グラフと比較して「ジャイアン型」に類似している。異常な活動性を持つタイプとしての ADHD の特性をあてはめるしたら、生活には支障が出ていない程度の予備群ということが考えられた。本調査では数名 ASD の傾向を持つ生徒が見られたが、オタクと言われる人たちが必ずしも ASD の傾向を持っているという事ではないことを述べておくとともに、自分の居場所が獲得されるのであればそれでよいと私は考える。今後の課題としては人数が限られており結果的には反映されなかったが、調べる人数をもっと増やすとまた何か新しいことが分かるかもしれない。妥当性をあげて今後にどう生かしていくのかが今回の課題となってくるだろう。

氏名	相澤笑子	学籍番号	P013001	ゼミNo.	7
テーマ	障害に対する高校生の意識調査				
<p>「障害に対する高校生の意識調査」をテーマに、高校2年生を対象に質問紙調査を実施した。目的は、高校生が障害者という存在を知っているのか、また障害についてどれほどの知識があるのかを調査するためである。障害者が社会的弱者とされていることと、「障害者」という存在がいることや「障害」の意味なども知らない人もいるのではないか、と感じ、「障害者」についての高校生の意識を調査した。調査結果から障害者への認知度や立場の改善、周りから理解してもらうためにはどうすれば良いのか、方法の糸口を見つけたい。</p> <p>障害認知度では、障害者手帳が用意されている身体障害（89.4%）、精神障害（76.4%）、知的障害（83.9%）に関してはよく耳にする名称なだけに認知度も高い結果となった。身体的な問題をかかえる視覚障害（94.9%）や聴覚障害（93.7%）に関しても個別の感覚器官の障害という事からイメージしやすいため高率に認知されているようである。さらにダウン症（87.4%）パニック障害（86.8%）発達障害（85.8%）と近年マスメディアのドラマ等で取り上げられる障害としての認知度の高さが反映されているようである。</p> <p>Q5のあなたは世の中には障害がある人に対して、差別や偏見があると思いますか。（図22）という問い合わせでは、79%～90%と高い確率で世の中に差別や偏見があると回答している。これは高校生が社会に対して差別や偏見があると感じる機会が多くあるからだと言える。</p> <p>差別も偏見もボーダーラインがはっきりしない。しかし、本人が差別されたと感じた時点で考えなければならないものがあると考える。「差別」や「偏見」、「障害者」などという言葉が無くなることを願いたい。そしてどのようにすればそのような社会を実現できるのだろう。それは若い世代である高校生や大学生のうちから福祉教育を充実させなければならないだろう。ひとりひとりが障害者を「関係ない」、「自分とは違う世界の人」などと考えず、自分のことのように向き合い、考えることが求められる。</p> <p>学校という集団生活の場面で学習障害など見えにくい障害に対して必要な支援も多くある。それに対して対応できる環境や人材を整えておくべきである。</p>					

氏名	黒萩 菜摘	学籍番号	P013014	ゼミNo.	7
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	発達障害の発症要因と今後の支援
-----	-----------------

## 第一章 はじめに

私は自閉症である妹をきっかけに、障害者と関わるボランティアやアルバイトを複数してきた。利用者の中にはきょうだい全員が障害を持っていたり、きょうだいの誰かが障害を持っていたりする人たちがいた。私たちきょうだいのような人たちがいることを知り、発達障害は遺伝するものなのか研究したくなった。また、障害者への捉え方もどんどん変化してきている。歴史的背景も踏まえ、今後どのような支援が求められるのかについても考察する。

## 第二章 発達障害の発症要因

この章では、発達障害の発症要因として考えられる遺伝要因と環境要因の2つについて述べている。発達障害は遺伝される場合もあるが、必ず遺伝されるというわけではなく、環境要因によって後天的に症状が見られる場合もある。また、私は多発性硬化症という難病を患っており、妹の自閉症と何か関係しているのか研究を進めていくと、「炎症」が関係していることが分かった。

## 第三章 障害者の歴史

この章では、日本の障害者の歴史と海外の障害者の歴史について述べている。日本の障害者の歴史は、日本最古の歴史書である『古事記』にも記されている。障害者の歴史は、日本の誕生から既に始まっていた。海外の障害者には、ハプスブルク家という王家があったのだが、この王家は近親相姦を繰り返し、これが原因で家系内には知的障害者や病弱な者がいた。この時代の王家では、一族の純潔を守り、財産の拡散を防ぐために、近親婚が普通だったようだ。

## 第四章 障害の捉え方の変化

この章では、レオ・カナーや、ICIDH、ICFの考え方の変化について述べている。自閉症が認識されたのは、アメリカの児童精神科医のレオ・カナーが1943年に早期幼児自閉症として報告したのが最初である。現在はICIDHからICFの考え方へ変わり、「病気」や「障害」といったマイナス面から「生活機能」というプラス面に視点を移したということで、いわば180度の考え方の転換がされた。

## 第五章 結論

発達障害を発症する要因として、遺伝要因と環境要因どちらも挙げられる事が分かった。また、自閉症者がいる家系には自己免疫疾患を発症する者も多い事が分かった。自閉症者には何らかのアレルギーを合併している者が多く、アレルギーも自己免疫疾患のひとつで、やはり「炎症」が関係していると考える。現在はICFの考え方が主流になってきている。障害をもつ人は、健常者と比べてできないことが多いかもしれないが、それぞれがもつ特技や個性を伸ばしていく支援が必要だろう。

氏名	谷本 若加奈	学籍番号	P013027	ゼミNo.	7
テーマ	姉妹の性格の違いと子どもへの発達の影響について				
<p>この研究では姉妹の性格による子どもへの発達の影響について調べた。私は、人の個性には親から受け継ぐ遺伝と生活環境が相互に影響すると考えた。きょうだいでもその性格は別のものではあるが同じ共通の重なりのある遺伝子を受け継ぐ者として、その性格はきょうだいに共通する特性があるかも知れないと考え、きょうだいの子どもの代となればどうであろうか。きょうだいの共通部分の性格が子どもの発達、つまり孫の時代に同じように作用し影響する可能性はあるのかどうかの疑問をもつた。もし仮に影響をおよぼすのであれば、孫どうしの関係であっても祖父母から受け継いだ遺伝子レベルの特性が反映されて孫の代でも少なからずいくらかの共通点があるのではと考えた。以上のことから、私は、同じ両親から生まれたきょうだい特有の性格がその子（孫）の発達に対して影響するであろうと考え、孫の代での性格の一致度がどの程度であるかについて調べた。方法として、二人の姉である母親（A、B）の性格の違いを知るため、YG 性格検査を使い、主たる養育者である母親の性格検査を行った。そこから姉妹（A、B）の性格、主にYG 性格検査の6個の集合因子の一致する部分、相違点を調べた。そして、従妹関係にある孫の代の子どもたちについての発達の概要を調べるために津守式乳幼児精神発達検査を実施した。そして、きょうだいでもその性格は別のものではあるが同じ共通の遺伝子を受け継ぐ者として、その性格はきょうだいに共通するパターンが見いだされた。次に、子どもの発達の津守式乳幼児発達検査においても、似たようなパターンがみられた。このことにより、最終的にはきょうだいでもその性格は別のものではあるが同じ共通の遺伝子を受け継ぐ者として、外部環境からの影響を受けた大人の姉妹でも同じような性格の形がみられることにより、養育の方向性は同じと思われる。</p> <p>きょうだいの共通部分の性格が子どもの発達に同じように作用し影響し、影響をおよぼしていると思われる。子の代つまり孫の関係であっても祖父母から受け継いだ遺伝子レベルの特性が反映されて孫の代でも少なからずいくらかの共通点があった。</p> <p>以上の結果により、人の個性には親から受け継ぐ遺伝と生活環境が相互に影響し、多くの遺伝情報を共通にもつ兄弟姉妹においてはその性格は全くの他人よりは共通項があり、その性格はきょうだいに共通する特性がみられた。このことにより、きょうだいでもその性格は別のものではあるが同じ共通の重なりのある遺伝子を受け継ぐ者として、その性格はきょうだいに共通する特性があると考えられる。そして、きょうだいの子どもの代でもきょうだいの共通部分の性格が子どもの発達、つまり孫の代に同じように作用し影響する可能性はあると考えられる。そして子どもの発達に少なからず影響をおよぼし、孫どうしの関係であっても祖父母から受け継いだ遺伝子レベルの特性が反映されて孫の代でも少なからずいくらかの共通点があると思われる。</p>					

氏名	中田 悠	学籍番号	P013032	ゼミNo.	7
テーマ	私たちから変える障害者意識～決めつけないで、私たちのことを～				
<p>障害者である私の障害に対するイメージと。健常者の考える障害のイメージには違いがある。障害者は大変そうだと思われがちであるが、障害者自身は障害をそこまで重く受け止めていない。そこで、障害者が自分の障害をどう捉えているのかを健常者が知ることで、健常者の障害に対する考え方方が変わるのでないかと考えた。また、障害者に対する考え方方が変われば、障害者との関わり方や支援のあり方もより適切で効率的な方法へと変わると考えられる。健常者は、自分が「見えなくなったら」「聞こえなくなったら」という中途障害の視点で支援を考え配慮している。この考え方では、障害のある状態が当たり前である先天性の障害者への支援には当てはまらない場合がある。この研究を通して、障害に対する考え方を見直し、これからの適切な支援につなげていくことができると考えられる。</p> <p>1979年の養護学校義務制以前の日本では、障害者やその親への差別や偏見が著しかった。なので、当時の障害者は、自分のせいで親を悲しませていることに悲しみ、自分の障害をもって生まれてきた自分を責めていた。しかし、母親も子どもに対して障害をもって生んでしまったと生んだ責任として自分を責めていた。どちらも悪くないのに自分を責めている。そうさせたのは、社会である。養護学校が義務制になってからは、社会の障害者に対する見方はだいぶ変わってきた。障害者差別をなくそうという傾向にある。この頃には、障害者を見かけたら助けるのが当たり前といった人も増えてきた。そのおかげで、昔は人目を気にして家に隠れがちだった障害者は、外へ出していくようになった。一人で外へ出ても誰かが助けてくれるという考えをもつようになった。こうした考え方の人たちは、自分の障害に対して前向きであった。現在の障害者は、特に先天性障害のある人は自分の障害を障害とは思っておらず、むしろ社会が自分を障害者にしていると考えている。周りが自分を障害者として扱うから自分は障害者であると認識させられているだけで、自分は他の人と変わりなく生活できているのにと思っている。</p> <p>障害を前向きに捉えるためには、周りの関わり方が重要である。周りが冷たい視線を送れば障害者は障害を疎ましく思うが、周りが支えてくれれば障害を気にすることもなくなるだろう。人が意識せずに呼吸をするのと同じようにあるいは空気の存在と同じように障害者が一般社会の中で生活できる自然な社会環境が望まれる。</p>					

氏名	岩越 千佳	学籍番号	P013005	ゼミNo.	8
テーマ	アスペルガー症候群の子どもへの支援のあり方				
この卒業論文では、アスペルガー症候群の子どもへの支援のあり方について明らかにすることを目的とする。					
<p>第1章では、発達障害や自閉症についての定義を述べていく。その理由は、自閉症について理解を広めていくために発達障害について広くとらえていく必要があるためである。具体的には自閉症の定義と高機能自閉症・アスペルガー症候群と低機能自閉症について述べている。</p> <p>第2章では、(1)障害告知について、(2)パニック状態や感情的になった場合について障害の分野を専門とする大学教員(子ども専攻高橋圭三教授)にインタビュー調査を行ったことについて述べている。それぞれを無責任な支援方法をすれば子どもを傷つけるだけになる。正しい対処法を知ることで焦ることなく対処でき、子どもたちとより良い関係を築いていくことができるを考える。</p> <p>第3章では、第1章・第2章で取り上げた題材についての考察を述べている。まず、(1)障害告知については、障害告知をする時に障害についてきちんと説明することで子どもが自分自身がどのような障害を持っているのか、どういった特徴を持っているのかを知ることができる。また、今まで自分が周りの人よりもできていなかった理由が分かり、子どもはすぐに受け入れ、前向きになる。このことから障害告知は積極的に行つた方が良いと考える。</p> <p>次に(2)パニック状態や感情的になった場合については、子どもが落ち着ける部屋や場所を用意し、第一に気持ちを落ち着かせ、刺激しないことである。できれば事前にどういった状況でパニックを起こすのかを把握しておき、先回りしてパニックの原因となるものを取り除いておくことが大事である。</p> <p>以上のことから、障害を持つ子どもと関わっていく中で一番大事なことは、“どれだけ子どもを受け入れるか”だということが分かった。子どもと常に自然体で関わりながら、表情や会話での日常との違いから子どもの気持ちを少しでもくみ取り、理解していくことが必要である。子どもに前向きになってもらえるように障害告知の後の支援や、パニック状態になつときの対処をしっかりとしていくことが支援者としてのあり方だと考える。</p>					

氏名	菅 まみ	学籍番号	P013011	ゼミ No.	8
テーマ	在宅介護における高齢者虐待 ～高齢者虐待を防ぐための対策とは～				
<p>社会の高齢化に伴い、高齢者虐待の増加が近年問題となっている。虐待は高齢者的人権を侵害し、その人がその人らしく生きる生き方を否定するものである。そもそも日本で「高齢者虐待」という言葉 자체が存在したのは 1990 年代に入ってからである。それ以前の日本では虐待に対して社会に認知されていなかった。現在においても、身体的・精神的・経済的虐待といった「虐待」に対して社会の理解も十分であるとは言えない。高齢者の家族からの虐待は、表面化されにくく対応をより難しくしていると考えられている。また、虐待を引き起こしてしまう要因や背景に目を向けると、養護者の抱える問題、老老介護の増加、地域関係の希薄化など、様々な課題が浮き彫りとなった。</p> <p>高齢者虐待には様々な形態があり、養護者による虐待判断件数は、養介護施設従事者等による虐待判断件数と比べ圧倒的に多い。中世・近世の時代では高齢者人口も少なく、地域集団で助け合うことで高齢者の扶養が機能していた。しかし、明治以降の日本では核家族化が進み、高齢者介護に対する意識や行動様式は大きく変化していき近隣所の協力を得ることが難しい状況が一般化されていった。先行調査からは、虐待を受けている高齢者の大半が後期高齢者であり、主な虐待者は息子や夫で男性が大半を占めている現状が明らかとなった。</p> <p>では、どのように高齢者虐待を防止すればよいのか。地域のつながりの強化を図るために、「出会いの場」が必要であり身近な地域で支えあいのできる地域社会の形成が重要である。虐待を引き起こす要因の一つになっているストレスを溜め込まないことも重要である。課題も多く、高齢者虐待防止法が成立したにも関わらず、高齢者虐待は増加傾向にある。つまり、法律があるからといって防止対策となっているわけではないと考えられる。今後、高齢者虐待に対応する専門家・地域に生きる私たち・社会全体として求められていることは、サービスの強化、声掛け・挨拶、様々な分野の専門家との連携など多くある。まずは、一人一人が虐待について真剣に考え、虐待は特別な問題ではなく誰しもが起こりうる身近な問題であることを再認識するべきである。</p>					

氏名	北野ももこ	学籍番号	P013013	ゼミNo.	8
----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	身体障害者の偏見を無くす方法
-----	----------------

2016年7月26日、相模原市緑区千木良の障害者施設にて、多くの障害者が殺害されるという無残な事件があった。事件の犯人である植松聖容疑者は、動機を「障害者なんていなくなればいい」と語っている。彼に関する記事などを読んでみると、障害者への偏見や差別を取り上げているものが多く、それにより障害者に対する偏見に关心を持つようになった。そこで本研究では、身体障害者の偏見の歴史と、現在の身体障害者の考え方を、文献などを用いて分析し、身体障害者への偏見を無くす方法を考察していく。

第1では、過去の身体障害者がこれまでの歴史でどのような扱いを受けていたかを取り上げた後、過去の身体障害者である中村久子について、詳しく述べていく。障害者への偏見が強く、現代よりもあからさまに嫌悪していた時代を生きた中村氏の主張、生き方を分析することは、偏見を無くすために必要なことを見出すきっかけとなった。

第2章では、1章で調べた過去の身体障害者と、現代で生きる身体障害者の環境の違いを比較しながら、現代の身体障害者の偏見に対する主張に焦点を当てていく。この章では現代は制度では障害者は守られていることを述べた後、倉本智明氏とエド・ロバーツ氏という現代の身体障害者について取り上げている。二人の身体障害者の考え方や生き方を考察することにより、過去と現代では、身体障害者に対する偏見の質が違うのではないかという結論にいきついた。

第3章では、1章と2章の内容を照らし合わせ、身体障害者への偏見は、過去と比べ現代ではどのように変化しているのかを考え、そしてそれを無くすために必要なことは何なのかを事例を使い、身体障害者の母親と、身体障害者本人の両者に偏見が存在していることを挙げた後、両者からその偏見を取り除くために必要なことを述べた。

以上のことから、身体障害者への偏見という根拠のない決め付けは、過去のように残酷で、あからさまなものではないが、現代でも確かに存在していることが分かった。そして、偏見というものは、健常者の中にだけあるものではなく、障害者と健常者どちらにもあり、その偏見を無くすために必要なのは、障害者自らの、活動的な行動である、という結論にいきついた。

氏名	渡部花菜	学籍番号	P013041	ゼミNo	8					
テーマ	認知症高齢者と地域コミュニティの衰退について ～認知症高齢者を地域で支えるためには～									
この研究テーマを選んだ理由は、実習で認知症高齢者の方と関わったことがきっかけだ。関わっていく中で、本人やその家族をどのように支援していくべきなのか疑問をもった。また、認知症サポーター養成講座を受講し、本人やその家族を地域で支えていくことが重要であることを理解した。										
しかし、地域の方との関りが少なくなっていると考える。現在ではインターネットが普及し、人と関わることが少なくなっている。また、近所の方がどのような人なのかわからない人も少なくない。このような状況を踏まえ、認知症高齢者とその家族を地域で支えるためにはどうすればいいのか疑問をもった。本稿は、文献研究で行う。										
第1章では、認知症高齢者の増加について述べる。厚生労働省より、高齢者の人口と高齢者の単独世帯・夫婦のみの世帯の増加に伴い、認知症高齢者は増えていることを示す。										
第2章は、地域コミュニティの衰退について述べる。地域コミュニティの定義と3つの機能を示す。総務省は、以下の6つの現状が地域コミュニティの衰退の原因となっていると述べる。(1)地域により異なる地域コミュニティの現状、(2)人口構造・流入出による現状、(3)産業構造の変化、経済競争の激化によりもたらされた現状、(4)町の構造等にかかる現状、(5)地域で活動する各種主体の現状、(6)人づきあいや地域活動に関する意識・志向にかかる現状である。										
第3章は、認知症高齢者を地域で支え、地域コミュニティを再構築するための取り組みを述べる。認知症高齢者を支えるうえで重要なオレンジプランがあり、その7つの柱に關係している取り組みを示す。7つの柱の中に、認知症サポーター養成講座、認知症カフェ、地域包括ケア、見守りネットワークが含まれる。これらの取り組みは、認知症高齢者を地域で支えていくだけではなく、地域コミュニティの再構築につながることを指摘する。										
認知症高齢者が増えている中、地域コミュニティは減少している。その中で、地域コミュニティを取り戻し、地域全体で認知症高齢者の生活を支える取り組みが行われている。これから増えていく認知症高齢者をしっかりと私たちが支えなければならない。しかし、まだ認知症についての理解、地域との関わりが増えていくとは思えない。様々なイベントや講座など積極的に参加しやすい環境をつくり、地域の輪を増やしていくべきである。地域コミュニティが衰退の一途をたどる中、これから地域の人たちとの関りが重要になっている。										

氏名	比嘉 千菜美	学籍番号	P013501	ゼミNo.	8
テーマ	日本の若者の幸福について				

### 1 研究の動機

2016年度の幸福度ランキング(持続可能な開発ソリューション・ネットワーク調べ)では1位 デンマーク 2位 スイス 3位 アイスランドに続き、日本は去年の46位から順位を7つ落とした53位であった。経済大国のひとつであり医療機関や教育現場など国のあらゆる環境が整っている日本であるのに、国民がなぜ幸せでないのかと世界でも問われている。しかし、筆者は今まで生きてきて自分が不幸だと感じたことはない。なぜ日本は不幸な国と言われるのか、本当に日本人は幸福ではないのかという疑問から、私と同世代の若者は現在の暮らしにどれほど幸福を感じているかを知りたいと思い、研究テーマとした。

### 2 研究方法

今回はアンケート調査を行い、調査地域として松山東雲女子大学の一部の学生を対象(18歳から22歳をランダムに計72名)に、協力してもらい行った。量的調査を中心とし、そのアンケート結果をもとに内閣府幸福度に関する研究会の定める幸福度に影響を与える3つの主軸に当てはまるかを分析した。

### 3 結果

今回松山東雲女子大学の学生に協力してもらったアンケート調査の結果、自身の健康や生活の安全については多くの学生が食事に困っている、体が疲れているなどはなく安心して心身ともに健康に暮らせていることが分かった。つながりについては家族とのコミュニケーションはとれており、さらに現在地域活動に積極的な学生が増えてきている。またそういった学生のつながりを支えているのがSNSであるということが分かった。興味・関心については多くの学生が学生生活の中で自分のやりたいことに使う時間を確保し充実した生活を送っていた。自分の存在については、たくさん的人に支えられている。自分自身も人の役に立ちたい。と考える学生が多くいたものの、実際に人の役に立てていると感じるかという質問に対してはあまり感じていないという学生の方が多かった。幸せについては大体幸せと感じている学生が多いものの、とても幸せと答える学生はあまり多くなかった。

### 4 考察

大学生をはじめとする若者は現在の暮らしを自ら充実させたものにし、十分幸福感を感じていたといえる。しかし、アンケートにも表れていたように自分自身を評価する質問に対しては消極的な回答をしがちであることが分かった。ここから、著者は幸福度を上げるために日本人の幸福に対する考え方を変えていく必要があると感じた。自分という存在価値を大切にし、他人と比べるのではなく自分の目の前にあるものを改めて見直し幸福かどうかを考えることが重要であると考えた。

氏名	平岡 沙代子	学籍番号	P 013502	ゼミNo.	8
テーマ	柔道選手におけるメンタルヘルスとコンディション				
<p>スポーツを行う上で、どの競技においてもメンタルヘルスとコンディションが関係してくる。技術だけで勝ち続ける選手も中にはいるかもしれないが、どの選手にもスランプがあり必ずどこかで壁にぶつかる時が来る。そこで、その壁にぶつかった時にどう対応するかで、柔道に対しての思いや試合での成績、今後の道にも繋がってくると考える。そこにコンディションも関連することによってその人の勝負時の強さが分かれてくるのではないか。メンタルヘルスとコンディションの関連で上に上がれる選手とそうでない選手が出てくると考える。どうメンタルを保ち、コンディションを整えていくかを考察していく。</p> <p>卒業論文を書くにあたり文献研究と柔道選手の高校生から社会人を対象としたアンケート調査を行った。アンケート調査ではメンタルヘルスとコンディションの関連、減量の有無、挫折についてのアンケートを行った。SNSの講道館のホームページや全日本柔道連盟のホームページを参考にした。</p> <p>調査を行った結果、勝つためにはメンタルヘルスとコンディションが関連しているという回答が多く、柔道選手の八割が減量を行ったことがあると答えている。その中でも、減量を行うことによって本番で集中しきれていない、良いパフォーマンスができなかつた経験がある人が多いという結果になった。挫折についてはほとんどの選手が挫折を味わったことがあると回答している。</p> <p>柔道選手におけるメンタルヘルスとコンディションについて考えることで、今まで見えていなかった部分も見えてきた。メンタルヘルスとコンディションは関連しているということを改め知ることができた。関連していないという答えもあったが、どの場面においても気持ちだけではできないことも出てくる。目標を持つことで強くなれる。反対に弱くもなる。目標に向かって努力をすることで結果が出る時もあれば出ない時もある。結果が出たときは努力が報われたと思えるが、出なかったときは、無駄だったと一瞬思ってしまうこともある。努力をしたことが無駄なことは一つもないが、結果が出なければ人間一度は、無駄だと考えてしまう。アンケート調査と文献研究を行い、メンタルヘルスとコンディションは関連しているという意見が多い結果となつた。実際にケガをしていれば、試合に出場することが難しく、試合に出なければ、稽古してきた結果を出すことができない。弱気になってクヨクヨしてしまうことは誰にでもある。辛いことがあったり、大きなプレッシャーがかかれば弱い自分が出て、押しつぶされそうになる。そんな不安からもコンディションが悪くなってしまうこともある。人との出逢いや、思わぬアクシデントとの遭遇が運命だったとしても、それをプラスにできるかマイナスにしてしまうかは自分次第だ。私は、「意志あるところに道あり」という言葉を胸に上昇思考を持ち、引退した今でも次のステップに挑戦していく。</p>					

氏名	相原 里奈	学籍番号	J013001	ゼミNo.	9
テーマ	子どもの主体性について 主体的な活動に取り組むための保育者のかかわり				
<p>幼稚園教育要領の中で、幼児教育とは幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されることと明記されている。しかし、実習でさまざまな園に行った際、子どもの主体性を優先させているように見えて、実際に保育者が保育しやすいように、保育者の思いを優先させているように感じた。</p> <p>子ども自身が「やってみたい」という気持ちを持って活動ができるように保育者はまずは、子どもがどのようなことに興味関心があるのか理解する必要があることが先行研究から分かった。また、主体的な活動である遊びがさまざまに展開できるように広がりを持たせることも大切であることも明らかになった。</p> <p>しかし、子どもにとって初めての活動の場面で保育者がどのようなかかわりを持つと子どもが主体的に活動できるのだろうか。また、かかわりと言っても具体的にはどのようなものなのかという疑問を持った。</p> <p>本研究ではA幼稚園での教育実習をさせていただいた際の記録を基に保育者の援助について詳しく分析することで、子どもの主体性を大切にした保育者のかかわりについて明らかにしていく。</p> <p>子どもが主体的に活動するために保育者の援助の在り方を探りながら保育実践を行った。その結果、子どもが主体的に活動できるようになるためには、1.初めは真似ること、2.子どもの発想を否定しないこと、3.受け止め・認めること、4.応答的なかかわりをすること、5.周囲に知らせていくこと、6.一緒になって楽しむこと、7.一緒に悩むこと、8.一人ひとりに応じたかかわりをすること、9.友達の作品を見られることが保育者のかかわりとして大切であると明らかになった。子どもは真似て活動を始めるが次第に自分なりの目的をもって主体的に活動する姿が見られた。また、友達の活動にも興味関心を持ちかかわり合い、協力していく姿を見ることができた。</p> <p>保育者は幼児が遊びの中で周囲の環境とかかわり、次第に周囲の世界に好奇心を抱けるように配慮していく必要があると考える。そのためにも子どもがいま何を感じ、なにを思い、何をしたいのか、それを見極めることが重要である。</p> <p>これから保育者としての第一歩を踏み出すいま、子どもたちと生活を共にするなかで、心が動く瞬間に寄り添える人になりたいと思う。また、子どもの内面を読み取る力を高め、子ども一人ひとりに合った援助ができるようにしていきたい。</p>					

氏名	松岡 玲奈	学籍番号	J013038	ゼミNo.	9					
テーマ	コミュニケーション機能を有するひとり言									
[目的]ひとり言が自己会話であるとするのであれば、わざわざ「声に出す」必要はないはずである。しかし、「声に出す」ということは「声に出す」こと自体に何らかの意味があると予想される。また、自己会話であるセルフトークに対して、ひとり言は他者の存在によりコミュニケーションの機能を発揮する場合がある。つまり、セルフトークとひとり言は同じ自己会話ではなく、ひとり言にはコミュニケーションの機能が潜在化されていると考えられる。本研究では、ひとり言に潜在化されているコミュニケーションの機能を明らかにし、ひとり言がどのように応用できるかを考える。同時に、「ひとり言の多い人」に対して偏見等を抱いている人々から、それらを取り除くことが目的である。										
[方法]様々な文献を用いてセルフトークとひとり言の機能を明らかにし、また、両者ともに共通した「声に出す」ことで得られる効果を明らかにする。そして、他者の存在が切り離された自己会話であるセルフトークと声にされるひとり言を比較し、ひとり言における他者の存在を研究することでひとり言に潜在化されたコミュニケーションの機能を明らかにする。										
[結果]セルフトークが自己会話であるのに対し、ひとり言は本来、他者とのコミュニケーションをとるための外言が言語発達により内言へと変化したことが分かった。つまり、ひとり言は他者とのコミュニケーションの機能を有していると考えられる。										
[考察]ひとり言は、聞き手の有無によって会話に変化することができると考えられる。また、ひとり言は他者を意識している時に発せられ、ひとり言を聞いた他者に内容が伝わり易いものであることが多いように感じられる。ひとり言は、それを聞いた他者に何らかの行動を起こさせることができればひとり言ではなくなる。つまり、ひとり言には他者とのコミュニケーションにおけるきっかけの機能を有していると考えられる。										
[結論]本研究ではひとり言に潜在化されたコミュニケーションの機能を明らかにすことができた。そして、その機能は他者との人間関係構築のきっかけとして応用することができる。ひとり言の多い人には一見近寄りづらい印象を受けることが多いが、ひとり言を述べている本人は心のどこかで誰かが話しかけてくれることを期待しているのかもしれない。ストレス社会を一人で乗り越えていくことは難しいが、他者のひとり言から互いを支えあえる人間関係を構築することができるかもしれない。本論文をきっかけに人々からひとり言への偏見を無くし、ひとり言の重要性について理解してもらいたい。										

氏名	小倉 可帆里	学籍番号	J013009	ゼミNo.	10
テーマ	特攻隊と若者				

特攻隊（特別攻撃隊）とは、第二次世界大戦末期（1944年秋頃から1945年8月15日）に、旧日本陸海軍が体当たり戦法のために特別に編制した部隊のことである。生還の見込みが通常よりも低い決死の攻撃、もしくは戦死を前提とする必死の攻撃を行った。戦争末期には、爆弾や爆薬等を搭載した軍用機、高速艇、潜水艇等の各種兵器、もしくは専用の特攻兵器を使用して体当たりし自爆するといった戦死を前提とするものが中心となった。特攻機の搭乗員（男性）は志願によって選抜され、特攻戦死者の平均年齢は21.1歳という若さであった。

戦争が終わり、71年。現在もなお多くの人々によって語り継がれている「特攻隊」。日本はなぜこのような戦法部隊を生み出したのだろうか。そして、彼らはなぜ自ら特攻隊員として、飛び立つのであろうか。飛び立つ前にどんな心情であったのだろうか。当時の価値観をもとに現代の視点で、特攻隊と呼ばれた若者について考察していく。それを明らかにし、現代との若者との違いや私たちのなすべきことについて考える。

## 第1章 はじめに

第2章 特攻隊について

第3章 特攻隊に志願した若者

第4章 過去を未来にどう伝えるか

資料 ゆかりの地を巡って

論文の中では、特攻隊に志願した若者4名についてとりあげ、遺書や手紙の内容から、彼らの考え方や心情を考察した。その結果、彼らは10代20代という若い年齢であるにも関わらず、自分のことではなく周りのことを一番に考えていたということが分かった。また、自分たちの世代だけではなく、次の世代のことも気にかけながら、自らの身を賭けて散っていった。

終戦から71年が経ち、当時20歳前後だった方々は、段々と少なくなってきている。だからこそ、特攻隊員たちの思い、そして覚悟を、過去にとどめるのではなく、その思いを受け継ぎ、私たちが未来にも伝えていく必要がある。そして、特攻隊員の方々が自分たちの世代だけでなく、次の世代のことも思いながら未来の平和を願い、飛び立っていったことを忘れてはならない。隊員たちはどのような未来を夢見ていたのか、命を賭けて守りたかったものは何だったのか、今を生きているからこそ、考える必要がある。

氏名	鎌田未央	学籍番号	J013014	ゼミNo.	10
----	------	------	---------	-------	----

テーマ	文字なし絵本の効用
-----	-----------

本研究では、「文字なし絵本の効用」をテーマに、絵本の歴史や種類、出版されている文字なし絵本、学内に所蔵されている文字なし絵本について調べた。また、実際に文字なし絵本を使用し、実践研究を行い、文字なし絵本の効用を研究した。実践研究では、①『やこうれっしゃ』、②『じのないえほん』の2作品を使用し、6歳女児を対象に文字なし絵本を見て、どのような物語を作るのが実践を行った。

このような研究から、3つのことが明らかになった。

#### (1) 絵本の歴史と種類について

絵本誕生のきっかけは、1658年にチェコの教育者コメニウスが『世界図絵』を製作したことである。そして、時代に合わせて絵の特徴や内容が変化してきており、現在では、絵本の種類を機能から見て大別すると、①「純粋の絵本」、②「物語絵本」、③「挿絵本」の3つに分けられる。

#### (2) 文字なし絵本とはどのようなものなのか

文字なし絵本は、全く文字がないものだけでなく、いくつか文字があるものもある。現在では、国内外のものを合わせて、80冊以上が出版されており、どの作品にも読み手の想像力が必要ということが共通している。学内の図書館所蔵の24冊のうち貸出人数が1番多いのは、『じのないえほん』である。2番目に多いのは、『どうぶつのおやこ』、3番目に多いのは、『天使のクリスマス』である。この結果を見ると、季節が限定されず、3歳未満児から読むことができる文字なし絵本が1番多く貸出されているということが分かった。

#### (3) 文字なし絵本の効用

文字なし絵本を使用した実践の結果、文字なし絵本を読むことで、自由に物語を作る楽しさを味わうことができ、想像力、表現力が培われることが分かった。

本研究から、以上の3つのことが明らかになった。実際に保育現場で文字なし絵本を見ることは少なかったが、保育者になったら子どもたちとの関わりの中で文字なし絵本を活用し、子ども達の豊かな想像力や表現力を育てていきたいと考えた。

##### ①『やこうれっしゃ』

作者：西村繁男

：出版社福音館書店 発行年：1983年



##### ②『じのないえほん』

作者：ディック・ブルーナ

出版社：福音館書店 発行年：1968年



氏名	菅 加奈美	学籍番号	J013017	ゼミNo.	10					
テーマ	「ゆるキャラ」に対する女子学生の意識調査									
1. はじめに										
<p>まず、「ゆるキャラ」とは、「ゆるいマスコットキャラクター」を略したもので、イベント、各種キャンペーン、地域おこし、名産品の紹介などのような地域全般の情報PR、企業・団体のコーポレートアイデンティティなどに使用するマスコットキャラクターのことである（特に地域のPRを目的としたものはご当地キャラとも呼ばれる）。最近、「ゆるキャラ」の人気は目を見張るものがあり、年代を問わず絶大な人気がある。その「ゆるキャラ」だが、同じ年代の女子学生は「ゆるキャラ」に対してどういう意識を持っているのだろうか。</p>										
2. 先行研究										
<p>「ゆるキャラ」というキーワードで検索すると、2011年までは一桁の数であったものが、2012年には10件となり、2013年では16件増加した26件になっている。2012年頃から「ゆるキャラ」の人気が上昇したと考えられる。</p>										
3. アンケートの集計と分析										
<p>松山東雲女子大学・短期大学の113人の学生にアンケート調査を行った。「ゆるキャラ」の存在を知らない人は一人もいなかった。その中でも、「ゆるキャラ」のことを好きだ、と答えた学生は113人中70人だった。残りの43人は、「ゆるキャラ」にあまり興味を示さなかった。そして「ゆるキャラ」のことを好きだ、と答えた学生にどういう所が好きなのか調査したところ、「ゆるキャラ」のしぐさや動きのゆるくて可愛い所、癒されるといった回答があった。</p>										
4. アンケートの考察とまとめ										
<p>「ゆるキャラ」への認知度は非常に高いが、あまり興味がない学生もいる。お土産として「ゆるキャラ」のロゴが入った商品を購入したことがある学生は113人中22人と少数であった。購入商品は、食べ物ではなく形として残る物が多く、キーホルダー・メモ帳・缶バッヂ・クリアファイル・靴下など使ってもらえそうな物が多いことがわかった。</p>										
5. おわりに										
<p>今回、「ゆるキャラ」について調べ、女子学生の「ゆるキャラ」に対する意識調査を行った。「ゆるキャラ」を知っているが、全ての人が「ゆるキャラ」を好きではなく、大学生が興味を示していると感じなかった。</p>										
<p>今回は、アンケート調査という形でしたが、今後は街頭でアンケートの実施や「ゆるキャラ」を作成し、サポートしている企業や施設などを伺ってみたり、地域の方が「ゆるキャラ」に対してどのように関心を持っているのか、調査していきたいと考えている。</p>										

氏名	高須賀有加	学籍番号	J013027	ゼミNo.	10					
テーマ	日本の幼稚教育とモンテッソーリ教育の比較									
<b>1. はじめに</b>										
<p>実習先のモンテッソーリ教育の園で学んでいくうちにモンテッソーリ教育に興味を持ち始め、研究のテーマとした。そこで、本研究の目的を次のように設定した。</p> <p>① このモンテッソーリ教育と日本の幼稚教育の違いを明らかにすること。</p> <p>② それを通して、幼稚教育にかかわる者として、どうあるべきか考察すること。</p>										
<b>2. 日本の幼稚教育とは</b>										
<p>日本の幼稚教育の歴史はアメリカの影響を受けながら、日本独自の幼稚教育が確立されてきた。その特徴は、園での何気ない生活や遊びの中で、保育者や友達とかかわりながら多くのことを学んでいるということである。</p>										
<b>3. モンテッソーリ教育</b>										
<p>モンテッソーリ教育は、マリア・モンテッソーリによって考案された教育法である。その教育は自由の保障と整えられた環境による教育であり、自立した子どもを育てることを目的としている。</p>										
<b>4. 日本の幼稚教育との違い</b>										
<p>日本の幼稚教育の5領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」に沿って、日本の幼稚教育とモンテッソーリ教育を比較した。結論として、「人間関係」と「言葉」、「表現」は幼稚期に身に付けたいことに視点をおくと、相手の気持ちを感じたり、自分の思いを伝えたりすることをねらいとしている日本の考え方の方が子どもの成長にとって望ましいと思われ、「健康」と「環境」は自分のことは自分でするという自立したモンテッソーリ教育の考え方の方が望ましいと思われる。</p>										
<b>5. おわりに</b>										
<p>幼稚教育の考え方は園によって違い、保育者一人一人それぞれ違うだろう。そのような中でも子ども一人一人のことをしっかりと理解して、その子どもに合ったかかわりをしていくことが大切である。</p> <p>筆者も保育者として、この園はこういう考え方だからと妥協してしまうのではなく、子どものために今、すべきことは何かということを大切にしていきたい。今回本論文を書くことにより、より良い保育、幼稚教育とは何かを様々な視点から考えることができた。今後、子どもとかかわる上で活かしていきたい。</p>										

氏名	河端 真由加	学籍番号	J012011	ゼミNo.	10
テーマ	12星座と子どもの関わり				

私は、星座が好きなのでテーマは星座にしようと思っていた。そこから調べていくうちに、自分でもどの星座がいつどのような方角にどんな形であるのかを知らなかつた。星座についての文献も調べてみたが気になるものはなかつた。

そこで以下の2つの点を研究することにした。

- なぜ星座のことを詳しく知らないのか
- どのようにすれば星座のことを知ってもらえるのだろうか

1について星座に関わる大きな機会はなんだろうかと考えてみたところ、幼少期からのイベントである七夕ではないかと思った。そうして七夕について詳しく調べてみると、歴史は知っているが、織姫と彦星があてられている星座のことを知っている人はごくわずかだということに気がついた。

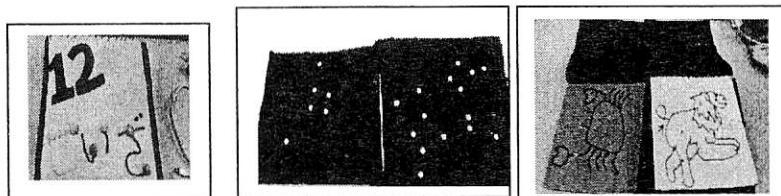
このようなことから、七夕の歴史は知っているのに、なぜ星座のことを知らないのかという点を子どもに着目し、考えた。その結果、子どもが星のことに触れて学ぶのは絵本ではないだろうかと考え、星座の絵本があるのかどうかを調査した。すると、書店や図書館などには全くなかつた。インターネットでは、3冊あることがわかつた。

以上のことから、星座について知るきっかけを実際に絵本として、制作することにした。

絵本を制作するにあたり、幼児向けにすることは極めて難しいことがわかつた。その理由として、

- 星座の歴史がギリシャ神話で、カタカナでの人物名や星の名前が表記しても子どもには覚えにくく、難しい。
- 内容に殺害や嫉妬の愛憎劇などによる、子どもにふさわしくないものが多い。
- 1つ1つのストーリーが長い。

以上3つが考えられた。



このことをふまえて年長向けに12星座の図鑑絵本と、3歳児を対象とした神話の絵本を制作した。

今後の課題として、星座について子どもたちに知ってもらえるように自らが発信源となる活動をしていきたい。

氏名	塩崎奈津子	学籍番号	P013019	ゼミNo.	11
テーマ	認知症ケアにおける音楽療法の効果について				

このテーマに関心をもったきっかけは、大学3年次の時に参加した認知症施設実習である。私の実習先ではレクリエーションの時間や食事の時間に必ず音楽療法が取り入れられていた。そこでなぜ認知症ケアに音楽療法が導入されているのか、どのように役立つか、その効果のメカニズムを明らかにしたいと考えこのテーマに決めた。

本研究では、第2章で認知症の種類や症状、第3章では音楽療法の種類や方法、第4章では認知症ケアにおける音楽療法の有効性について、第5章では認知症ケアに音楽療法がもたらす効果について述べた。

音楽療法とは、「日本音楽療法学会によると、「音楽のもつ生理的、心理的、社会的な働きを、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上に向けて意図的、計画的に活用して行われる治療技法である」と定義されている。

認知症ケアには、人間らしく充実感をもって美しく生きるために「プラス」面でのサポートが必要であるとされており、こうした「プラス」面でのサポートに大変役立つ支援として有力な方法が音楽療法であるとされている。

本研究の目的である認知症ケアにおける音楽療法の有効性については、音楽療法を行うことで記憶をつかさどる大脳の働きを活発にすることや、認知機能維持、リラックス効果や注意力、言語力なども上昇させてくれることがわかった。

音楽療法はなぜ認知症ケアに役立つかという点については、佐々木他(2009)によると、認知症によって低下する機能に対し、音楽療法の一般的なプログラムである歌唱や楽器演奏が有効であることがわかった。

認知症によって低下する5つの機能(注意力、言語流暢性、思考力・計画力、エピソード記憶、視空間認知)への音楽療法の効果の差や、最近のエピソード記憶の想起が少ない点など課題はいくつもあるものの、本研究で取り上げた音楽療法が認知症ケアに有効であることは確かであり、多くの現場で取り入れられているということがわかった。

認知症高齢者の音楽療法の目的は認知機能、身体機能、精神機能の維持、改善をはかるだけでなく、認知症があっても音楽活動で他者と関わりながら、その人らしく自分を大切に生きることへの支援でもある。私自身も実習に参加して、認知症高齢者にとっての音楽の大切さ、重要さを実感した。それでも、従来音楽療法の存在や活動は他の分野ではあまり知られていなかったのが現状である。しかし、今後複雑な社会生活におけるストレスの蓄積や、高齢化社会が進むにつれてその需要はますます増加するものと思われる。これまでに薬や手術などの医療では改善が見込まれなかつた疾患や心のケアを中心に、音楽療法の重要性が高まっていくと考える。

氏名	菅本 朱莉	学籍番号	P013022	ゼミNo.	11
テーマ	ペットを飼うことによる心理的効果に関する研究				
<p><b>1.問題と目的</b></p> <p>現在の日本では、子どものいる家庭よりも、ペットを飼育する家庭のほうが多い。ペットの飼育環境がよくなつたこと、ペット共生型住宅の増加、高齢化や少子化におけるペットの存在が高まつたことなど、「ペットブーム」のひと言ではすまされない。様々な時代背景とともに、人とペットの関係は“飼う・飼われる”の関係から、“家族・パートナー”という存在に変化してきた。本研究は以下を明らかにすることを目的とした。</p> <p>①人々が考える家族ペットとは      ②ペットがいることによって生じる良い影響      ③ペットがいることによって生じる悪い影響      ④解決策（ペットとどうやって付き合い、共に共存していくか）</p> <p><b>2.研究方法</b></p> <p>書籍や論文、インターネットなどを利用し、ペットの存在価値の移り変わりやペットを飼うことによって飼い主にもたらす良い影響、問題点などについて調べた。また、本学の生徒でペットを飼っている人・飼っていない人それぞれ3名ずつ計6名に対してペットに対するインタビュー調査を行つた。そして先行研究の知見と実際に得られた分析結果を比較しあいながら考察していった。</p> <p><b>3.結果と考察</b></p> <p>金児(2006)は依存的愛着だけが幸福感と負の関連をもつてゐると言つてゐたが、今回の調査では、客観的にみれば負の関連をもつてゐる人でも、本人は全くそう感じておらず、特に幸福感が下がつてはいなかつた。そのため、依存的愛着の人ほど、低い幸福感につながつてゐることや、依存的愛着が高い人ほどペットに対する躊躇が甘く、周囲との対人関係にトラブルが発生しやすいがゆえに、結果として幸福感が下がる可能性があるという金児(2006)の考察は、今回行った調査からは同様の結果が得られなかつた。このことから、依存的愛着だとしても、幸福感が必ずしも下がるわけではないのかもしれない。</p> <p>また、ペットを飼うということは、「命を預かる」「命の責任を負う」ことであり決して軽はずみな気持ちで飼つていいものではない。また、動物が好きな人もいれば、苦手だという人もいることを忘れてはいけない。周囲の人とも上手く共存していくためには、躊躇やマナーはしっかりと守らなくてはならないのだ。その動物がもつ生態、習性、生理にあつた飼い方がよりよい関係を築くことに繋がつていくのではないだろうか。動物を“飼う”というよりも、共に暮らすと考え、ペットにも周囲の人にも配慮して気持ちよく暮らせるような心がけが重要だと考える。</p>					

氏名	稻井 沙也加	学籍番号	J013003	ゼミNo.	12					
テーマ	『まねぶ心』を学ぶ									
○研究動機										
私は5歳の頃からジブリ作品の一つである『もののけ姫』が好きだった。作品を繰り返し鑑賞していくうちに、登場人物のサンに惹かれていった。憧れからサンのお面を画用紙で作り、親戚のおばさんとごっこ遊びをするほどにサンのことが好きになつていった。森村泰昌（2010）のまねることを通じて学ぶという、『まねぶ』ということについて学び、今回の研究に重ね合わせてみようと考えた。										
○研究方法										
先行研究と文献により仮面の持つ役割や意味について調べ宮崎駿（1997）のもののけ姫にでてくる「サンの仮面」を実際に制作し着用してみる。										
○仮面について										
『山の神』の顔が彫られた仮面や、動物の血を仮面に塗ったシャーマンの仮面がみられるという。この二つの仮面と「サンの仮面」には赤色の仮面であるという共通点がある。血の呪力を信じ、サンは仮面をかぶることで山犬のモロの子として威厳を持ち、醜い人間の部分を隠そうとしていたのではないかと考えた。										
○「サンの仮面」の製作過程										
材料は銀杏の材であった。最初の2週間は彫刻刀で彫り進めていたが、「自分は大変なものを卒業制作として選んでしまった。」と後悔すらした。しかし、先生の援助や慣れない道具を使いこなしてきたときのやりがいから次第に「この制作にしてよかったです。」と思えるようになっていた。切り出し小刀で表面を削っていると、指が擦れて出血し、仮面に血が付着してしまった。その時に私は前述したシャーマンの仮面のように私が作ったこの仮面にも生命が宿ったのではないか。										
○まとめ										
三ヶ月という短い期間ではあるが、一つの作品にこんなに時間をかけたのは初めてのことである。この3ヶ月間の経験は卒業してからの私の自信となっていくだろう。サンになりきるために仮面を制作しながら5歳のときに私はサンという人物についての興味よりも、サンになろうとする過程を楽しんでいたのだと思う。何回もサンの真似をしていくうちに物語の内容、サンの人物像も理解していったのだ。それで21歳になった今もサンのことが好きなのだと考える。今回の研究を通して学ぶことができたことは、人は成長過程でまわりの大人をはじめいろいろなものの真似をする。まねていくうちに、まわりから認めてもらったりほめてもらったりする。その喜びから、人のなかで生きていく喜びを知ることになるのだ。森村泰昌が述べていたまねることを通して学ぶ「まねぶ」ということが人間の成長過程において非常に大切な意味を持つことであり、単なる「まね」ではないのだということである。										

氏名	川野 莉穂奈	学籍番号	J013016	ゼミNo.	12
テーマ	協働で生み出される一枚のアート				

#### ○研究の動機

私がモザイクアートに心を打たれたのは、高校一年生の文化祭で展示されていた先輩方の作品を観たときだった。画面には点がたくさんあり、それが一つの絵になっている事に、驚きを感じるとともに作品の大きさに圧倒された。誰もがこのようなモザイクアートを目にしたら、興味を持ち、作ってみたいと思うのではないか。この良さを伝え、多くの人にもっとモザイクアートというものを知ってほしい、みんなで協働することから、人との繋がりを求めてモザイクアートを作る人は少なくない。スポーツでいうとチームプレイに似ているものだ。歴史を振り返り、また実際に制作してみることで、魅力を伝えたい。

#### ○身近なモザイクアート

- ・大分県のモザイクアートの取り組み・作品内容「真珠の耳飾りの少女」（フェルメール）をかたどったモザイク画の巨大切手（縦4・5メートル、横3・5メートル）同市の県立芸術文化短期大学生と荷揚町（にあげまち）小学校の児童による。
- ・愛媛県今治市では、国際海事展「バリシップ2015」同市高地町2丁目のしまなみアースランドで、タオルを使ったモザイク画のギネス世界記録。
- ・海事とタオルという今治を代表する産業のコラボレーション。

モザイクアートの制作では、多くの人々が協働して、大掛かりなプロジェクトとして取り組まれることが多い。繋がりを再確認し、共同体としての結びつきを深める。

#### ○作品について・振り返り

- ・多くの人が私のモザイクアートを見てよい感情を持ってくれることを期待。ソフトテニスのおかげで友達ができ、大学生活を充実して過ごせたという実感を形にしたいという動機から制作した。
- ・一人で制作するには130枚という規模は、かなり多い量だった。

#### ○まとめ

歴史的に古くからあるモザイクアートは、例えば、文盲の人たちの利便性に配慮したものなど、実用性も兼ねた目的で作られていたことが分かった。今、私たちは、共同体としての繋がりや連帯感を得るためにモザイクアートを制作することが多い。私のようにモザイクアートと出会い心を奪われ、興味を持ち、作品を制作したいと思う人がいることも事実だ。目的や方法が変化しても、これからもモザイクアートが人々に愛されていくことを望んでやまない。

氏名	熊谷 優美	学籍番号	J013022	ゼミNo.	12					
テーマ	着ぐるみ（ゆるキャラ）を通じて広がる地域の輪									
<p>私が今回のテーマを研究しようと思った理由は、着ぐるみの中から見る景色がどのようなものか、また、ぬいぐるみとの違いは何かというのを知りたいと考えたことである。それから着ぐるみについて調べていくうちに、着ぐるみを着て地域のために活動している「ゆるキャラ」の存在が気になり、「ゆるキャラ」の地域にもたらす影響や活動を知りたいと考えた。</p>										
<p>ゆるキャラの歴史は1980年頃から始まっていたものの、全国にゆるキャラとしてこういった存在が知られることはなかった。20年以上の年月が経って2000年に広島県であった「第15回国民文化祭・ひろしま2000」のマスコットキャラクターであるブンカッキーを見たみうらじゅん（2014）が、「ゆるキャラ」という概念を思いつき、それからゆるキャラが徐々に知られるようになる。</p>										
<p>ゆるキャラの条件として、「郷土愛・ゆるさ・着ぐるみ化・不安定かつユニーク」とが挙げられ、2007年に滋賀県彦根市の「ひこにゃん」が火付け役となり、そこから大きくゆるキャラの存在が全国に知れ渡っていったのである。</p>										
<p>これらは地域のPRのために作られたマスコットキャラクターである。その地域の特産物や盛んな産業などをモチーフにしたもののがゆるキャラの特徴として取り入れられていることから、「郷土愛に満ちた存在」であるということがわかる。</p>										
<p>そして、その見た目と行動は人々を惹きつけ、ゆるキャラという存在は瞬く間に全国にまで知られるほどのものとなった。また、地域にもたらす影響力は強く、関連するグッズの購入率や、各イベントにゆるキャラが参加していると、その活動みたさにイベントに参加する人々が増えるなど、地域へのアピール活動を行うことで人気は県内にとどまらず、県外までにも広がるようになった。それに伴いゆるキャラの数も増えていき、各県でのイベントが増えていった。</p>										
<p>このようにゆるキャラたちは地域において、経済効果や地域貢献の二つに大きく貢献していることがわかり、地域活性化のための「地方創生」にも一役買っている。</p>										
<p>今回調べたことをふまえ、着ぐるみとぬいぐるみの違いについてをまとめると、着ぐるみ（ゆるキャラ）は自分から行動することができ、相手とのコミュニケーションがとりやすいということがわかる。いうなればそれぞれに性格があるようなもので擬人化され、地域貢献を果たすなどの社会性がある。一方ぬいぐるみは、自分から行動することはないが、ちょうどいい大きさで自分の手元に置くことができ、個人的なものである。ここで得た知識をいかし、こうした「かわいいものたち」を通じた心理的なかかわり方や地域との交流をより大切にしたいと考えている。</p>										

氏名	田中 亜弥	学籍番号	J013028	ゼミNo.	12
----	-------	------	---------	-------	----

テーマ	文字で作り出される世界
-----	-------------

私がこの研究をしようと思ったきっかけは、自分の人生を振り返ってみたとき、人生の大半を占めているものが小説を書くことだと気付いたからだ。今まで読んできた本や、大学での文学の授業での学びをもとに研究をしようと考えた。ターゲットは小説というジャンルに絞り、近世～現代の変遷を調べた。作品は文学史に登場した派閥を意識した小説を執筆し、印字にはパソコンのワープロではなく、諸外国が行っていた昔の新聞印刷技術の模倣としてカタカナスタンプでの印字を行い、自作製本をするものとした。

近世では、江戸時代の風俗の描写とりわけ遊郭を舞台にした作品が多く、当時の人々の性や恋愛・人間性に焦点を当てたものが多く執筆された。しかし、舞台が遊郭である故に表現が過激になり、処罰された作家が多かった。

近代では、文学という意味は大きく変化し、風俗的なものから政治的なものとなつていった。人間を見つめ、そこから欲深さ・美・侮蔑を見出している。その為読み手には、物語を考察・批評する力がある人が必然的に多くなつていった。現代の国語の教科書にこの時代の作品が掲載されるのは、その作品に込められている思いを探る考察力を身に着けるためではないかと考える。

昭和では、人間の心理を読み解く物語や資本主義社会への批評、自己投影の作品が多くなつた。戦中になると、戦場に赴く兵士の姿、戦争に対する熱意を求める民衆の気持ちを代弁した作品が登場した。戦後になると言論の自由により、戦前・戦中で身を潜めていた作家達が復帰し自由な作品を発表していった。

平成では、一部の担い手(多くは若者)によるいわゆる副次文化である『サブカルチャー』と結びつき、現代を取り巻く『ライトノベル』の登場から世の中の文学はより想像しやすいファンタジーなものが目立つていった。知識を得る為の文学から様々な世界を旅する文学へと変身したのであった。

最後に、2015年までの出版物の推移を見ていき、文庫・文芸が低迷していることが分かった。そこから、現代の人々の『読解力の低下』『想像力を働かせない視覚情報の増加』『電子書籍の増加』を原因に挙げて考察した。

文明の進化により人間は退化する。人々は楽な方へと身を投じる。自分達の身近には言葉や単語で溢れているのに無視をする。文字で作り出される世界は太古から続いている歴史あるものだ。本を読むのが苦手という人も、一度一冊の本を開いてみるとから始めてほしい。読むのにいくらでも時間をかけていい。その人の知的欲求を刺激し興味深いと感じるものがあったのならば、それは人生を豊かにさせるきっかけになるのではと考える。文字達は確実に、その人の感性に働きかけているのだから。

氏名	羽藤咲耶	学籍番号	J013034	ゼミNo.	12
----	------	------	---------	-------	----

テーマ	言葉がけがもつ力～人を伸ばす「ほめ言葉」に関する基礎的研究～
-----	--------------------------------

### 1 はじめに

私は「ほめられて伸びる」性格である。特に新しいことや、初めてのことに取り組む際、温かい「ほめ言葉」によって気持ちが落ち着くことがある。近年、「ほめる」子育て、教育が重要視されているが、「言葉がけ」がもつ力とはどのようなものか、「ほめ言葉」は本当に人を伸ばす力があるのか、分析、検討してみたいと考えた。

### 2 研究の目標・計画

二つの側面から「言葉がけ」、「ほめ言葉」のもつ力をみてみたいと考えた。一つは、様々な文献を参考に、「ほめ言葉」についての基礎的な知見を得ることである。もう一つは、自身の作品制作を通して、周囲の人々からの言葉がけにより自分の心情、そして作品にどのような変化をもたらすのかをみていきたい。この二つを踏まえて言葉がけに関する自分の考えをまとめ、豊かな言葉で子どもを育てる保育者としての職能の土台をつくりたい。

### 3 研究の実際

「ほめ言葉のシャワー」など、言葉を用いた活動で学級崩壊した多くのクラスを立て直してきた元小学校教諭、菊池省三の実践例から、「ほめ言葉」は教師自らが積極的に子どもたちをほめることによって、子どもたちの自己肯定感を高め、さらに「ほめる視点」を示すことで他者の良いところに気づく力を育むことにつながることがわかった。また、結果ではなくその過程に目を向けることで、受け手は「ほめ言葉」を実感として得ることができ、自信につなげていける。

また、作品制作において、周囲からの言葉がけがある場合と、まったく受けずひとりで制作した場合とを比較・検証した。その結果、「言葉がけ」が制作活動を「発想の幅」や「意欲」という点で、豊かにすることがわかった。

### 4 まとめ

「言葉がけ」も「ほめ言葉」も人の背中を押し、伸ばす力がある。しかし、単に言葉をかけられればよいのではなく、1人ひとりをよく観察し、相手を尊敬し、それぞれの成長をとらえて言葉をかけることが重要である。特に今回の作品制作における「言葉がけ」の効果から、保育現場でどのような言葉が制作活動を豊かにするか、具体的に考えることができた。自身の保育者としての職能成長を見据えて、生活のなかでの小さな変化も見落とさず、豊かな言葉でそれを表現し、子どもたちに伝えられるようになりたい。そうすることで、豊かな言葉をかけられることの嬉しさを知つてもらい、それを他者にも伝えたいと思ってもらえるよう、その後押しができるような支援ができる保育者を目指していきたいと考えている。

氏名	山崎仁美	学籍番号	J010344	ゼミNo.	12
----	------	------	---------	-------	----

テーマ	砂遊びの魅力
-----	--------

砂遊びは幼児にとって重要な意義を持ち、多方面から楽しむことのできる遊びの一つである。しかし、私が就職することになっている園には砂場がなく、園庭もさほど広くない。このような状況から、私は砂遊びの魅力を子ども達に伝えたいと考えるようになった。そこで、本研究では現場にでたときに子どもたちと共に楽しめるよう「幼児の砂遊び」に対する理解を先行研究をもとに深めると同時に、実際に砂遊びを経験し、砂遊びの楽しさを再確認してみたい。そうすることで、自らの保育の質を高めていくことを目的とする。

第2章では先行研究を検討していく。笠間(1993)は砂遊びについて「砂場は開かれた空間と可塑性に富む砂によって子ども自身の遊びの多様性を生み出している」と述べている。松本(1993)は幼児が砂遊びに魅きつけられる理由について、「2歳児から5歳児までまんべんなく、ほとんどの子どもが遊ぶことができるし、遊びにおいては大きさや形が問題にならない。これができたからおしまいということもなく、どこまでも発展の可能性に満ちている。」と述べている。このように先行研究を検討したことで砂遊びの意義やそれに含まれる学びの要素を見過ごしてしまっていたことや、砂遊びは保育にとって実は大切なことであるにもかかわらず、日々の生活の中にいるとその意義を気づかなくなったり見過ごしがちになったりしている点について再認識することができた。

第3章では実際に砂遊びを行い、その楽しさについて改めて考えていく。そして、砂遊びという遊びの空間には様々な曖昧な要素が混在しており周囲の人たちもそのような子どもの姿をじっくりと見守ることを許してくれる場所だと考えるようになった。これこそが子どもを安心させ夢中になって遊ぶことのできる砂遊びの魅力なのではないだろうか。また、砂遊びの面白さは砂を思い通りに動かせることだけではなく、砂と対話しながら遊びが進んでいくところにあるのかもしれないと思うようになった。なぜなら、動かしたり崩れたりと遊んでいるうちに起きていく(起こしていく)砂の変化によって、次にどのように砂と関わるかを決めていくことに気づいたからだ。また、先行研究や砂で遊ぶ経験を通して、砂の性質を知り、さらに豊かな砂遊びをすることができるようになっていくことも先行研究を通してわかった。同時に、砂遊びが子どもたちにとってより豊かなもの、楽しいものになっていくために、保育者は何をすればよいのだろう、とも考えるようになった。

そして、子どもの遊びの中に保育者が介入しすぎてしまうのは子どもの育ちを阻害してしまうが、保育者自身がまず遊びの楽しさを知らなければ子ども達にはその楽しさは伝わらなし、遊びの展開も望めないと考えるようになった。だから、この研究で経験したことを現場に立ったときに生かし保育者として成長していきたい。

氏名	大澤 歩	学籍番号	P013006	ゼミNo.	13
テーマ	日本における美人観の変容				
<p>いつの時代も女性の顔、化粧へのこだわりは変わらない。例えば平安時代では、絵巻物で描かれているようなしもぶくれで肥えた女性が美しいと考えられており、お歯黒や額の上部に眉を描いていた。しかし、現代では『源氏物語』に記されているような平安美人を美しいと感じる人は少数であろう。そして、テレビや雑誌などのメディアに登場する女性は、痩せて目が大きな女性が多く、平安時代の美人のような姿の人は見かけない。このことから、時代と共に美人の価値観が変化したことが分かる。本稿では、日本においてどのように美人観が変化していったのか、化粧の歴史やその社会的背景をもとに論じた。</p> <p>第1章では古代から中世の美人について時代を3つに分けて考察した。1つ目は縄文、弥生、古墳時代、2つ目が大陸文化の影響を受けた奈良時代、3つ目が国風文化の発展した平安時代以降である。その結果、奈良時代から眉の美意識が生まれ、国風文化が発展した平安時代でも眉への美意識は衰えることはなかった。当時の美しい眉とは、眉毛を全て抜き額の上へ太く描く眉であった。そして、眉の有り無しや形などから身分階級も表していた。平安時代からは歯の美意識が生まれ、お歯黒の歯が美しいと考えられていた。以上のことから、化粧にこだわりを持ち、美しさを保とうとしたのはほとんど上流階級の女性であることも読み取れた。</p> <p>第2章では、江戸時代の美人について化粧の歴史の観点から論じた。美人の条件は色白で鼻が中高であることだった。そして、口への美意識も発展し、口紅が流行した。上流階級と庶民の美意識の違いや格差は、眉化粧をみると判断することが出来た。以上のことから、上流階級と庶民では化粧道具の多さや化粧の仕方に差がみられた。</p> <p>第3章では、明治、大正、昭和の美人について時代ごとに考察した。明治に入ると目の美意識が発展した。また、表情の美から階級によって美意識に差がみられた。そして、外見的な美意識だけでなく知識や勤労などの内面的な要素も美意識として考えられるようになった。</p> <p>第4章では、現代の美人について論じた。戦後民主主義の影響から徐々に美人の定義の範囲が広がった。明治期の人生論では、美人は性格が悪く、不美人は性格が良いとされていた。戦後になると以前のような階級もなくなり、女は誰でも美人になれるという考え方方が広まっていった。</p> <p>美人観の変化には、時代の出来事が深い関係をもっている。もしも、日本がデモクラシーの平等思想の影響を受けていなければ、平等的美人観は生まれなかっただろう。しかし、時代と共に外見とは別の内面的な美人という考え方が存在するようになったので、今後不美人という言葉自体がなくなるのではないかと考える。そして、美人の定義がより多様になるのではないかとも考える。</p>					

氏名	児玉 真樹	学籍番号	P013015	ゼミNo.	13
テーマ	現代のスマホ普及に伴う危険性				
<p>現代社会において、スマホは無くてはならない存在になりつつある。そんなスマホの普及により私たちは様々な恩恵を受けている反面、その便利さを逆手にとった犯罪や、スマホ依存症による健康被害が今日では問題視されている。本稿では、今後さらに発展していくと言われているネット社会の中で、私たちが安全で健康に生活していくために、現代社会のスマホ普及に伴う危険性について研究を進めた。</p> <p>第一章では、国内におけるスマホの普及状況と、それに伴い発展してきたSNSの特徴について調べた。日本では2013年から2016年までのわずか3年の間に、スマホ普及率は大幅に拡大し、特に10代・20代の若者のスマホ保有率は現在約90%にもなった。一方、国内全体のスマホ保有率は53.5%と世界から見てもこれは非常に低い数値であり、原因としてはガラケーの根強い人気と、日本の高齢化社会が関係していることが分かった。</p> <p>第二章では、スマホ依存症とスマホによる健康被害について調べた。スマホ依存症による健康被害では、「スマホ首こり病」という新しい病が増えていることが分かった。長時間スマホに集中し下を向いていることで、首の筋肉が凝り固まってしまい、自律神経が正常に機能しなくなってしまうという病である。この原因のひとつに、スマホのオンラインゲームが挙げられる。スマホは簡単に取り出せてわずかな隙間時間にも楽しめるため、会社の休憩時間や電車やバスの移動時間にもすぐにできる。このアクセスのしやすさがスマホゲームの人気の理由でもあると考える。しかし、隙間時間も積み重なれば相当な時間になってしまふ。1日の中の貴重な時間をスマホに奪われてしまっていないか、気を付ける必要がある。</p> <p>第三章では、スマホによる社会的トラブルについて述べてきた。スマホを利用した犯罪や事件では、児童がターゲットとされることが多い。また、近年多くなっているのが、歩きスマホや、ながらスマホによる事故である。歩きスマホは危険だと、多くの人が自覚しているにも関わらずやめられないのは、欲しい情報がすぐに得られる便利さや、すぐに返信がしたいという誘惑に負けてしまうからだと考える。</p> <p>これからの中のネット社会の中で、安全で健康に生活していくために各々がその危険性を認識して、危険に巻き込まれない使い方を心がけることが大切であると考える。</p>					

氏名	タン・センター	学籍番号	P013029	ゼミNo.	13
テーマ	カンボジアの貧困と子どもの教育				

カンボジアには今も大変貧しい人々がいる。貧困が原因で学校に行けない子どもたちがいる。又、学校の数も少ない。特に、農村部では、家から学校までの距離が遠い場合がある。又、教員が出勤していない場合もある。カンボジアの教育には解決しなければならない様々な問題がある。

本稿では、東南アジアにある途上国カンボジアの貧困と子どもの教育問題について述べた。

第一章では、カンボジアの歴史と現状について述べた。カンボジアは東南アジアにある国である。カンボジアでは内戦があり、国民が大変な生活を過ごした時期がある。ポル・ポト政権の時代には、死亡した国民が200万とも推計されている。ポル・ポト時代にカンボジアは大変貧しくなった。現在でも、苦しんでいる家族は多くいる。

第二章では、カンボジアの教育と課題について考察した。1975年から約4年、ポル・ポトの独裁政権がカンボジアを支配した。その当時、カンボジア国内の医者や教師といった知識層が大勢殺された。その結果、現在もカンボジアは他の東南アジア諸国と比較しても、初等教育と中等教育の就学率が低い。又、都市部と地方の就学率でもかなり差が見られる。農村部では教員がない場合もある。その理由は給料が安いからである。

第三章では、農村部での具体的な事例から教育の現状と課題について考察した。子どもたちは、「学校に全く行かない子どもたち」「学校を辞めた子どもたち」「行ったり行かなかったりする子どもたち」「普通に行く子どもたち」に分けられる。学校が嫌いな子どもたちもいる。6歳から小学校に入学できるが、村では学校に行けない子どもたちもいる。子どもが学校に行けない理由として、以下の5つの点が考えられる。①教員が出勤していない場合があること。②家から学校までの距離が遠い場合があること。③家庭の貧困。④家族の反対。⑤地雷や事故などで障害を負ってしまう児童がいること。しかし、最近は就学率が上がってきてている。

カンボジアの貧困を削減するためには、教育の普及が重要である。事例で取り上げた、タサエン村では、認定NPO法人「IMCCD国際地雷処理・地域復興支援の会」が村を発展させるための復興支援や学校の建設などをしている。このような取り組みは将来、カンボジアの貧困や教育の普及に大きく貢献するだろう。

氏名	山口 真奈	学籍番号	P013037	ゼミNo.	13
----	-------	------	---------	-------	----

テーマ	ソフトテニスの歴史と世界普及について
-----	--------------------

ソフトテニスは日本で生まれた独自のスポーツで、今では生涯スポーツとして老若男女に親しまれている競技である。しかし、世間一般的には「テニス」といったら硬式テニスをイメージする人が多いだろう。そこで、日本で生まれたソフトテニスの魅力をもっと多くの人が知る必要があるだろう。どのようにソフトテニスが生まれ、広まっていったのかその歴史を辿り、世界普及の現状や、今後の発展について研究していくことは大変意義がある。

第1章では、ソフトテニスのルールと歴史について論じた。ソフトテニスは英国から伝わった「ローンテニス」(硬式テニス)が元となって生まれた日本独自のスポーツである。当時上流階級のスポーツとされていた硬式テニスを日本でも楽しみたいと、坪井玄道がゴムボールでテニスをすることを考えたことがソフトテニスの始まりである。ソフトテニスは硬式テニスと比べボールが柔らかく、身体に負担がかかりにくい。また、一試合のゲーム時間が短く、点数の数え方も簡単なため、幅広い年代の人がプレイを楽しむことができる。ソフトテニスは東京高等師範体育専科の卒業生が全国の教員として赴任していき、ゴムボールをつかったテニスを全国に広めていった。やがて中学校、高校などの学校体育でソフトテニスが取り入れられ、現在のソフトテニスの人気に繋がっていると考えられる。

第2章では、ソフトテニスの現状について考察した。日本ソフトテニス連盟会員登録数をもとに、日本の競技人口を調べ年代別にそれぞれの特徴について調べた。また、日本だけではなく、世界のソフトテニスの現状を調べ、地域ごとの普及の現状や特徴について論じた。日本では、ソフトテニス会員登録数の約60%が中学生である。競技人口は年齢が上がっていくごとに少なくなり、若者の競技離れも問題になっていることが分かった。世界では、地域によって活動歴、競技人口、実力に大きな差があり、世界的にソフトテニスが普及しているとは言い難い状況である。

第3章では、「ソフトテニス長期基本計画2012」を調べ、世界普及のために行われている活動について論じた。「長期基本計画2012」の中の一つである「ソフトテニスの国際振興事業」では、ソフトテニスを世界に広めるための活動が行われている。様々な活動により、世界各国でソフトテニスが親しまれるようになったが、まだソフトテニスが世界的に普及しているとは言い難い状況である。普及活動といつても、そのためには多大な費用がかかり、各国でも競技人口の減少やチームを維持するための費用がかかる。一つのスポーツを世界に広めることはとても難しいことであることが分かった。ソフトテニスをオリンピック種目にするためにはアジア以外の国での競技人口の増加、競技の認知が必要だと考える。

氏名	何娟	学籍番号	P013503	ゼミNo.	13					
テーマ	中国におけるフェミニズムと女性の地位に関する研究									
<p>辛亥革命以降、欧米のフェミニズム思想は中国民主革命を通じて中国に伝わってきた。現在中国では、社会主義市場経済が進むに伴い、社会が激しく変動している。中国の女性を取り巻く社会状況も大きく変わっている。中国のフェミニズム運動は100年以上の歴史を持つが、現在の中国の女性の状況は差別から解放されたとは言いにくい。中国におけるフェミニズムの発展経緯はどのようなものであり、欧米のフェミニズムと比べると、どのような相違点があるのか。また、現在中国では、女性を取り巻くどのような問題があるのか。</p>										
<p>本論文では、以上のような問題意識から中国におけるフェミニズムと女性の地位に関して考察した。</p>										
<p>第一章では、フェミニズムの起源について論じた。フェミニズムの欧米における発展は3つの段階に分けることができる。フェミニズムの第一波はフランス革命と同時に起きた。第二波は20世紀初めから1960年代までの間で起こった。第三波は1970年以降のことである。</p>										
<p>第二章では、中国におけるフェミニズムの発展について論じた。中国におけるフェミニズムの発展過程は大きく4つの段階に分けることができる。空白期（中国封建社会）、導入期（20世紀初めから新中国成立まで）、激変期（新中国成立から1980年代）、発展期（1980年代以降）である。欧米のフェミニズム思想が中国に伝わったのは辛亥革命以降である。辛亥革命の先駆者たちは欧米の先進的な思想と理念を吸収し、国を苦難から救う方法を探求した。その中で、フェミニズムの思想も含まれていた。1949年、中華人民共和国が成立した。その成立当初から憲法は男女平等を規定し、女性の社会的地位を認めその保障に法的根拠を与えた。しかし、男性が積極的に婦女解放運動を指導した結果、女性たちは自然に男性に従い、知らず知らずのうちに男性の立場から自分の存在価値を認識するようになった。その結果、フェミニズム思想の初心と反し、女性たちの主体意識を目覚めさせることができなかつた。1980年代から、中国では改革開放政策の進展に伴い、フェミニズムは発展期を迎えた。社会の様々な領域で男女平等が浸透した。</p>										
<p>第三章では、欧米と中国におけるフェミニズム運動の相違点を説明した。歴史の背景と発展段階の視点から両者を比較した。欧米のフェミニズムは進んだ段階にあるが、それに対して、中国は初期の段階にある。現在中国では、女性たちは様々な問題に直面している。</p>										
<p>第四章では、中国における女性を取り巻く問題を検討した。現代中国では、政治、教育、家族、財産、労働、人身の各方面において、男性と女性の間に大きな格差があり、女性差別が依然として存在している。フェミニズムを発展させ、男女平等の社会になるために、政府と個人もやるべきことが多い。</p>										

氏名	白楊	学籍番号	P013504	ゼミNo.	13
テーマ	アニメ産業の発展を促進する要因 ～日中アニメ産業の事例から～				
<p>日本はアメリカに次いで最大のアニメ大国である。日本のアニメは海外で高く評価されている。アニメは海外で既に日本の文化として認められている。日本のアニメ産業の発展をこれまで促進させてきた要因は何だろうか。中国のアニメの歴史も長く、近年、急速な進展を見せている。しかし、日本のアニメと比べると、まだ世界に広く認知されていない。中国のアニメ産業を発展させるために、日本のアニメ産業発展の経験を参考する必要がある。</p> <p>本論文では日中のアニメ産業発展の歴史とその発展の要因について論じた。</p> <p>第一章では、アニメやアニメ産業の定義、日中アニメ産業発展の歴史について考察した。アニメ産業とはアニメの製作、経営、放送、派生製品の開発と経営という五つの部分から成り立っている。日中両国ともアニメ産業の発展の歴史は長い。優秀な作品もたくさんあった。しかし、中国では文化大革命のため、アニメは十年間で皆無の状態になった。日本はアニメの制作から派生商品の販売まで産業チェーンを整えてきた。一方、中国のアニメ産業の発展は人材や技術の不足などのため、非常に遅れた。</p> <p>第二章では、日本のアニメ産業が世界に普及した要因や中国のアニメ産業への影響について研究した。日本のアニメそのものの魅力、日本のアニメビジネスの広がり、日本の社会環境と日本政府の政策があったため、日本のアニメは世界に普及していったのである。中国では日本のアニメは数多く放送されるようになり、中国のアニメ産業にショックをもたらした。それと同時に、中国政府は自国の産業チェーンの不完備に気づき、様々な政策を出した。漫画家や製作者なども日本のアニメから強い影響を受けた。日本のアニメ産業は中国アニメ産業の発展に大きな役割を果たした。</p> <p>第三章では、近年における中国のアニメ産業の発展とその要因を述べた。近年、中国のアニメ産業の発展のスピードはとても速く、順調に発展してきていると言える。それは政府が出した様々な政策、企業側の投資や国民の支持があるからである。しかし、アニメ制作モデルの革新、人材の育成、産業チェーンを整えることなど課題も残されている。</p> <p>大衆の娯楽の多様化とデジタル技術の革新に伴い、アニメ産業は新たな発展の時期を迎えている。そして、世界経済におけるアニメ産業の地位も急速に高まっている。現在ではアニメ産業は多くの先進国において重要な基幹産業の一つになっている。今後、中国においてもアニメ産業のさらなる発展が期待できるだろう。</p>					

氏名	李 夢婷	学籍番号	P013505	ゼミNo.	13
テーマ	グローバリゼーションとその影響 —砂糖の歴史を例として—				
<p>「世界商品」とはいったい何であろうか。「世界商品」は世界中で、広い需給関係をもって取引される商品の総称である。言い換えると、どこでも求められる商品である。この意味からは現代の石油や自動車も「世界商品」である。川北は毛織物と綿織物を比べて、「世界商品」の意味を説明した。分厚い毛織物がインドやアフリカで受け入れられない。これに対して、綿織物の生産の中心がインドであり、ヨーロッパでも綿織物が好まれた。したがって、毛織物より広く受けられる綿織物が「世界商品」である。</p> <p>第一章では、砂糖がどのように「世界商品」になったのかということを明らかにした。世界商品とは世界中に需要のある商品である。誰でも砂糖がほしいので、砂糖は世界商品の性格を持つ。砂糖はイスラム世界から、ヨーロッパに伝えられ、やがて、世界各地に伝えられた。</p> <p>第二章では、ヨーロッパ諸国がカリブ海で砂糖プランテーションを作り、砂糖貿易と奴隸貿易を行ったことについて論じた。砂糖を大量生産するために、砂糖キビの栽培に適するカリブ海で多くのプランテーションが作られた。そこでは、アフリカから連れられた黒人が奴隸として働かされた。砂糖のプランテーションと奴隸貿易がアフリカ、ヨーロッパ、カリブ海の三つの大陸の経済に大きな影響を与えた。</p> <p>第三章では砂糖を例として、グローバリゼーションの功罪について論じた。グローバリゼーションが進むと、人、商品、資本とともに、様々な国や地域の文化や情報も行き来するようになった。グローバル化は経済のグローバル化だけではなく、政治、社会、文化にも影響を及ぼしてきた。</p> <p>砂糖は大航海時代には珍しいもので、高い商品であり、その貿易は膨大な利益をもたらした。そのため、ヨーロッパ諸国の砂糖市場の争奪戦が激しくなり、国家間の競争も過酷になった。ヨーロッパ、アフリカ、カリブ海の貧富の差も拡大していった。植民地時代において植民地の支配国が黒人奴隸を利用して砂糖を生産したことは、現在のグローバリゼーションにおいて先進国が発展途上国の人材を労働力を利用して商品を生産することと構造的に同じである。グローバリゼーションは様々な面で、世界を一つにつなげる良い側面がある一方で、世界に貧富の差を拡大させる悪い側面もある。</p>					

氏名	井上 綾菜	学籍番号	P013003	ゼミNo.	14
----	-------	------	---------	-------	----

テーマ	接客場面での笑顔の印象
-----	-------------

### 目的

本研究では、SD 法を用いて文脈の影響を受けた笑顔の印象を明らかにした。その際、接客場面を想定した文脈を 2 つ作成した。一つは、購入希望者から尋ねられた商品について説明を行う場面(以下、商品を説明する場面)、もう一つは、購入した商品に不良があったことを店員が購入志望者に理由を説明する場面(以下、クレームに対応する場面)である。

### 方法

**刺激の作成** 本学の女子大学生 5 名がモデルとなった。カメラとモデルとの距離は 60cm とし、撮影範囲は頭頂部から胸元までとした。その撮影した映像は、15 秒程度であった。映像は、縦 13cm × 横 19cm に編集を行った。

**刺激の確認・選別実験** 本学の女子大学生 10 名を対象に実施した。

**【質問紙】** 場面は、「ネガティブまたはポジティブな場面のどちらと感じたのか」、表情は、「笑顔であったか、真顔であったか」を -5 から 5 の間で評価した。0 は、どちらでもないとした。

**t 検定**(商品を説明する場面・クレームに対応する場面)を行ったところ有意差がみられた( $t(47)=4.3, p<.000$ )。表情は、笑顔と真顔の平均値の差分が少なかったモデル 3 名を本実験で用いた。

**本実験** 本学の女子大学生 31 名を対象に実施した。刺激の確認・選定実験で選定したモデル 3 名の映像を無作為に呈示した。

**【質問紙】** 伊藤(2013)の笑顔の印象を評定する 15 対の形容詞対を用いた。

### 結果

欠損値を含む 3 名を除く 28 名のデータを分析に用いた。各尺度に対し最小二乗法で因子分析を行った結果、4 つの因子が抽出された(累積寄与率 70.64%)。第 1 因子は「好感度」(代表的な形容詞: たくましい、明るい)、第 2 因子は「活力性」(若々しい、積極的な)、第 3 因子は「見た目」(元気な、美しい)、第 4 因子は「態度」(思いやりのある)と命名した。次に、4 因子を独立変数、印象評価得点(質問紙で得たデータ)を従属変数として表情(笑顔・真顔) × 場面(商品を説明する条件・クレームに対応する条件)の対応のある二要因の分散分析を行った。

「好感度」「活力性」「見た目」因子で交互作用がみられた。多重比較を行ったところ、商品を説明する場面の笑顔とクレームに対応する場面で笑顔の印象が異なることが明らかにされた。具体的には、クレーム対応場面の方が、より「好感度」「活力性」「見た目」「態度」因子得点が高かった。

### 考察

細川(2013)では、笑顔と文脈の関係について明らかにされなかったが、本研究では、笑顔は文脈の影響を受けることが明らかにされた。中でも、クレームに対応する場面での笑顔が商品を説明する場面での笑顔より肯定的に受け取られた。その要因の一つとして、接客場面での笑顔が肯定的に受け取られやすい場面であったことが考えらえる。また、結果より設定した場面が思いやりのある場面であったため、クレームに対応する場面での笑顔が肯定的に受け取られたことも考えられる。

氏名	小山嘉奈子	学籍番号	P013016	ゼミNo.	15
テーマ	「女子力」の背景				

近年、「女子力」という言葉が浸透している。本稿では、この「女子力」という言葉の意味合いが変容していった背景について考察した。

第1章では、「女子力」の意味の変容を順を追って述べていった。「女子力」という言葉を始めて使ったのは、日本の漫画家である安野モヨコである。安野は、女性の美への追求を重要視し、それを発揮することを「女子力」であると表現している。2009年に「女子力」という言葉がユーキャン新語・流行語大賞にノミネートされた時は、「女性であることを楽しむ積極性や、女性特有の魅力を高めていく前向きな姿勢を指すようになった」といった意味が追加されている。更に、近藤(2014)は、2000年当初から現在に至るまで、「女子力」の意味合いが、男性指向から自分指向、女性指向から仕事指向に広がったことを指摘している。「女子力」の意味はこのように変容している。

第2章では、2つのアンケート調査を手掛かりとして、従来の「女らしさ」を「女子力」と比較した。高井・岡野(2009)らが行ったジェンダー意識についてのアンケート調査では、人々のジェンダー意識が年月を経てもあまり変化していないことを指摘している。柘植(2013)が行った「女子力」のアンケート調査では、「料理」という単語が挙がりやすい傾向と、男性同士でも「女子力」という言葉を褒め言葉として使用している特徴がみられた。当初、「女子力」という言葉は、従来の「女らしさ」が根底にある表現であったと言えるが、意味合いが少なからず変容してきていることから、「女子力」は従来の「女らしさ」に直結しないと言えた。

第3章では、「女子力」の広がりの背景について考察した。まず第1節では、「女子力男子」という言葉が示すような男性への広がりをとりあげた。「女子力男子」という言葉が広がっているのと比較すると、「男子力」という言葉は浸透しているとは言えないことに注目した。その背景に、従来の考え方とは異なる男性像が現代では容認されるようになったことを挙げた。第2節では、「女子力」がここまで広がりをみせたことを「流行」で説明できるかということについて述べていった。「女子力」には、「流行」を構成する要素が多く見出されるものの、その特質である「一時性」がない。そのため単に「流行」とは言い難く、その背景に、現代のライフスタイルからの影響があると考えた。第3節では、その価値観・生活実態の変化について述べていった。一つめに、働き方が変化して女性の就業が増えたことを挙げた。二つめに、消費行動が変化して男性にまで拡大したことを挙げた。三つめにソーシャルメディアが普及して女性からの情報発信力が高まったことを挙げた。これらのことから、「女子力」という言葉から、多様なライフスタイルを容認する世間の意識変化が窺えると言えた。「女子力」の意味の変容には、女子的なものに対する価値観が従来よりランクアップしたこと、女性像の多様化が進んだことが関連すると言える。

氏名	白尾 実穂	学籍番号	P013021	ゼミNo.	15
テーマ	現代社会とアイドル				
<p>1960年にカラーテレビが誕生し、ニュースやアニメ、ドラマなどさまざまな番組が放送されていった。1971年にテレビ史上初の公開オーディション番組「スター誕生」が放送開始されたことは「アイドル」の存在が世間に浸透していくきっかけとなった。その後、CD、携帯電話、音楽配信サービスなどさまざまな媒体によって人々の生活の中にアイドルに接する時間が増えていった。本研究では世間に「アイドル」というジャンルが誕生し、メディアへの露出が増えたことにより、ファンや社会にどのような影響を与えていたのか、また現代社会での「アイドル」の存在は意義を持つのかについて考察した。</p> <p>第1章では、アイドルの歴史について述べた。1970年代から、現代までのアイドルの歴史をたどってみると、1980年代が主にソロアイドルの全盛期であり、1990年は、モーニング娘。やSMAPがデビューしたことにより、2000年代のグループアイドル全盛期となる基盤を作った。もう一つ大きな違いは、現在とかつてでは、基本的なアイドルのありかたが違うことである。かつては、テレビを通して人を惹きつける存在が基本的なアイドルだったが、現代のアイドルはテレビにも出るが、直接会いに行くこともできる。その点が、かつての歌謡曲アイドルとは本質的に違う。かつてと比べると今はコンサートや握手会など、ファンと空間を共有する機会が多い「現場性」が強い。現代は「会いに行けること」が一番の商品となっている。</p> <p>第2章では、アイドルとファンの繋がりについて述べた。近年のスマートフォン保有率の増加により、アイドルやファンがSNSを利用するようになった。そのため、かつてと比べてアイドルに応援の気持ちを伝える機会は増えた。そして、現代のグループアイドルとファンの関係の大きな特徴に「ファンがアイドルを育てる」という点が挙げられる。特に2006年にデビューしたAKB48は、「選抜総選挙」などの独自の戦略により、その存在はファンだけでなく、世間にも広まっていった。ただし、ファンとしての応援の仕方（コンサート・イベントで純粋にアイドルの応援だけをする）が、少し距離の近すぎるものとなってしまっていて、そのための問題も生じている。</p> <p>第3章では、アイドルとジェンダーについて述べた。女性アイドルグループは、若さを保ちながら活動するために、「卒業制度」を用いてグループの長期に渡って活動させる。女性アイドルグループが女性にも支持されるようになったのは、ライブアイドル化による、親しみやすさが生まれたことにより、憧れや親近感を持ちやすくなつたためであると考えた。</p> <p>最後に、現代のアイドルがグループ化している理由は、誰もがなんらかの組織・団体に所属している今日、アイドルが自分のグループで自らを確立するために日々切磋琢磨している姿に、共感を得る者がたくさんいるからではないかと考察した。</p>					

氏名	田中理菜	学籍番号	P013026	ゼミNo.	15
----	------	------	---------	-------	----

## テーマ 愛媛方言の現状とその活性化方策

方言とは、暖かい・親しみやすいコミュニケーションである。しかし、日本では、過去に方言を使うことが許されない時代があった。また、現在も方言が減っていると言われている。今の愛媛に住んでいる人は方言についてどう感じているのか。本稿では、方言の現状について述べた後、方言、愛媛方言、愛媛に住んでいる人の方言意識（アンケート調査）、国語の方言教育について考察した。最後には具体的な方言教育の具体例を提案した。

第1章では、方言の概要について述べた。現在、方言は減少傾向であることがわかつており、都道府県別共通語形の分布率では、愛媛県は26位で37.9%である。減少の背景として、教育・社会の変化が指摘されている。

第2章では、愛媛方言についてアンケート調査結果に基づく考察を行った。松山大学、愛媛大学、松山東雲女子大学・短期大学、学生の家族、および愛媛在住の方を対象とした。354件の回答を得た。主な結果として、①全体では愛媛方言、愛媛が好きと答えた人がほとんどであり、現在愛媛に住んでいる人は愛媛への愛着が高かった。②アンケート対象者を20代以下と30代以上に分けた。年代別で、比べてみると20代以下のほうが愛媛方言に対する意識は高かった。③方言の使用状況はテレビの利用状況は関係がなかった。④方言教育の経験があると答えた人は、ないと答えた人より方言の愛着・後世に残すべきと答えている人が多かった。

その結果を踏まえ、第3章では、方言教育に焦点を当てた。まず、方言教育がどう変わってきたか考察した。国語の学習指導要領の変化は、方言を直す指導から理解する指導へと変化していた。現在の学習指導要領には、「小学5、6年生で方言と共通語と方言との違いを見つけ理解し、また、必要な場合は共通語で話すようにすること」と記されている。

次に、過去に方言禁止等があった地域において取り組まれている方言保存の事例をとりあげて考察した。諸地域の方言教育、および愛媛の方言教育の例を参考として、方言を受け継いでいくためには、小学生の頃の方言教育で生徒が主体的に学ぶべきであること、また、地域独自で方言継承の取り組みを行うことが大切であると考察した。

最後に方言の活性化方策として、方言を学ぶ授業を取り入れ生徒が主体的に学ぶ授業を設けること、ならびに地域独自の方言を守る取り組みがあることにより、方言が継承されていくと提言している。

教育を充実させ方言を楽しく学び、共通語だけでなく方言という地域性のある言葉が将来、受け継がれてほしい。

氏名	村上裕紀	学籍番号	P013035	ゼミNo.	15					
テーマ	児童虐待を無くすためには、何が必要か									
近年、児童虐待についてのニュースが多く報道されている。増え続ける児童虐待の背後にどのような背景や原因があるのだろうか。さらに、児童虐待のニュースと同時に議論される、何が暴力であり虐待なのかという認識にも問題があるのではないかと考え、考察した。										
<p>第1章では、児童虐待の現状について述べた。厚生労働省によると、児童虐待とは、身体的虐待・性的虐待・ネグレクト・心理的虐待の4種類に分類される。2004年度からの児童相談所の相談対応件数は、右肩上がりに増加し続けている。そして、虐待者別に見たとき、実母が57.3%と最も多く、次いで実父が29.0%となっていたことに注目した。</p>										
<p>第2章では、大村、岩谷（2003）が示した児童虐待の背景を手掛かりに、発生原因と虐待の関係性について考察した。その結果、児童虐待発生の原因は一つだけでなく、子育て環境の変容、母親の育児負担、孤立、貧困と多様であることが分かった。これらの原因が、母親の抱える負担や、児童虐待の発生に繋がっていると考えられる。また、これらの要因が現在も引き続き存在していることも確認した。</p>										
<p>しかし児童虐待発生の背景には以上の四つだけではなく、「虐待」というものに対しての捉え方も関係していると考えられる。つまり、日本ではしつけと虐待の境界が曖昧になり、虐待をしつけとして容認する風潮があるのではないかと考えた。そこで、第3章では、2016年5月に北海道の山中にて発生した、しつけと虐待の境界を考えるきっかけとなる事件を取り上げ、この事例に対する三人の専門家の意見を考察した。さらに、子どもとの関わり方についてエーリッヒ・フロムの『愛するということ』（1956=1991）の考え方を交えて述べた。そこで、相手を他者として「認める」こと・他者と自分が「対等」であること・他者への「配慮」が不可欠であることが重要であると考えた。</p>										
<p>これまでの章を受け、おわりにでは、日本はこれから児童虐待を防止するためにどうすれば良いのだろうかということについて述べた。今一番対応が急がれるのは、母親の育児負担の軽減だと考えた。なぜなら、虐待者の内訳を見ると最も件数が多いのは実母であるからだ。</p>										
<p>また、しつけを虐待へと変化させないためには、親が自分の行為を子どもの立場に立って考えることが必要だ。そして、相手を尊敬する気持ちや、理解しようと積極的に気に掛ける姿勢、つまり愛するということが必要である。</p>										
<p>そして、親が自分を愛することも忘れてはならない。人を愛するということの根本にある大切なことが、自分を愛するということだ。まず親自身が自分を大切にしていないと、子どもを大切に思う気持ちを抱くことは難しい。</p>										
<p>第2章の第2節では、親は孤独や不安に押し潰されそうになりながら子育てと向き合っているということについて述べた。このことから、親が自分のことを大切にし、心の余裕を持って、ブレーキを掛けることが出来れば、追い詰められた親が子どもに虐待するというケースは減少すると考えられる。</p>										

氏名	森田穂野香	学籍番号	P013036	ゼミNo.	15
テーマ	日本人の中にある富士山				

本稿では、日本一の標高を誇る富士山について、主に富士山の存在意義が時代と共に変化してきたのか、そうでないのかという視点から考察した。

まず第一章では、標高、位置、火山としての情報から、頂上付近の国有地化等を中心として、富士山の基本情報を述べた

第二章では、芸術の源泉としてのフジをテーマとして、富士山の存在が多くの文化人に与えた影響と、時代によって変化する描写の違いを、年代を追って考察した。第一節を日本文学においてのフジとし、主に竹取物語・万葉集・俳句から、そして第二節でのテーマを図像としてのフジとし、主に絵画、浮世絵から考察した。

第三章では富士信仰をテーマとして、日本人が古来から富士山を神とし、崇め、信仰をしていた理由から、その後時代変化とともに形成された民間信仰等をみた。富士信仰の基礎は、日本人の特性であるアミニズムにあるが、そこから三つの信仰形態に変化した。遠くから富士山を拝み、崇拜する「遥拝」、実際に山に登るという行為が信仰となる「登拝」、文学や絵画等の芸術の精神にあらわれる場合というものである。これらはその後爆発的に広まった民間信仰に繋がっている。

第四章ではもう一つの側面である、観光の観点から富士山を考察した。観光資源としての富士山を考える上で、世界遺産への登録は重要な出来事である。そこで本章では、世界遺産への登録の経緯とその課題について考察した。主に、現在の富士山が抱える課題のうち「文化的価値の保全」と「環境保全」についてである。そもそも富士山が世界遺産に登録されたのは、その文化的な価値を認められたからである。しかし、今、富士山が抱えている問題は、自然環境や保全の問題だけでなく文化遺産としての歴史が廃れていく恐れにまで及んでいる。文化的価値が認められて世界遺産登録となつたその価値を、後世に伝えていくことが重要なことである。

以上、芸術、信仰、観光資源の三方面から、章を追って富士山の歴史や現状を見てきたが、時代が流れていくにつれ日本人にとって富士山の存在意義は変わったのか。これは変わった部分と変わらない部分があると私は考える。例として、現在の富士山は観光目的を主とした登山者がほとんどであるが、昔は山を神とし、信仰者による登山であった。つまり、時代と共に「神」から「人に近いもの」へと変化したことである。その一方、変わらないのが日本人の富士山の対する思いである。どの時代においても美術作品で富士山が出てこない時代はない。その存在感は日本のシンボルマークとして在るよう、いつの時代も日本人の心の中にあるのだ。

氏名	渡部 奈里	学籍番号	P013040	ゼミNo.	15					
テーマ	住居の変容と家族のつながり									
<p>家とは、その時代の家族のあり方や価値観が表される“器”でもあるが、機能的に作られた家によって家族の考え方やあり方が変えられていく“型”にもなりうる。つまり家は、家族のあり方に合わせて造られるものでもあり、反対に家族のあり方に影響を与えるものもある。この論文では家族の“規範”や“考え方”的変化に家がどのように影響され、変化していったのかを述べている。「伝統的な農家の住居」と「戦後のサラリーマン家庭の住居」の関係について取り上げ、現在の家族規範が住まいにどのように関わっているのかを考察していった。</p>										
<p>まず伝統的な住居の例として愛媛県にある伝統的な住宅四つを事例に挙げて考察した。昔の住居は、組寄り、ムラ寄合いにも利用される公共的な空間である。そこにおける人と人との触れ合いと意思の疎通は、日常的なコミュニケーションを成立させてきた。また、家の中の関係では“いいろり”のある部屋で調理、食事、団らん、ときには就寝など生活のためのあらゆる役割を担っていたため、自然と家族が集まる場となっていた。</p>										
<p>次に、現代の住宅の特徴を考えた。現代の典型的な間取りの例として、1960年代の集合住宅と一戸建ての住宅を取り上げ、戦後の住宅の特徴として四つをあげた。第一に、家族の暮らしに価値を置いた住宅になっていることである。二つ目は、間取りが夫婦と子ども2人で構成された家族が生活する想定で考えられているということである。つまり、大量生産された住宅が核家族を入れる“器”になったのである。三つ目は、住居の中でも公と私の区別が生じ、公室（食事室）と私室（寝室）が分かれたことである。四つ目は、プライバシーが重視されるようになったことである。</p>										
<p>戦後の住宅は、住宅不足により狭い小さな家をたくさんつくる必要があった。そのため、狭い空間をいかにして効率的に活用するかに重点が置かれ、狭い空間を有効活用できる2LDKの間取りが浸透した。一戸建ての住宅では「中廊下型」の間取りが多く採用され、廊下によって食事室やそれぞれの個室が区切られ、家族個人のプライバシーが確立された。それにより家族団らんはそれほど重要視されなくなってしまった。</p>										
<p>しかし、コミュニケーションが希薄になっている時代だからこそ、家族団らんの時間を大切にしなければならない。家は家族のあり方に合わせてつくられるものでもあれば、家族の在り方に影響を与えるものもある。住宅のあり方が変われば家族の暮らし方もえることができると考える。そのために住宅に工夫が必要である。住宅が家族を容れるためだけの単なるハコではなく、家族内のコミュニケーションを重視した住宅にするべきである。</p>										

松山東雲女子大学 人文科学部 卒業研究抄録集

発 行 2017年1月

編 集 松山東雲女子大学 人文科学部

〒790-8531

愛媛県松山市桑原3丁目2番1号

TEL (089)931-6211

印 刷 明星印刷工業株式会社

〒790-0056

愛媛県松山市土居田町500番地

TEL (089)971-7111